586-312
1200501524218
586
312

新興ドイツ魂

池田林儀著

東京 萬里閣書房版

586-312

はしがき

◇復興獨逸と繁榮亞米利加！

現代世界人の眼は、この二國の上に光る。

◇獨逸の復興の原因を探るといふことは、今日、心ある人の非常なる興味と注意とを喚起しつゝある問題である。

◇獨逸は復興しつゝある。恐ろしい勢で復興しつゝある。どうして復興したか？　鈍重牛の如き獨逸民族が、亡國の如き慘敗の窮苦に堪へて、見事に彈ね返つた。一事の改良に、父子相傳三代もかゝるといふ、間のろい獨逸人が、近々十餘年にして、世界を驚異させる復興ぶりを示した。その復興作業はどんなものか。その原動力は那邊にあるか。

◇國民生活の第一作動は、國民生活の整調訓練に始まる。獨逸の國民生活の整調訓練の基調は

第一　祖國觀念（愛國忠誠）

第二　義務觀念(勤勉努力)
第三　自治訓練(安寧秩序)

の三者である。これが獨逸の國民生活の原動力である。
作業のハズミ車が轉回した。そのハズミ車となつたものは何であるかといへば、

第一　婦人の臺所立直し運動
第二　青年の復興第一線運動
第三　産業上の無駄排除運動

の三である。卽ち、復興作業を促進せしめた中心勢力なるものは、青年と婦人と産業統帥者であつた。本卷はこの三者の意氣込みを主として述べたものである。

◇本書中「獨逸復興の原動力」と題する一篇は、植村澄三郎氏の勸奬により、東京中央放送局、將官談話會、報知新聞社、日本青年館其他における講演を蒐集整理したもので、その中數章は、外交時報、政治と經濟、キング等に揭載したことがある。

◇本書中、重複した記事があるが、特にこれを削除せずにおいた。
◇私は獨逸のことを述べる時に、主として胸中に考へてゐることは日本のことである。本書中獨逸への讃辭は多く日本への不滿であり、獨逸に對する批難はすべて日本への讃辭である。本書を讀まれる方は、日本を讀むつもりで讀んでいたゞきたいと思つてゐる。これがお願である。

昭和五年七月

中里の假居にて

著者

新興ドイツ魂　目次

第一　獨逸復興の原動力……一

總論　復興精進……一

一　不斷の努力！不斷の前進！……一
二　宰相の飛行機利用……一
三　青年科學研究所……二
四　復興と婦人の活動……三
五　臺所の立直し……五
六　性道徳の頽廢防止運動……六
七　油斷を許さぬドイツ……八
八　復興の中堅は青年……九

第一章　復興の三大原動力……一二

一　天國の門番と亡者……一二
二　蛔の入つたビール……一三
三　一事の改良に三代かゝる……一五

四　全能力を發揮した戰時の獨逸……一九
五　負けた獨逸の慘めな姿……二〇
六　復興の四大原動力……二三
第二章　婦人の臺所立直し運動……二四
一　八寸會……二四
二　奢侈防止の戰士は婦人……二四
三　負債の重さは責任の重さ……二五
四　無駄より有益へ……二四
五　怠け者退治……二七
六　廢兵報恩デー……二九
七　溫かく美くしき節約生活……三〇
八　全獨逸を緊張させる婦人の活動……三三
第三章　青年の復興第一線運動……三四
一　ワンダーフオグル……三六
二　ワンダーフオグルの標幟……三八
三　ドイツ男女青年團の誕生……三八
四　味のある訓練ぶり……三九
五　我等は第一線の戰士也……四〇
六　過ぎたるは及ばざるに加かず……四二
七　全ドイツ青年を貫くもの……四四
八　復興作業と青年男女の活動……四五
九　叩き拔かれて發達した青年運動……四七
一〇　國家の大殿堂を築く青年……四九
第四章　産業上の無駄排除運動……五一
一　ベルリン大學の創設……五三
二　復興促進車の活動……五五
三　大目玉で事業を統裁したスチンネス……五六
四　産業上の浪費に對する戰鬪……五七
五　大衆常識としての浪費退治宣傳……五八
六　生産經濟の鐵則は勞働の節約……五九
七　産業合理化運動の促進……六一
八　合理化を行つた工業の例……六三
第五章　獨逸人の祖國觀念……六六
一　共和國といふ文字を使はぬ獨逸人……七〇

二 祖國は何處にありや……七一
三 祖國觀念と鄕土觀念……七三
四 ドイツ至上主義……七四
五 民族永遠の生存卽祖國發展……七六
第六章 獨逸人の義務觀念……七七
一 各人がこつこつやつてゐる……七七
二 身についたものを教育する……七八
三 義務心に訓練された國民……八〇
四 義務思想を說いたカント……八二
五 權利と義務とは同一分量也……八三
第七章 獨逸人の自治訓練……八五
一 スタイン……八五
二 兵は劍に！農は鋤に！……八七
三 人物分布の公平な獨逸……八八
四 徹底した自治訓練……八九
第八章 最近に見た獨逸の印象……九一

一 外國を見ることは六ケ敷い……九一
二 外國を見ることは日本を見ることである……九二
三 戰爭直後のドイツの窮狀……九三
四 生活に對する訓練と打算……九五
五 ウイルトの長所とラーテナウの長所……九七
六 產業合理化運動の根本精神……九八
七 力一杯の生活をしてゐる獨逸人……一〇〇
第九章 航空事業の驚異的發展……一〇一
一 久し振りの伯林の印象……一〇一
二 オイケンの警句……一〇二
三 人間の頭の偉大さ加減……一〇五
四 頭の勝利か人間の勝利か……一〇七
五 頭に賴らぬ人の勝利……一〇八
六 優秀なる飛行士の養成……一一一
七 擧國一致の飛行會社……一一三
八 文明の利器の利用に勇敢……一一四
九 ドイツの復興は工場から……一一五

一〇 婦人と奢侈防止の運動……一一七
第十章 復興獨逸と新興獨逸……一一八
一 獨逸語を話すのは兵卒と馬……一一八
二 獨逸語文明の擡頭は十八世紀……一一九
三 復興作業は修繕作業でなく新築作業……一二二
四 ヴエルサイユ條約と復興作業……一二三
五 復興獨逸でなく新興獨逸……一二四
六 合理化運動の別箇の意義……一二五
結論 復興批判……一二六
一 窮達の痛ましき記念像……一二七
二 復興作業の基礎を固めた通貨膨脹……一二九
三 生産力を增した農業……一三一
四 工業方面鑛業方面の復興……一三四
五 レンテン銀行と産業統帥者の結合……一三七
六 叩き拔かれて發達した青年運動……一三八
七 合理化運動を促進した企業合同……一四〇
八 肥大なるスチンネス系統……一四三

九 國家經營の基本政策としての合理化運動……一四四
第二 慘ましき戰敗の姿……一四七
一 世界の輕侮と惡罵と嘲笑……一四七
二 革命氣分漂ふ伯林に入る……一五三
三 泥棒と淫賣のふえる社會……一五九
四 戰敗が招いだ物質的打擊……一七一
第三 復興途上の獨逸管見……一八八
一 一と息ついたドイツ……一八八
二 若きドイツ及ドイツ人……一八九
三 義務觀念の發達……一九一
四 自治制度の發達……一九四
五 大統領、議會、參議員、經濟會……一九八
六 ドイツの政黨……二〇〇
七 企業合同の發達……二〇三
八 民族的統一運動……二〇五
九 反動運動と祕密結社……二〇七

一〇 ドイツの普通教育……一〇九
二一 ドイツの勞働者……一一二
二二 ドーズ案とドイツ……一一四
二三 ロカルノ條約……一一九
第四 復興獨逸と愛國思想……一二一
一 復興運動と青年運動……一二一
二 自由の母……一二五
三 全ドイツ體育協會……一二八
四 ドイツ人と愛國心……一三一
第五 應急勞働の基礎觀念……一三六
一 中産階級の抗議……一三六
二 クルップの勞資協調……一三七
三 テビニツシエ・ノトヒルフエ……一三九
四 應急勞働の運用……一四〇
五 協調的精神の收獲……一四一
六 國の富はエネルギー……一四三

第六 ラーテナウの獨逸革命觀……一四五
一 ドンブロフスキーの豫言……一四五
二 血が物を言つてゐる……一四六
三 ラーテナウの革命觀……一四八
四 國有化と民衆化……一四九
五 大ドイツと國際競爭心……一五一
第七 ラーテナウ暗殺の前後……一五四
一 ヨハネ祭……一五四
二 ラーテナウ暗殺さる……一五六
三 議會の狂亂……一五八
四 ヘルフエリツヒの演說……一六一
五 ラーテナウの略歷……一六二
六 外交家としてのラーテナウ……一六四
七 實業界に於けるラーテナウ……一六七
八 著述家としてのラーテナウ……一六九
九 愛國者としてのラーテナウ……一七〇

一〇 ラーテナウ哀悼議會……二七一
一一 勞働者の憤怒……二七六
一二 ラーテナウの國葬……二七七
一三 國葬當日の勞働者……二八一
一四 ドイツ共和國擁護運動……二八三
一五 國粹黨とバイエルン……二八五
一六 大統領のバイエルン訪問……二八七
一七 マルク相場の暴落……二九〇
一八 ドイツ政黨の狀勢……二九三
一九 大聯合內閣組織運動……二九八
二〇 新聞の休刊十一日……三〇〇
二一 何故混亂が現出したか……三〇三
二二 祖國觀念と民族魂の鼓舞……三〇六
二三 復古思想と復古運動……三一一
二四 ラーテナウの暗殺者……三一四
二五 階級轉換期にあるドイツ……三一七

第八　マルクの慘落……二七一

一 貴重なるマルク……三二一
二 マルク慘落の圖表……三二三
三 暗澹たる世相……三二五
四 マルク救濟の努力……三二八

第九　レンテンマルクの出現……三三一

一 裸になつたドイツ……三三一
二 應急貨幣の發行……三三三
三 レンテンマルクの出現……三三五
四 レンテンマルクの反應……三三七

第一〇　ドウズ案通過までの政局……三四一

一 不可思議なる政局……三四一
二 ラーテナウの死と政局……三四二
三 企業合同發達……三四五
四 膨大なるスチンネス系……三五八
五 ストレーゼマンの活動……三六一
六 ロンドン協定の成立……三六四

七　マルクス内閣の崩壊……三六八
八　ドイツ政局の祕機……三七一

第一一　獨逸政局と中央黨……三七四

一　小黨分立のドイツ政界……三七四
二　帝國時代のドイツ議會……三七七
三　自動式比例代表制……三八一
四　初期議會の主なる政黨……三八六
五　六大政黨の政綱管見……三九三
六　ドイツキリスト教人民黨（中央黨）……四〇三
七　文化戰爭と中央黨……四〇五
八　萬病感應丸式政綱……四〇八
九　獨逸政治の樞軸としての中央黨……四一三

第一二　獨逸の反動運動……四一七

一　ドイツ人の祖國觀念……四一七
二　自衛團から暗殺結社へ……四一九
三　オルガニザチオン「C」……四二一

四　怪物エルハルドと其一黨……四二三
五　ロツスバツハと其一黨……四二七
六　ヒツトラーと其一黨……四三〇
七　聯合國粹會……四三三
八　祕密結社發達の三階級……四三八
九　祕密結社の通有性……四四〇

第一三　ルイゼ皇后の誕生日……四四四

第一四　ヴイクトリヤ皇后の死……四四八

第一五　戰勝記念塔爆破の陰謀……四五七

一　共和廣場……四五七
二　戰勝記念柱……四五九
三　記念柱爆破の失敗……四六三
四　人類共同の敵……四六六

第一六　エルザス・ロートリンゲン……四七一

新興ドイツ魂

池田林儀

第一　獨逸復興の原動力

總論　復興精進

一　不斷の努力！　不斷の前進！

『われらは負けた。われらの國富は損はれた。われらの繁榮は頓座した。しかし、われらは失望してはならぬ。われらが戰場において失つたところのものは、われらの産業戰場において取戻さねばならぬ。不斷の努力！　不斷の前進！　戰後に處するわれらドイツ人の覺悟はこれあるのみ！』

負けたドイツの産業統帥者は、かく叫んで戰敗ドイツの復興のために奮起した。

『時を重んぜよ』

『使用に堪へるまで之を使用せよ』

『考へて及ばざるは猶未だ足らざるなり』

『頭と足とは共に動かせ』

『至誠より強き力なし』

『義務と權利とは同一分量なり』

『臺所はベルリンに通ず』

これらの標語は、實に、復興運動に直面せる全ドイツ國民の肺腑を衝いて叫ばれるところのものであつた。物凄い意氣込み、ドイツ國民は馬車馬の如くに一途に復興に向つて精進した。

二　宰相の飛行機利用

ハンズ・ルーターが宰相となるや、彼は汽車で三時間以上を要する旅行には、必らず飛行機を利用した。

『一國の大宰相たるものが、さう輕々しく飛行機にばかり乘つて、若し萬一のことがあつたらどういたします』

親近の者がかく忠告すると、

『わが光榮あるドイツの航空業は、一國の宰相を過失のために殺すことは斷じてない。今日のドイツは、予をして一分一秒の時間も失ふことを許さない。卿等も予に倣つて時を重んぜよ』

と。ルーターのこの一言は、全ドイツ國民に非常な感激を與へたばかりでなく、航空業者をして奮起せしめた。ドイツの航空業の大合同は、實にこのルーターの一言によつて促進され、斯業の發達はこの一言によつて速度を早めたと言はれてゐる。

三　青年科學研究所

ドレスデンの青年團員は、復興促進に奉仕せんがために、一日二時間づゝ多く働らくことにした。彼等は朝は一時間早く起きて勞働し、夜は一時間だけ長く居殘つて勞働した。これに參加したるものは、青年團員七萬四千人、女子青年團員三萬二千人、合計十萬六千人である。彼等はこの二時間の勞働收入を貯金して四年八ケ月の後には、實に十一萬三千マルク（約五萬六千圓）の元利合計を得るに到つた。

彼等はこゝに、この金の使ひ方について研究考慮した。その結果、一つの科學研究所を設立することにし、これに、『ドイツ男女青年團科學研究所』と命名した。この研究所の主なる研究科目は、

一、日用品の鑑定

（イ）衣服の材料はその用途によつて如何なるものが宜しいか

（ロ）石炭の鑑定は如何にしてするが宜しいか
（ハ）金屬類の利用方法使用方法は如何するか
二、工藝材料品の鑑定
（イ）成分
（ロ）持久力
（ハ）性質
（ニ）利用方法
三、日用品の使用方法及利用方法
（イ）電氣瓦斯などの使用法
（ロ）藥品の利用法

などすべて實用的方面を主とし、特に工業勞働に從事する徒弟に對して、材料の性質と利用法とを知らしめ、無駄のないやう、仕事の能率の上るやうに、經濟的能率の增進に向つて十分なる理解を持たしめることに苦心してゐる。この眞面目と、この意氣込みとが、復興の眞劍さを物語つて餘りがある。

四　復興と婦人の活動

ドイツの復興に作用しつゝある力の中で婦人の力の特に見逸すべからざるものがある。それが婦人個々の心でなしに、婦人全體としての心の結合であることが注目すべき點である。『臺所はベルリンに通ず』といふ標語が物語つてゐる通り、ドイツの婦人たちは、彼女等の臺所の經濟的處理が、一國の經濟の運命を支配するものであると信じてゐる。

彼女等は、『國富』の何であるかを知つてゐる。試みにドイツの婦人に向つて、『一國の富とは何であるか』と尋ねるならば、彼女等は一樣に

『お互の家事經濟の總勘定です』

と答へるに相違ない。

『物は使用されるだけ使用せよ』

『奢侈は國を亡ぼす最大の原因』

といふことは、彼女等の心肝に銘じてゐる言葉である。彼女等は浪費を忌むこと蛇蝎よりも甚だしい。

『浪費をするものは無智無識無分別の徒である』

とは彼女等の言ひ分である。ドイツ女子青年團の標語の中には、

『知識と經驗とは勞費を省く』

といふのがある。

彼女等が知識と經驗とを重んずることは想像の外であるは知識を活用し、發明工夫を生むの根源であるとなしてゐる。勤儉貯蓄は、彼女等の最も尊敬すべき美風であつて、臺所の始末の巧妙なることもこゝから出發してゐる。今一つドイツ婦人に學ぶべきことは、その『分』を知ることである。婦人の本分と使命とをよく理解してゐることである。女子青年團の標語には、

『太陽は晝に輝き月は夜を照す』

『處女とは母の準備なり』

といふのがある。

五　臺所の立直し

ドイツの婦人たちは、ドイツの復興を促進せんがために、彼女等の奉仕する第一の道は臺所の立て直しにありとした。その心もちが色々な方面に、色々な運動となつて現はれた。その一つは『照明節約女子青年團』といふものが、處々に生れて來た。これは、その名の示す通り、白晝電燈を點けておくやうな事を差止める運動である。その元組ともいふべきものは、ブレスラウの照明節約女子青年團であつて、彼女等は、白晝無用な電燈が點ぜられることは、文明人の恥辱であるといふこと一點張りで、朝夕二回づゝ市內を見廻つて警告を發して歩いた。彼女等は全市の戶數を、團員數で割つて、それを一人の受持區域としたのである。

その效果は半歲ならずしてよく現はれ、市民に對して照明節約の心を徹底することが出來た。ブレスラウ市は、これに感謝の意を表するため、照明節約によつて得たる浪費の償いの中からとつて、年額二千マルク（約一千圓）づゝを寄附することにした。女子青年團ではこの二千マルクを以て巡回圖書館を造つた。その後各地にこれに倣つて照明節約運動が婦人によつて行はれてゐる。

照明節約ばかりでなく、節約運動に對するドイツ婦人の熱心さは、實際に注目に値する。彼女等は一寸の布、一片のパンでも、決してこれを粗末にはしない。彼女等について特に注意すべきことは、節約々々といふけれども、それが、決して消極的な節約でなしに、

『無駄より有益へ！』

といふ標語の下に、すべてのものを、利用し活用せんと努力することである。

六　性道徳の頽廢防止運動

負けたドイツの物質的打撃は今さら言ふまでもないが、精神的道徳的打撃も非常なものであつた。男女道徳の頽廢も甚だしく、ドイツに旅するほどの人々が、これを歎じたものであつた。これは、單に婦人ばかりを攻めるわけには行かないことであつた。性的享樂を追ふ餓虎の如きやからの跋扈は、國民道徳の根柢をも搖がさんとする觀があつた。こゝにおいてか、心ある女子青年團は、『私娼撲滅』『社會病退治』を目標として蹶起した。その先驅となつて活動し出したものは實にボメラニア灣の一角、オーデル河口の一都市ステチンの女子青年團であつた。『處女とは母の準備なり』といふ標語を振りかざしてゐるドイツ女子青年團にとりて、この風紀の頽廢は最も憎むべき敵であつたからである。彼女等は、『獸慾を文明國より一掃せよ』と叫び、『ドイツを飾るものはドイツの處女でなければならぬ』と高調した。

彼女等はまた、ドイツ婦人の貞操の危機を訴へて、『深淵に投ぜんとする處女を救へ！』『鰐の口より處女を脫れしめよ！』『色魔の跳梁を防止せよ！』『人面獸心の徒を葬れ！』と盛んに性道徳の頽廢に向つて挑戰した。彼女等は、

『人間が最も眞面目な時代を生み出すのは、最も眞面目に性道徳を重んずる時代である』

といふ見解を強く說いたのであつた。かくして、ドイツの婦人達は、ドイツを救ひ、ドイツを復興せしむべく、物質的にも、精神的にも、道徳的にも、あらゆる努力をなしたのである。この外にも家庭工藝を奬勵し、いはゆる手內職をして、組合式組織の下に大規模に製品を統一し、これを一つの機關を通して販賣するといふ方法を講じたものもあつた。これは、『臺所の不景氣を除く』ための最も賢明なる努力の一つであつて、今日では立派な組合となつて發達してゐるものが多々ある。

七　油斷を許さぬドイツ人

『常に備へよ、機會は不用意の人を訪はず』

これもまた、ドイツ青年團の標語の一つである。ドイツの復興運動は、なか〳〵難かしい仕事である。難かしいだけその過程には失敗も多かつた。

ドイツ今日の隆々たる復興振りは、眞にこれ粒々辛苦の賜物であつて、失敗に失敗を重ね、改良に

改良を加へ、前進また前進、ようくかゝる成果を生むに到つたものである。そこには、ドイツ人一流の研究心と發明心とが作用してゐる。その研究心と發明心とをして、最もよき成果を生むに到らしめたるものは、實に、

『常に備へよ、機會は不用意の人を訪はず』

といふ標語をそのまゝに活かし得たからである。ドイツ人には油斷がない。寸隙をも與へない。さればこそ、農業に工業に商業にすべての産業において、驚異すべき躍進を示したのである。

一つの例を引いて見る。ドイツは土質も風土も餘りいゝ國ではない。しかも、その農産率は極めて高い。これは全く農民の『努力と科學應用との賜物である。今日のドイツの農産を見るに、玉蜀黍、野菜、馬鈴薯、及び肉類の一反當りの産額は、英國の三倍である。牛だけで見ると二倍、豚の方は五倍である。

また工業方面の生産能率の增加も非常なものである。例へば、鐵鋼業においては、鎔鑛爐一箇當り生産高は二割八分增加、鋼鐵の生産高は四割五分增加、といふ風である。その他の數字もあるが煩を避けてこゝには抄略するが、とにかく、斯うした著しい生産能率の增加、生産額の增加は、すべてドイツ人の不斷の研究と發明とによるものである。以つてそ

の熱心さを想像することが出來ると思ふ。

八　復興の中堅は青年

『尊き花は尊き實を結ぶ』

これはドイツ女子青年團のスローガンである。瓜の蔓に茄子は生らぬ。志を大にし、節操を重んじ、希望を永遠につながんとする國民は、自らその覺悟のほども異なつてゐる。

色々な困難があり、色々な難關が横はつてをり、色々な危險が含まれてゐるとはいへ、ドイツ今日の狀勢は、すばらしい勢で復興に向ひつゝあるといへる。そのすばらしい勢こそは、全國民を擧げて、同じ心になつて、ドイツ及びドイツ人の永遠の繁榮と名譽のために、不斷の精進をつゞけてゐるからのことである。

ドイツ國民のこの熱心と、この努力と、この精進との前に、よき實が結ばぬといふ筈はあるまい。ドイツ國民が、その國歌に高調して居る通り、すべての上に優越することを以つて任じてゐるところに、彼等の眞面目は躍つてゐる。志操の堅固にして、理想の遠大なるところに、大國民の本領が存するものとすれば、ドイツ國民もその一つとして數へることが出來よう。尊き花は尊き實を結ぶ、と任

ずるところに、ドイツ國民の前途を祝福する所以があらう。

ドイツの復興運動の中堅をなすものは、青年男女であつて、その目ざましき活動は、實際われらに多くのことを學ばしめる。特にその偉なりとすべき點は、『ドイツ及びドイツ人』といふ自負の心を抱いて、はつきりと、ドイツの復興の理想目的を描き、自分等のため同時にまた自分等の子孫のために眞劍な努力を積みつゝあることである。その團結の強固にして、組織の堅實なることは、その活動をして社會的に著しい效果を擧げつゝある。こゝにもまた尊き花は尊き實を結ぶ、の感を深からしめる。

第一章　復興の三大原動力

一　天國の門番と亡者

世界大戰の際戰死した一人のドイツの軍人が、天國にやつて來て、その門扉を叩いた。門番が、

『お前は何者だ』

『ドイツの兵隊であります』

『何しに來た』

『天國へ行きたんいです』

『ナニッ！　天國へ行きたい？　兵隊なら、お前は人を殺したんだらふ』

『ハイ』

『聖書に書いてあるぢやないか、殺生をしてはいかんと。一體お前は何のために人を殺したんだ』

『カイゼルのため、祖國のために、神と共に戰つたのであります』

『カイゼルのため、祖國のためか、さうか、宜しい、デハ天國へ行け』

それから間もなく、一人のフランスの兵隊が、天國の門にやつて來た。門番は、また同じ質問を發した。兵隊はまた同じやうな答へをするのであつた。そして、最後に、

『お前は一體何のために戰つたんだ』

『正義と愛國のために戰ひました』

『正義と、愛國のためか、宜しい、天國に入れてやる』

次にやつて來たのは、イギリスの兵士であつた。同じやうな問答が繰返された。

『何のために戰爭をしたんだ』

『三シリング六ペンスをかせぐためであります』

『何だと、三シリング六ペンスをかせぐためだつて、莫迦、貴樣は地獄行きだ』

といつて、門番はピタリと扉を閉ぢてしまつた。

最後にやつて來たのは、ロシアの民兵であつた。

『なぜ戰爭なんかに出たんか』

『何のためか解りません。ある日、一人の役人がやつて來て、私を無理矢理に引き立てゝ、そして戰場に送つたのであります』

『何んだ、何も解らんのか、うつけ者奴、また出直して來るがいゝ』

天國の扉はギーツと閉ぢてしまつた。

これは、英佛獨露四國人の面目を諷したものである。ドイツ人の愛國心、フランス人の正義心、イギ

リス人の打算性、ロシア人の無智を寫してゐる。

二　蠅の入つたビール

酒場に入る。一杯のビールを註文する。ビールが卓子の上に運ばれる。そのコップの中に、蠅が一匹飛び込んだとする。そのビールをどう始末するか。

イギリス人であつたとする。

彼は、靜かに、ボーイを呼んで、

『このビールには、蠅が入つてゐる。別のを持つて來い』

と吩付けるにきまつてゐる。

フランス人であつたとする。

彼は、

『こんなもの飲めるかい』

とビールを床に捨てゝ了ふに相違ない。

ドイツ人であつたとする。

彼は、スプーンか何かで、蠅をすくひ上げて、ビールを飲む。

ロシア人であつたとする。

彼は蠅ごと一しよにビールを飲んで了ふ。

これも、英佛獨露四國人の、それ〴〵の國民性を諷したものである。イギリス人の打算性、フランス人の潔癖、ドイツ人の合理性、ロシア人の無智を語るものである。

以上の二つの話は、確かに、最も簡明に、この四國人の國民性を物語つてゐるので、しかも、二者何れも、その狙ひどころが一致してゐるところに面白味がある。一口に、西洋人といふけれど、その間には、みなそれ〴〵に異なつた性情がある。イギリスを觀るには、イギリス人の特性を知らねばならぬ。ドイツを究めるには、ドイツ人の國民性を知らねばならぬ。

上に述べた例へ話を通して見たところによつて見ても、ドイツ人は、持つて生れた愛國者であり、

『祖國』を重んじ、『祖國』のためには、進んで一命を犧牲にするを辭せぬ。また、極めて、理智的であり、合理性に富み、何事に對しても研究を試み、何事も科學的に解釋して、事に處せんとする性情を物語つてゐる。

而して、フランス人は、潔癖にして正義心に富み、聰明悧發にして快活、寧ろ天才肌であるところ、よく、日本人や、アメリカ人と酷似してゐることが窺はれる。

三　一事の改良に三代かゝる

ドイツ人は、決して、聰明悧發な國民であるとは云へぬ。フランス人の如く、敏捷快活にして、天才肌に富んでゐるところは、到底これを認めることが出來ない。寧ろ、鈍重牛の如き國民であるといふのが、最も適評であるといへやう。ドイツ人は、確かに遲鈍緩慢である。しかし、極めて實着である。その『實着』なる點に心を止めて觀なければならぬ。

斯ういふ話がある。これは、ドイツ人自らの發明した話である。卽ち、『ドイツ人は、物事の改良に三代かゝる。それが悪いと氣が付くまでに一代。悪いと氣付いてから、それを改良しようと決心するに一代。愈々改良しようと決心してから、如何にして改良しようかを考へるに一代かゝる』といふの

である。最もよく、ドイツ人の面目を穿つた話である。

ドイツ人は、確かに、鈍重である。緩慢である。けれども、その實着にして、理に忠實なることは、驚くべきものがある。自らを持すること重く、極めて實行的な、強靱な意志を有し、自ら正にして善、しかも、事合理的であると信じて、爲し始めたることは、萬難を排してもこれを成し遂げる。失敗しても、失敗しても、幾度となくこれをやり直し、一歩は一歩と改良の歩を進め、成功への道を開拓して行く努力と、斷行の勇氣とは、ドイツ人の最も誇るべき性質である。

ドイツ人は、至つて研究好きであり、また、思索好きである。何事に對しても、實着な、條理の井然たる思索を試み、研究を進めて行かうとする。漫然と事をなすといふことは、彼等には出來ないことである。如何なることをなすに方つても、先づこれを考究し、一旦これが實行に當れば、成就するまでは、必らずやつてのけるといふ風である。

ドイツ人のやつてゐるところを見ると、いかにも、間のろく、もどかしいことが多い。時には腹の立つやうなこともある。しかも、彼等は決してあせるといふことをしない。どこまでも、ゆつくりと着實に、こつ〳〵とやつて行くのである。大きいことであれ、小さいことであれ、何でも、自分の工夫によつて、全力をもつてこれをやつて行く。ドイツ人の鈍重を嗤うてはならぬ。寧ろその堅忍にして不撓なる努力を續けて行く點に注意すべきである。

今一つ、ドイツ人に見逸すことの出來ないことは、彼等のこの實着なる歩みと、不斷の思索工夫とは、彼等に內的な、精神的な、喜悅と滿足とを痛感せしめつゝあることである。彼等はその喜悅に活き、その滿足に誇りを感じつゝあるのである。ドイツ人をして、ドイツ人たらしめ、ドイツ人をして將來に大ならしむるものは、この內的な、包容的な性格そのものであらう。

四　全能力を發揮した戰時の獨逸

國民として、ドイツ人は、確かに忠良なる國民である。世界大戰のはじめ、カイゼルが、

『朕は最早や、政黨政派なるものを知らない。たゞそれ一のドイツ人を知るのみである』

と一視同仁の誡を以て、擧國一致を宣した時、元來が民族的自負心の強い、祖國觀念の旺盛なドイツ人は、熱血たぎるばかりに昂奮したのであつた。多年黨爭に苦しめられたドイツ國民は、戰爭といふ大きな事件の前に來つて一致協力した。その主義と立場からして、當然戰爭反對を聲明せざるべからざる社會黨まで、世界の同主義者の非難攻擊、罵言雜言を浴びつゝも、敢然として大戰參加を容認した。

模範的に忠良なるドイツ人は、すべてを擧げて、祖國の爲めに奉公した。血も命も財産も勞力も、一切を國家のために獻げた。彼等が貯へ持つてゐた金銀貨の悉くを以て、戰時公債に應じた。それで滿足せずして、その公債を更に買入して、金を借り出しては、公債の募集に應じた。その結果、彼等ドイツ人の掌中には、一箇の金貨も銀貨もなくなつて、たゞ紙の公債と、不換の紙幣のみが殘つた。

若き子弟は一人殘らず戰場に向つた。勞働者は、その全力を擧げて內地勤務に身を委した。女子は出征した男子に代つて、その位置を補ひ、驚ろくべき能力を發揮した。斯くして、戰線にあるものも內地にあるものも同じ熱心と、同じ努力とを以て國家總動員の實を完全に擧け、驚くべき能率と、實力とを發揮した。凡そ、國家が一の組織として、整備なる作用を、極度にまで發揮し得る力の程を示すことに於て、ドイツは確かに一の驚異の念を世界人類の上に示したのであつた。

五　負けた獨逸の慘めな姿

その苦心努力も、全く水泡に歸すべき運命に逢着した。經濟的封鎖、——食糧封鎖——外交上、軍事上の打算の錯誤、斯うしたことが、ドイツの頑固な首の根を、じり〳〵と締め付けて終つた。

その反應が、第一に胃袋にあらはれはじめた。ドイツ七千萬國民の健康は、『じやがいも』だけでは

保つて行くわけには行かなかつた。戰爭末期におけるドイツ人の體格の衰へやうは、著しく目に立つて見えた。その自慢のビール腹は凹んで、洋服はだぶ〳〵になつた。首はやせ衰えて、カラーの寸法が急にのびた。牛乳の不足は、赤兒の健康を害して、社會上の大問題として騷ぎ立てられた。我慢強かつたドイツ婦人は、生活の苦しみに堪へかねて、その夫や悴を戰場から返してくれとせがむやうになつた。

一面には、享樂的氣分が起つて來て、甘い酒、強い酒、赤い酒、煙草などが、急に社會全般、男女を通じて行はれるやうになつた。放埒な淫樂生活が、處女、主婦の差別なく行はれはじめた。その間にあつて、戰爭成金が、奔放贅澤な生活をやつて、この享樂の氣分をあふり、一般人民の怨嗟の中心となつた。物質の缺乏は、物價の騰貴を誘致したが、一般人民の收入はそれに伴はなくなつて來た。ゆるみ出した人間の身體は、なか〳〵恢復が困難であるやうに、ドイツといふ國家にもゆるみが見えはじめてからは、收拾すべからざる頽勢が現れて來たのであつた。

ドイツは終に負けた。

負けたドイツは慘めなものであつた。世界の輕侮と、惡罵と、嘲笑と、卑下とを一身にあつめ身は貧と、飢と、疲れと絶望の苦しみに、惱まねばならなかつた。一切を擧けて、最後の一錢までも祖國

のために投じたドイツ人は、戰ひ了つて餘し持つところ、一物もなかつた。國としては殆んど亡國の姿であつた。金もなければ力もない。世界の多くの人々は、實際ドイツを亡國と見なした。その亡國を支へて、復興の實を擧ぐべく、ドイツ人は褌をしめ直さねばならなかつた。

六　復興の三大原動力

その亡國ドイツが復興しつゝある。その目ざましき、華々しき、ドイツの復興振りは、確かに現代世界人にとりて一つの驚異である。

然らば、ドイツ復興の原動力は何處にあるのか。その原因を探して見るならば、あれも、これもと色々な原因を數へ立てることが出來るであらう。しかし、細かにこれを拾ひ上げてゐるのでは際限がない。われらは、こゝにその觀察を便にせんがために、差當つてドイツの復興作業を促進せしめたる最大の原因として、次の三つの注目すべき大なる運動を數へ上げることが出來ると思ふ。

第一。婦人の臺所立直し運動（婦人の活動）
第二。青年の復興第一線運動（青年運動）
第三。産業の無駄廢止運動（合理化運動）

而して、この三つの運動を促進せしめ得たる原動力としては、

第一。祖國觀念
第二。義務觀念
第三。自治訓練

の三を指示せねばならぬ。之を要するに、ドイツの復興には、その國民性の最大の長所が最もよく反映してゐるのである。その、こつ〳〵として、倦まず撓まず一事に專心して、自己の爲さんとするところに忠なるは、全く驚ろくべきものである。

彼等ドイツ人の頭は鋭敏を缺いてゐる。彼等の手指は器用ではない。すべてにおいて、彼等は鈍重であり、のろ〳〵してはゐる。けれども、その不斷の努力は、何時の間にか、その事を成らしめてゐる。斯ういふ鈍重ながら、しかも、努めて休まざる個人の集團が、ドイツ國民であり、それが、ドイツ國を成してゐる。

その國民が、燃ゆるが如き祖國觀念、卽ち愛國心を以て、國民としての義務を遂行し、ドイツ文化の顯揚に努めんとするところに、復興作業の華々しき活動があるのである。

ドイツの俚諺に、『橋を渡り切るまで歡聲を擧げるな』といふのがある。ドイツ人の鈍重性は、飽ま

でも沈默の中に、悠々然として、こつ〳〵復興を進めつゝある。彼等は今日もなほ、大戰直後と同じやうに、その苦しき國情を訴へつゝあるが、その復興の事實は衆目の認めるところである。彼等はその俚諺をそのまゝに、決して小成に安んずるところなく、寸毫も氣を緩めず、手綱を引きしめつゝ、復興に精進しつゝあるのである。彼等は『橋を渡り切るまでは』決して歡聲を擧げるやうな國民ではない。以下、少しくドイツの復興業業について、ドイツ國民の活動振りをうかゞつて見ようと思ふ。

第二章　婦人の臺所立直し運動

一　八寸會

世界大戰が勃發して後、間もなく、バリーに、八寸會なるものが出來た。八寸會なる名稱は、本當の名前ではなく、本當の名は、短裾會とでも譯すべきものであるが、その當時、漫畫子や、口さがない新聞記者などが、嘲笑半分にこんな呼方をしたものである。しかし、それが反つて印象を深くし、その趣意を一層深く徹底せしめた。

八寸會といふのは、バリーの金持の夫人たちの發起で作られたもので、國家大變の場合、われ〳〵婦人は、あらゆる節約をなし、一切の華美の風を捨てなければならぬ。それには、差當つて、婦人の衣物の裾を短かくしようではないか。假りに、百三十萬人の婦人が、スカートの裾を八寸づゝ縮めたとすると、約十萬圓の節約が出來る。この心を以て裾を短かくすることを實行しよう。長い裾の衣物が流行する時代に、一二の人が裾を短かくすることは、新奇を衒ふやうであるが、みんなが調子を揃へてやれば、何もをかしいことも珍奇なこともない。われ〳〵は、斷乎として、節約の第一歩としてこのことを實行しよう、と申し合せた。これが、八寸會の由來である。

衣物の裾を短かくするということは、節約實行への第一歩であつたが、この心と實行とは、やがて生活の各方面に反映して來た。衣物の質の上にも、家庭の經濟の上にも、すべてが、質實の風となつて現はれて來た。一切の贅澤は、これを避けなければならぬといふことが、婦人一般の心となつて、國家的奉仕は、先づこの節約からといふことになつた。

二　奢侈防止の戰士は婦人

『奢侈は、大抵、婦人の虛榮心から芽ぐまれる。婦人の虛榮が、やがて、男子の奢侈を誘發する。奢侈を防ぐことの責任は、婦人にある。ドイツと戰ふものは、男子であるが、奢侈防止の第一線の戰士

は、われ〳〵婦人でなければならぬ。』

これが、八寸會の婦人たちの覺悟であり、信條であつた。奢侈の勢は、人間の集まるところから最も早く且つ力強く募らせられる。故に、儀式集會は、最も質實にやらねばならぬ。殊に、儀式ばつたこと、社交會的なことが、服裝展覽會の如き觀があることは、最も華美贅澤の風を誘發し易いからこの弊風を改めなければならぬ、とした。それで、八寸會では、禮裝の略式化を主張して、男子には背廣服着用をすゝめ、婦人は普通の服裝でいゝ、といふことにした。

この八寸會の趣意と實行とが、だん〳〵に全國的に普及して、生活改善の第一歩が進められた。普通の禮裝として背廣服が認められ、婦人の服裝も簡單化されたことが、どれほど節約の實を擧げるに成功したことであつたか。この風習が、終に戰後にまでも持ち越されて、ヨーロッパにおける、儀禮上の服裝が、一般に略式化されるに至つたのである。戰後ヨーロッパで、宴會や、儀式などに、背廣服を用ひるやうになつたのは、アメリカ人が、戰時中に活躍したゝめだなぞといふ人もあるが、何ぞ知らん、パリーの八寸會の主唱が、全ヨーロッパを風靡するに至つたものである。

八寸會は、色々な委員を設けて、身の廻りから、家のことなど、手近かなところから、節約生活の實行にとりかゝつた。卽ち、八寸會の仕事は、實に『生活改善』そのものであつた。八寸會は、世界

大戰といふ非常な時期に當面して、この際に、從來なさんとして、なし得ざりし、傳統的な諸種の惡弊を打破してしまはうとしたのである。社交上儀禮上の、一切の虛儀虛禮を、全廢して了ふのは今日であるとして邁進したのである。そして、質實の美風を振興せんと努力した。

三　負債の重さは責任の重さ

八寸會は、パリーに生れたのであるが、それが驚ろくべき速度を以て、全國に擴まつた。名稱は違つてをつても、その、主義、綱領、組織、實行方法等は少しも變らず、節約に向つて精進したのであつた。而して、八寸會の活動は、戰爭中ばかりでなく、戰後になつて、いよ〳〵熱心に節約實行の運動をやりつゞけてゐる。

フランスは勝つた。勝つたが傷められた。われらの臺所はどうだ。三百萬の傷病死兵の遺族の悲歎と困苦とを忘れてはならぬ。われらは、第二の大戰を戰はねばならぬ』と。新流行を追はず、新調品を求めず、裝飾品を奢らず、どこまでも質素に、どこまでも、儉約を旨として、第二の戰を鬪ひつゞけてゐる。花の都パリーといふが、パリーはフランス人のための、流行のさきがけの都ではなく、世界のための流行の先驅となつてゐる。フランスの婦人たちは、國のため

同胞のために、身を持すること極めて質素であり、儉約である。

『大戰のために負うたフランスの負債の重さが、われ〳〵フランス婦人の責任の重さである。この負債を支拂ひ得るか、否かは、われ〳〵フランス婦人の臺所の締り加減如何にある』

と。これがフランス婦人の覺悟なのである。よく國家の實情を顧みて、國家のために自ら處するの道を知つて、勤儉節約に向つて精進してゐるのが、フランス婦人の眞面目である。

フランス婦人は、實際眞劍である。一生懸命である。ありふれた勤儉貯蓄の心などでやつてゐるのではない。眞に家を思ひ、國を思ひ、國民として、フランス人として、血と涙で生活戰場に健鬪しつゝあるのである。

『花なければ實を結ばず』

と彼女等フランスの婦人たちは口誦してゐる。また、

『臺所整へば家整ふ』

といふ信念の下に、やつてゐる。そして、彼女等の男々しき、美くしき、けなげなる心が、念じて以て起ち、信じて以て行ひ、實行の上に、現實の前に、はつきりと體現せんとしつゝある。生活改善、臺所立直しに向つての活動的信條は、

『溫室の花は美くしいが弱々しい』

といふことにある。彼女等は第一線に立つて、塵芥を浴び、風雨に沐し、辛苦艱難を忍び、以て雄々しく、花々しく、戰捷フランスの盤石の基礎を築かんとしつゝあるのである。

四　無駄より有益へ！

勝つたフランスの婦人が既に斯の如くである。負けたドイツの婦人たちは、どんな覺悟で、復興に向つて努力しつゝあるか、元來が質素なドイツ人である。戰時中の節約は極端にまで徹底した。

『負けたドイツは、節約すべき一物をも餘さぬ。この上の節約は、自分で自分の身を喰ふものである』

と彼女等は歎じた。けれども、不屈なる彼女等は、この歎聲に付け加へた。

『しかし、天は人間に、發明の心と、工夫の妙味を與へた。節約は富を保護することであるが、保護すべき富なければ、われらは富を創造しなければならぬ』と。

『節約は富を保護することである』といふ、彼女等の信條を味はねばならぬ。彼女等のいふ富とは、錢金のことばかりをいふてゐるのではない。彼女等の富に對する觀念は、極めて本質的である。曰く

第一。　財）富

第二。力
第三。時＝富

この三つを意味する。彼女等の節約とは、この三者を保護することである。無駄のないやうに、浪費をせぬやうに、これを保護することが節約である。節約を蓄積の意味にとらないところに、ドイツ人の節約の意味の深さが加つてゐる。彼女等は、

『無駄より有益へ』

といふことを標語とした。保護すべき富なければ、富を創造するより外に道はないと、積極的に出た彼女等は、『富の創造』といふことを、『有益へ』といふ言葉に代表せしめた。無駄を省くだけで節約の本務は徹底せぬ、更に進んで、富を創造し、富を增し、一切の能率を高めることを心掛けたのである

五　怠け者退治

『ドイツの復興は臺所から――』といふことは、ドイツの婦人たちの標語である。彼女等は、『臺所はベルリンに通ず』といふことを固く信じて疑はない。彼女等は、ドイツの立て直しは台所の立直しであると信じてゐる。そこに、彼女等の復興作業の第一歩が踏み出された。卽ち、『台所の立直し運動』

である。

台所の立直しには、五つの根本條件がある。

第一。一家内に怠け者があつてはならぬ。
第二。時を浪費してはならぬ。
第三。力を浪費してはならぬ。
第四。物を浪費してはならぬ。
第五。働らくにも遊ぶにも無計畫であつてはならぬ。

怠け者は大の禁物である』彼女等ドイツの婦人たちは、復興作業中、最も急務中の急務であるとしてこの怠け者退治に苦心した。彼女等は自分の家から怠け者を出すことは、國家に對する一の反逆であると考へてゐる。故に、一家の怠け者退治が第一の心掛けである。

彼女等は、この怠け者を退治すべく、全國的に共同の戰線を張つた。戰後のドイツ婦人の活動中、最も目ざましきものは、この怠け者退治運動である。怠惰者、浪費者、放蕩者、酔癖者、これらは、彼女等の所謂怠け者であり、社會の見切者である。

顔の赤いモボらしいのが、變な女と往來を歩いて來る。惡たれ小僧らしい二三人が、その鼻先きに

行つて、

『怠け者やあい』

『見切者やあい』

とやる。

月給日である。貰つたその月給で、近所の酒場で一杯やらうと思ふて、いそ〳〵と工場の門を出て來る。少年の一隊が節面白く歌をうたひながらやつて來る。

『ちやんや、見切物になるでねえぞ』

怠け者退治の唯一の謀將は家庭の主婦である。第一線の戰士は子供である。

これと同じやうな運動がロシアにもある。それは酒飲み征伐である。少年の一隊が、工場の門の前に待ち横へて、懐をふくらして歸つて來る父兄達に向つて、

『わしらの教育費を食んでくれるな……』

の歌を合唱するのである。

子供は、最も力強き社會運動家である。

六　癈兵報恩デー

キール運河のほとり。アルトナに癈兵院がある。アルトナの女子青年團では、毎週水曜日を癈兵報恩デーとなし、その日一日の收入を擧げて貯蓄し、これを以て癈兵を慰める資金とした。彼女等は、

『國家のために傷き、その生涯を傷病の中に終らねばならぬ、名譽の癈兵は、國家のために最高の奉仕をしたものである。その癈兵を慰むるは同胞の義務であるばかりでなく、同胞たるものはこの癈兵の一身と一生とを考へて、自ら果して國家に如何なる奉仕をなし得たかを反省せねばならぬ』

とした。そして、奢侈を戒しめ、勤儉貯蓄をはげみ、風紀を振肅することを努め、各人をしてその職務に勉勵なるべきことを從懇した。彼女等は、台所の立直しに向つて精進すると同時に、國家奉仕のために、その最高の努力を致せる殊勳者として、癈兵を同胞の前に、最も深き意義を以て待遇し、

『彼等がなせる如く、我等もまた最高の奉仕をせねばならぬ』

とした。彼女等の努力は美くしき結果を生み出した。町を擧げて飲酒喫煙するものなく、極めて勤勉にして質實なる模範鄉を實現した。

台所立直し運動は、かくの如く、一家の主婦ばかりでなく、全ドイツの婦人が、同じ心になつてや

つたのである。しかも、それが、みな、各自の現在の生活環境を開發し、改善することから出發したのである。小さな事に對しても、その心は、大きな高き理想と抱負とを以て當つたのである。

而して、ある婦人團が、ある町、ある村においてこれを試み、それに成功したものがあれば、必ず、これを全國的に紹介して、全國的に普及せしめることに努力した。照明節約運動然り、癈兵慰安運動然り、家庭工藝奬勵運動然り、日掛け貯金運動然り、日掛育兒保險運動然り、みなその最初は小さな町、小さな村において試みられたことが、全國的になつたものである。

七　溫かく美くしき節約生活

『奢侈は國を亡ぼす。奢侈の弊害の、因つて以て生じて來るのは、多く、分を解しない婦人の、放慢なる心掛けに原因する場合が多い。國を擧けて奢侈の國たらしめるも、婦人の心掛け一つにかゝつてゐる』

とはドイツ婦人の警告である。奢侈の要因を婦人の心掛けにありとして、自らその責任を負うて奢侈防止運動の先頭に立つてゐるところは、フランス婦人と異るところがない。

奢侈は、彼女等の最も憎むところであるが、彼女等は奢侈の風を一掃すると同時に、一方には勤勉節約をつとめてゐる。彼女等は持つて生れた勤勉性を、國家非常の場合には、尙一層の熱心を以て十分に發揮せねばならぬとしてゐる。彼女等は、奢侈防止のため、節約勵行のため、怠け者退治のためその他あらゆることに向つて、種々なる考察と工夫と努力とを以て立つてゐる。而して、その效果が現はれるまでは、はた又、成否の判斷のつくまでは、如何なることがあつても、斷じて頓挫するところなく、これをやつてのけるのである。

『頭と足とは共に動かせ』と云ひ、實行を尊重すると同時に、『考へて及ばざるは猶未だ足らざるなり』と稱し、あくまでも研究工夫の必要なることを吹き込んでゐる。而して、『同情と理解こそ共存共榮の要諦である』となし、婦人の人間としての訓練修養をば、この同情と理解へと導きつゝあるのである。『同情と理解なければ社會生活は進歩するものでない』とは彼女等の信じて疑はざるところである。

そこに、切りつめた、ドイツ婦人の生活の中に、溫みがあり、また生活そのものが、冷やかでなく、見苦しくなく、美化されつゝあるものがあるのである。節約生活は冷たくせゝこましく、味のないものゝやうに想像されるのが、その然らざる所以のものは、その胸底にある將來に對する希望と、光明と、抱負と、現在における同情と理解との賜物であるといはなければならぬ。

八　全獨逸を緊張させる婦人の活動

『物は使用されるだけ使用せよ』ドイツ婦人たちは、決して物を無駄にしない。一片のパン、一塊の石炭、一切の布と雖も決して粗末にはせぬ。何事に對しても、何物についても、ありつたけの能力と能率とを發揮させずにはおかぬ。

彼女等は、事物を無駄にせぬばかりでなく、その事物に最高の能率を發揮せしめようとする。そこに、彼女等の工夫があり、發明がある。

『節約は節約を生む』

といふ語があるが、これは節約生活をやつてゐると、節約の方法を發見するといふ意味であつて『節約をしたものでなければ、節約の方法を知るものでない』とも云つてゐる。この言葉が轉化して、ドイツ女子青年團の貴重なる標語、

『知識と經驗とは勞費を省く』

となつてゐる。これは、『頭と足とは共に動かせ』といふ標語と共に、ドイツ人の思索と實行とを物語るものである。頭ばかり進んでも、實際に行つて見なければ、何の役にも立たないといふのである。

實際にやつて見て、うまく行つても、失敗しても、その何れもが、人間生活にとりて、貴重なる經驗であり、進歩への階段であるといふのである。

ドイツの婦人たちは、この心掛けを以て、復興作業中の第一要件としての台所立直しに當つてゐる彼女等は、國富なるものが、各自の家事經濟の總勘定であることを信じ、家事經濟の良否は、一に婦人の台所の始末にありとして、自らその全責任を負うてゐるのである。彼女等は、一家全體の勤勉を期し、時を重んじ、精力を大切にし、物を節することに全力を傾注してゐる。

彼女等の眼に映ずるところは、國の台所である。自ら節し、自ら富ますことは國を富まし、同胞を富ますことだと信じてゐる。彼女等の胸中には、常に國家と同胞とが一杯になつてゐる。故に、彼女等は、自ら節約すると同時に、他人の浪費、怠惰を心から憎むのである。彼女等は勇敢に他人の浪費を責め、また、節約の拙劣を矯正せんとするのである。

かく、ドイツの婦人たちが、全力を擧げて、台所立直し運動に精進したことが、どれほど、復興作業に對して緊張を與へたか、各主婦がその一家を緊張せしめることは、やがて、全國民を緊張せしめることなのである。而して、この主婦たちが、その子女に對して、怠け者退治を敎へ、物の節約振りを實際に見せ、浪費を誡めることが、どれほど第二の國民に對する偉大なる敎訓と訓練とを與へつゝ

あるものであるかは、想像に餘りがある。

第三章　青年の復興第一線運動

一　ワンダーフオゲル

負けたドイツにも春は去來した。日もかゞやいた。小鳥も歌うた。

晴れわたる日曜日や、祭日に、心合うたる友だちが群をなして、マンドリンや、ギタなどをかき鳴らしながら、あどけなき民謠を合唱しつゝ、野や、山や、林や、湖水のほとりなどをさまよひ廻る樣をしげく見ることであらう。それがドイツ名物のワンダーフオゲルである。譯して、さまよひの鳥とか、わたり鳥とでもいはうか。

日の光を浴び、大氣を吸ひ、大自然に接して、浩然の氣を養うワンダーフオゲルの數は、戰後になつていよ〳〵多くなつた。野に歌ひ、林間に眠り、山に叫び、湖水に泳ぐワンダーフオゲルの、談笑狂亂の快活相を見る毎に、戰敗の惱みの何處にあるかを思はしめる。

天地と共に悠久なる人類の、永遠の生存から見れば、一旦の敗戰や貧苦艱難は、春の野邊の寸時の夢に過ぎない。鈍重なるドイツ人は、洒々然として、暇さへあればさまよひの旅に出る。永遠の生存を重しとし、瞬間の成敗を度外におく。ラインは流れ流れて休まず、斷雲飛びに飛んで漠々、あれ、またしても、マンドリンの音が、森のかげから聞えて來る。

二　ワンダーフオゲルの標幟

時を節約し、物を節約し、勞力を節約し、一切の無駄を廢除して、復興に精進しつゝあるドイツ人が休日毎にさまよひ出る、山野跋渉の悠々閑々たる姿を思はねばならぬ。

復興作業は、汗みどろ、血みどろの、難業苦行である。その間にあつて、辨當を背嚢におさめ樂器をかき鳴らし、旗振り立てゝ、三々五々、森から山、村から里へと、歌ひながら、笑ひながら、談じながら、興じながら、さまよひまはるワンダーフオゲルの姿を想像しなければならぬ。

思ひ思ひの途をたどり、漫然、雜然、散り散りばらばらに、脈絡貫通する一つの精神のあることを忘れてはならぬ。

日の光を浴びよ！

浩然の氣を養へ！

自然に親しめ！
民謠を唄へ！
傳說を取戻せ！
祖國の地理を知れ！
祖國の土に芽ぐむ魂を思へ！
協力せよ！　團結せよ！
國は一つ、　ドイツ國！
民は一つ、ドイツ民族！

十から成るこの信條標語、そこに、ドイツの天地に親しむ、ワンダーフオゲルの標幟がひらめいてゐる。

三　ドイツ男女青年團の誕生

ボア戰爭の時のことである。メーキングといふ町が、ボア軍のために包圍されて、英軍は散々に惱まされた。兵員が足らぬ。猫の手でも欲しい位。バーデンバウエル將軍は、一策を案じて、兵員の不

足を補ふために、少年斥候を使つた。その成績が非常によかつた。

バーデンバウエル將軍は、この經驗に鑑みて、少年を、平素から、ある目的のために訓練しておいたら、國家有事の際、國防の欠陷を補ふことが出來ようと考へた。かくして、ボーイスカウトを設立した。それが、好成績を收めた。成功した。發達した。

ドイツは、英國の、このボーイスカウトが羨ましくなつた。そこで眞似た。模倣した。かくして、生れ出たのが『バートフインダー』である。一種の少年團で、文字通りに譯せば『小路を搜る人』とでもいへよう。だが、眞似は眞似である。イギリスはイギリスである。ドイツはドイツである。バートフインダー運動は失敗した。

失敗したが見切りはせぬ。ドイツはドイツの本領に活きねばならぬと覺つた。そこで、振り返つて自分の姿を見た。そこには、ワンダーフオゲルが微笑してゐた。ドイツは本來の面目を發揮すべく、ワンダーフオゲルに、一つの哲學を發見しようとした。そして、それを更に叩き込もうとした。そこに生れ出たのが、『ユーゲンドフレーグ』なる運動であつた。青年教養運動である。雜然たるワンダーフオゲルに、統一と訓練とを與へようと試みたのである。

『ユーゲンドフレーグ』が、更に一歩を進めた。小學教育を終つた青年男女をして、風儀上、生活

上、體育上に、最善にして最美なる、良風美俗を體現せしめるために、組織的な、系統的な、統一的な修養訓練の道を講ぜねばならぬとした。こゝに、ドイツ青年團『青年ドイツ國』が生れ、ドイツ女子青年團が成立した。指導者は、有名なるフォン、デルゴルツ將軍であつた。一九一一年のことである。

四　味のある訓練ぶり

ドイツ青年團は、ドイツ及びドイツ民族を、泰山の安きにおくべく、愛國的精神を基礎として體育及良風美俗の教養訓練を第一義として生れた。カイゼル全盛時代のことであつたので、その訓練は軍事行動の豫備教育的なところが多かつた。

しかし、その訓練方法には味があつた。ドイツに似合ず、規則づくめの風を慶して、自由主義的な態度をとつた。體操スポーツを盛んに奬勵して、遊戲體操の諸道具諸器械は、いかにも完備したものを與へた。軍事教練はやるが、行軍はワンダーフオゲル式であつた。前日詩人のやうな生活をやらせるかと思へば、その次の日は困苦欠乏の苦痛を味はしめるといふ風であつた。

野外に立つて、距離の測定法などを教へて、片苦しいことをやつてゐるかと思ふと、次の瞬間には

名所舊蹟に立つて、偉人を偲び、古を懷ひ、景勝を悦しみ、ドイツ及びドイツ人の誇りを味ふといふ風である。ある時は、國家の名士を訪問して、その風貌に接し、經驗談を聽き、反省修養につとめることをやつた。

かゝる訓練に鍛へられたものが、休暇祭日などにワンダーフオゲルとなつて、さまよひ出て行くやうになつた。ワンダーフオゲルが、ある訓練と、教養と、精神（哲學）とを持つやうになつたのは、無理もない。ワンダーフオゲルは、元々、時代の遊惰放蕩の氣分に反抗して、別箇の天地を樂しむべく志した。ステーゲリッツの一小學教師によつて、一つの團體として育まれたものである。それが忽ちにして全ドイツに擴がつて、自然に親しむの風習となつた。そこに、ワンダーフオゲル本來の面目があつた。その面目が、今や、組織的な訓練の下に、いよ〳〵發揮せられようとして來たのである。

ぶら〳〵、のん氣に歩き廻つてゐる、ワンダーフオゲルに、この哲學があり、この訓練がある。彼等は林に入つて、木の枝を折らず、野に憩うて、紙片木屑を散らすことをせぬ。自然を愛し、國を愛する者が、自然を大切にし、國を大切にするは當り前のことだからである。彼等は團々、雜然として漫歩する。しかも、その間に、秩序と儀禮とが保持される。彼等は到る處で修養し、到る處で團結の強さを增すことを努める。その胸底には、第二の國民たるべく、大いに自負しつゝあるものがあるの

である。

五　我等は第一線の戰士也

ドイツは負けた。カイゼルの帝國は沒落した。ビスマルクの聯邦國家は崩壞した。生れ出たものは新ドイツである。

ドイツの青年は叫んだ。

『新ドイツの建設者は、われ〳〵青年でなければならぬ。嘗ては、青年は第二の國民として稱されしかし、今や、青年は第一線に立たねばならぬ。われらは、第一線の戰士である。ドイツはわれらに期待してゐる』

と。ドイツの青年たちは、この意氣を以て、敗殘のドイツを背負うて起つた。

彼等はまた叫んだ。

『ドイツ民族統一の時は來た。聯邦間の境壁は破られ、新舊兩教の牢壁は毀された。われら青年の前には邦國がない。われら青年の前にはバイブルはない。全ドイツの青年は、たゞ一つの魂を持つてゐる。それはドイツ魂である。全ドイツの青年はたゞ、一つの鄕土を持つてゐる。それはドイツ國

である。全ドイツの青年よ、手を握らう、握手しよう、團結しよう！』

と。かくして、戰後のドイツの青年運動は、先づ以てドイツの統一運動に向つて馬頭が進められた團體としても、個人としても、ドイツの青年の胸懷に描かれるものは、實にこの統一ドイツ國であつた。彼等の前には、プロシヤもない、バイエルンもない、ブロイセンもない、たゞ存するものは、スタイン男爵の所謂『たゞ一つの祖國、ドイツ卽ちこれ』といふ言葉であつた。

かくして、傳說を取戻せと叫ばれた。かくして、民謠を唄へと稱へられた。かくして、たゞ一つの祖國と、たゞ一つの民族とが强調された。悠揚たる林間のギターの響きの中に、新興ドイツ建設の熱火が燃えてゐるやうとは誰が想像したことか。踏み締め踏み締めさまよひ廻るワンダーフオゲルの歩みは、その一足毎に統一結合の縫針が進められつゝあるものであらうとは、何人がこれを考へたことであつたか。

六　過ぎたるは及ばざるに如かず

ドイツ青年の、復興第一線運動は、全ドイツを一つの坩堝の中に投げ込んで、愛國の焰の上に灼熱するの觀があつた。全ドイツを團結せしめ、ドイツ魂を昂奮せしむることは、復興作業の準備行動

として最も必要なことであつた。ドイツ青年は、この準備行動に成功したのである。而して、彼等青年自身が、全ドイツを擧けて一致協力したことが、復興作業に對する、千均の重みであつた。

けれども、この青年運動の發展には、幾多の曲折あるを免れなかつた。なぜなれば、過ぎたるは及ばざるに如かずで、その強烈なる愛國心は、反つて一部血氣の青年等をして、軍事的訓練に熱中せしめ、武力復興の氣運を濃厚ならしめたからであつた。それがために、幾多のかゝる軍事的青年團體が聯合國の監督委員の手によつて解散を命ぜられた。彼等は體育倶樂部に名を假りて、射撃、行軍、野外演習などを試みたのである。ある者は、正しく陰謀的計畫を立てゝゐたものもあつた。

叩かれては起り、起つては叩かれ、愛國的青年團體は、非常な苦痛を經驗した。これがために穩和なる團體までも猜疑の眼を以て警戒され、青年團體發達のためには、甚だしい打撃を受けたけれどもその苦痛と艱難の間に、彼等ドイツ青年は、尊き試練を經驗した。從等はドイツの大自然を凝視しつつ、ドイツを興隆に導くべき潛勢力を養ふの術を體得したのである。

彼等復興第一線の戰士等は、ドイツ民族永遠の生存のために、百年の方針を定むべく、ドイツ魂の徹底的鍛練と、全ドイツ青年の强固なる精神的團體的結合への訓練とに向つて努力した。

而して、各人がその本務を眞面目に遂行すべきことを企圖した。この堅實なる考への下に、各人が

國民として、軌道を踏み過らざるところに、着實なる團體が生長發達すべく、それが、國家的に最も偉大なる奉仕であることを信じたのである。

七　全ドイツ青年を貫くもの

無數の青年團體が、色々な名稱を以て生れ出た。しかし、その中でも、最も大きく、最も組織的に最も一般的に發達したものは體育團體である。健全なる身體の養成と、良風美俗の修養と社會的團體的訓練と、徹底せしむることを念として、ドイツのスポーツは戰後になつて著しく發達した。今日ドイツにおける、體育團體は、實に種類として五十餘種を擧ぐべく、團體數として二百有餘を數へ、團員總數實に一千八百萬を算してゐる。

體育團體の外に、文學、藝術、科學、職業、職業が異なり、社交、その他幾多の青年團體がある。それらの無數の青年團體は、名稱が異なり、階級が異なつてゐるのであるが、その全ての團體を通じて、變らざる信條と訓練とがある。それは、實にワンダーフオゲルの信條である。

日の光を浴びよ！
浩然の氣を養へ！

自然に親しめ！
民謠を唄へ！
傳說を取戻せ！
祖國の地理を知れ！
祖國の土に芽ぐむ魂を思へ！
協力せよ！　團結せよ！
國は一つ、ドイツ國！
民は一つ、ドイツ民族！

卽ちこれである。ワンダーフオゲルは、實に全ドイツ國民を抱擁する。ドイツ人は、このワンダーフオゲルの氣分の中に無數一體となつてゐる。ドイツを護り、ドイツを慰め、ドイツを活動の歡喜に躍らせるものは、このワンダーフオゲルである。

戰敗ドイツは苦熱の煉獄であつた。しかし、ワンダーフオゲルは、ドイツ人を誘つて天國の晴れやかさを知らしめた。しかし、ワンダーフオゲルは、一切の辛苦を享樂の境地に轉ぜしめつゝある。

ワンダーフオゲルは、ドイツ人をしてドイツの愛すべきを知らしめ、ドイツ及ドイツ人の尊重すべきを思はしめ、ドイツの天地の美しくして、歷史の悠久なるを悟らしめてゐる。

八　復興作業と青年男女の活動

戰敗ドイツは、同時に革命ドイツであつた。この二重の遭厄は、國事をしていやが上にも多事ならしめた。通貨膨脹は經濟界を根柢から覆へしてしまつて、社會狀態を極端なる不安に陷れた。人心は險惡になる。黨爭が激しくなる。共產運動が猛烈になる。貧苦が全ドイツを脅威する。道德は腐り秩序は紊亂する。捨鉢の淫蕩生活がはじまる。

この時に方つて、毅然として、ドイツ國民の執るべき態度、進むべき道を示したものは、復興作業の第一線の士を以て任じた青年そのものであつた。

たゞ一つの祖國
たゞ一つの民族

彼等はドイツ民族の英雄的傳說を取戻すことに向つて邁進した。彼等全ドイツ國民に向つて、

『われらは、古英雄が然りしが如く、高潔な情操を、貧苦艱難のために曇らしてはならぬ』と警告し

た。

混亂せる思想的國難に向つては、

『われらはカントを生んだ國民ではないか。ドイツ人は、權利と義務とは、同一分量であらねばならぬことを知つてゐる筈である。汝の職務に忠實であれ、汝の本務を完うせよ。汝の義務を盡せ。今日のドイツを救うの道は、主義や政策に忠實なることではない。それよりも、各人が生産上の全能力を發揮すべく、その職務に精進することである。働らけ、働らけ、働らけ、戰敗ドイツの國民は、働らいて稼ぎ出すより外に、幸福を招來すべき道はない』

と自由と權利とを振りかざして、從らに主義や政策に狂奔するの徒に挑戰し、煽動政治家に向つては『共産黨たると、國粹黨たるとを問はず、煽動と示威運動に沒頭して、國家に對する勞働奉仕の責務を果さず、反つて人心を惑わさんとする者は、等しくこれドイツ民族の敵である。今日のドイツは、すべての人間の生産的活動を要求する』とたしなめた。

社會的秩序の紊亂、道德の頽廢、男女生活の放縱に對しては、

『秩序を重んぜざるは文明人たるの資格なし、道德を尊重せざるものは社會人たるの資格なし、性道德を紊すものは文明の呪咀者なり。かくの如きは、宜しく社會より葬り去るべし』

とした。性道德の破產に對しては、特に女子青年團の挑戰的、貞操擁護の運動などが起つたのであつた。

一、統一ドイツの建設の目標を示したこと。
二、思想國難に對して善處したこと。
三、社會的道德的秩序の恢復に努力したこと。
四、國民的團結に向つて生氣を吹き込んだこと。
五、民族的自覺を促したこと。
六、職務を重んじ各人の義務を果すべきを强調したこと。
七、節制儉約國富を尊重したこと。
八、勤勉努力國富增進のために精進したこと。

これらは、彼等青年が陣頭に立つて、實行したる諸功績として擧げることが出來よう。彼等は全國的な復興の意氣込みを醸成する上に、非常な生氣と活氣とを與へることに最も大きな貢獻をなした。自ら全ドイツを背負うて起つた、その意氣込みこそ、確かにドイツにとつて晴々しい光明であつた。

九　叩き拔かれて發達した青年運動

復興第一線の戰士としての青年等は、上記の如く全國的に大きな雰圍氣を醸成することに努力すると同時に、一面においては地方的に種々なる奉仕的行動をとつた。彼のドレスデンの青年科學研究所の如き、ブレスラウの照明節約女子青年團の如き、その一例として指示することが出來る。

この外にも、色々な奉仕的運動がある。リーゼンの青年團では、未耕の荒地を借り受けて、餘暇を見てはこれを耕し、これに麥を作つた。一九一八年から、一九二五年までの間に、實に四十町歩の土地を開き、四千石の麥の收穫を得るやうになつた。かくの如く、彼等青年たちは、一方に高遠の理想の下に立つと同時に、一方には手近かなところで、こつ〳〵と仕事をして行くといふ風である。

『常に備へよ、機會は不用意の人を訪はず』

とは彼等の信條である。常住一寸の油斷もなく、何時如何なる時、好機會がやつて來ても、直ちにこれを捉へることの出來るやう、不斷の準備をしておくことが、彼等日常の心掛けなのである。彼等は『ドイツの青年なるものは、剛健にして質實、精力旺盛にして、ドイツ魂の充ち滿ちたものでなければならぬ。而して、規律を重んじ、勤勉精勵、倦むことを知らざるものにして、はじめて、國家の

隆昌に向つて貢獻することが出來る』

と信じてゐる。信じて而してこれを實際に行ひつゝある。その實行に方つては、幾多の困難があつた組織の上には種々なる誤解から、聯合國の嚴重なる監視干渉を受け、實行の上には、經濟上、政治上思想上、あらゆる困難と鬪はねばならなかつた。叩かれて叩かれて、叩き拔かれて發達して來たのがドイツの青年運動である。そこに、强靱なる彈力もあれば、精巧緻密を極めた組織もあり、また整然たる訓練がある。

一〇　國家の大殿堂を築く青年

全ドイツ民族を、一致團結せしめんとすることは、一百年の昔からの識者の願望であつた。スタインも之を企てた。ナポレオンがこれを邪魔した。ハーデンベルグもやつた。フイヒテも努力した。すべてが、事意の如く行かなかつた。ドイツ體育の父と呼ばれる、ヤーンもまたこれがために努力し、それがために、囚はれの身とまでなつた。

ビスマルクのドイツ統一も、形式的には成功して、その內實はなか〳〵うまく行かなかつた。統一ドイツ國家なるものが、なか〳〵實現が困難であつた。そこには、政治的、宗教的、經濟的、歷史的

諸種の障碍が横はつてゐた。バイエルンにはバイエルンの心があり、またカトリックの信徒があつたプロシヤにはプロシヤの心があり、また新教の信徒があつた。各邦みなそれ〴〵の王と、心と、面目と、信仰とがあつて、なか〳〵融和し難いものがあつた。

しかも、全ドイツ人を通じて、統一民族國家の實現を要望する切なる願のあることは、爭はれぬ事實であつた。けれども、傳統と行きがゝりとは、その實現を沮んだのである。戰敗と革命と帝國の崩壞とは、過去の一切の傳統と行きがゝりとを除去する機運に當面した。ドイツの統一はまづ心の統一であらねばならぬ。として傳說の復興と、ドイツ魂の振興とが高調された。その中核となつたものは實に青年であつた。かくして、戰後におけるドイツの青年運動は、統一國家の建設に向つて礎石を定めたものと見ることが出來る。

これ、彼等青年が、自ら敷いた礎石の上に、國家の大殿堂を築き上ぐるものは、青年自らであるとして、活動の第一線に立つ所以である。然り而して、彼等の國民的、團體的、組織的、訓練と修養とは、上來述べ來つた如く、まことに整然たるものがあり、將來の發展に向つては大なる期待の存するものがある。何れにしても、青年が、復興運動の第一線に立つたといふことは、復興作業の促進の上に大なる貢獻をなしたものであるといはねばならぬ。

第四章　產業上の無駄排除運動

一　ベルリン大學の創設

一八〇七年ナポレオンのために、滅茶苦茶に蹂躙されたドイツは、彼の忘るべからざるチルジットの屈辱媾和を結ばねばならなかつた。その時に方つて、ベルリン大學が建設された。ヘンリー親王の宮殿をそのまゝ校舍に充て、二百五十六名の學生を收容して、いよ〳〵開校する運びになつた。その開校式に方つて、フリードリツヒ・ウイルヘルム皇帝は、

『プロシヤは今窮亡の極にある。かゝる國歩艱難の場合、少なからざる經費を投じて、大學を創設する所以のものは、一に、物質的に失へるところのものを、精神的に回復しなければならぬからである諸子宜しく此の意の存するところを體せよ』

と勵ました。敗れたるプロシヤの復興のために、遠大なる計畫を樹つるところに、失敗しても屈せず謀を百年の後に廻らす餘裕を示すドイツ魂が躍つてゐた。

二　復興促進車の活動

チルジット媾和の後に、ドイツ復興のために、最も著しく活躍したものは、ドイツ國民の精神的指導者たちであつた。

時代は變る。

世界大戰後に、ドイツ復興のために、最も活躍したるものは、産業統帥者たちであつた。『われらは負けた。われらの國富は損はれた。われらの繁榮は頓挫した。しかし、われらは失望してはならぬ。われらが戰場において失つたところのものは、われらの産業戰場において取戻さねばならぬ。不斷の努力！　不斷の前進！　戰後に處するドイツ人の覺悟はこれあるのみ！』と叫んだ。

而して、精神的方面に向つては、若き、血潮のたぎる、青年が活躍した。所謂ユーグンドベヴエグング（青年運動）がそれである。産業統帥者の活動と、青年の活動と、この二つは、復興促進車の兩輪であつた。この兩輪に油を注ぎ、復興促進車の活動を圓滑ならしめ、能率を高めさしたものは、實に婦人の活動であつた。

三　大目玉で事業を統裁したスチンネス

世界大戰の末期に方つて、ドイツ産業界の大立物、アルバート・バリンが自殺した。社會主義者達は狂喜して叫んだ。

『資本主義は倒壞した。世は社會主義に向つて展開する』

と。この叫び聲を聞いたスチンネスは、

『飛んでもない、戰敗ドイツを救ふものは、一層強大なる資本主義でなければならぬ』

と。彼は非常に勇敢であつた。資本主義の堅城に據つて、一步も動じなかつた。スバー會議の時である。彼はドイツの勞働代表フエと共に、專門委員としてこれに列した。フエは革命成功後におけるドイツ勞働組合の旭日昇天の勢を背景として、盛んに賠償責任の主體としてドイツ勞働組合を認めさせ、この交涉の要位に自ら當らんとした。スチンネスはこれにも反對した。

『政治は政治、經濟は經濟、負けたドイツに政治はない。經濟上の問題は當分われ〳〵産業統帥の任に當るものに一任して貰ひたい』

と放言した。彼は政治及政治家など眼中になかつたのである。この傍若無人のスチンネスは、とに

もかくにも、戰後の經濟界における大立物の一人であつた。彼はその力にまかせて、盛んに企業合同を行ひ、膨大なるスチンネス・コンツエルンを築き上げた。この大コンツエルンに包含せられた工場會社總數實に四千五百五十四、資本總數二四四、一二八、二七三、一六一マルクに上り、これと關係を結ぶ銀行數十一、資本總額七七、四二四、七二二、一九五マルクを算した。

けれども、彼の事業方針、及び、經營方法は、從來の大トラスト主義そのものであり、何等新時代に處する新經營法の發明をなすところがなかつた。これを見たある大銀行家が、

『スチンネスの發展は喜ぶべきであるが、その企業組織を見ると、二つの目玉でギヨロギヨロ見廻してゐなければ運用が澁る、これは危險なことで、スチンネスの前途は警戒しなければならぬ』といつた。卽ち、スチンネスのやうな大人物が上にゐて、采配を振ればやつて行けるが、その大きな目玉がなくなれば危ないといふのである。

四　産業上の浪費に對する戰鬪

果然スチンネス王國は崩壞した。スチンネスの沒後一年にして土崩瓦解してしまつたのである。これには、全ドイツの産業統帥者も深く考へさせられた。而して、戰爭當時から、盛んに新國家經濟を

唱導し、企業の中央集權的統一國家の實現を企望したワルター・ラーテナウの言を味つて見るやうになつた。

けれども、ラーテナウの『新國家論』には、深い哲學があつた。その哲學は容易に一般大衆の胸には響かなかつた。中小企業家の心には、特にそれが時代放れのした感があつた。こゝにおいてか、反つて國を隔てたアメリカ流の企業統制が考へられるやうになつた。

『無駄をなくしよう。時間を無駄にしまい。勞力を無駄にしまい。材料を無駄にしまい。物の本末順序を誤らず、整然迅速に事を運んで、生産能率を高めよう』

といふ簡明な要望からして、企業經營法の改良が考へられもし、行はれもするやうになつて來た。その運動は、ハーバート・フーヴアーがかね〴〵唱導し來つた『產業上の浪費に對する戰鬪』といふ形で『浪費退治』を標語として行はれるやうになつた。この『浪費退治』といふ語は、特に勞働者が深く反省するところがあつた。それが、戰後における、節儉緊縮の方針とピツタリ勞働者に强く響き符合するところあつたことが、產業上の無駄排除運動を促進せしめた。

五　大衆常識としての浪費退治宣傳

浪費退治の宣傳は、勞働者をして、ひどく緊張せしめた。その宣傳に方つて、スチンネス王國崩壞の原因が、その浪費の甚だしかつたためであるといふ風に、特に爲にするところある宣傳を行つたものもあつた。何れにしても、スチンネス王國の崩壞が、新時代に適合する企業組織でなかつたといふ理屈が、產業上の浪費說によつて體系付けられたことは、新企業組織の發展に著しい影響を與へた。

產業上の浪費を退治することが、國富の浪費の防止ばかりでなく、それが、反つて著しい生產能率の增加を誘致するものであることを一般に知らしめた。そして、大衆常識として、安い品物を作るためには、左の諸條件を充たさなければならぬといふことが、盛んに宣傳された。

第一。安い品物の生產の祕訣は大量生產であること。

第二。安い品物を作るためには、

（イ）勞働力を一層精密に利用すること

（ロ）勞働を機械的に統制すること

（ハ）引合ふ限り機械を使用することが必要であること

第三。安い品物を作るためには、ドイツの全工業が統一され有機的に組織立てられなければならぬこと。

かくの如きは、解り切つてをることでありながら、全產業勞働者及び關係者の間に、その空氣が充滿しない限り、實行を促進する上に、敏活を欠く恐れがある。ドイツ人は何事をなすにも、最初大衆の間にこの一つの雰圍氣を釀成するための宣傳をおろそかにしない。

六　生產經濟の鐵則は勞働の節約

生產上の無駄を排除する目標は、前に述べた通り、

一、勞働力を浪費せぬこと

二、時間を浪費せぬこと

三、材料を浪費せぬこと

四、仕事の本末順序を誤らぬこと

五、販路を擴張すること

などが大衆常識として列擧される。これを、生產經濟の立場から、少しく固苦しく云つて見るならば夫々の費用の支出から、最大の成果を得ることが目標である。これを、アメリカでは、『生產經濟の鐵

則は勞働の節約である』といつてゐる。

この生産經濟の鐵則を實現せんがために、アメリカではどんなことをやつてゐるかといへば、大體左の諸條項である。

第一。勞働力の精確なる利用（テーラーシステム）

第二。勞働工程の精確なる整調

第三。勞働工程の機械的統制

生産、運輸、販賣の三者を統合せんとするものである。勞働者の賃銀を增大することは、購買力を增加せしむることで、販路擴張に重大なる要素の一つとなつたことなど、この條項の最も著しい作用の現れである。

第四。商品經濟結合

第五。資本主義組織の合理化

從來の半面的トラスト主義から脫して、平面的に且つ垂直的に、卽ち立體的トラスト主義をとらんとするものである。これは、同一種類の企業間の激烈な競爭がより一層の分業を誘致する結果、必然的に勞働工程の集約と、勞働成果の增大を伴ふものである。また、共同販賣及協定を伴ふシンヂケートを作ることによつて、同一の結果を實現することが出來る。更に又、一產業部門の主要企業團の聯合乃至合同は、必要なる分業を意識的に創出し、かくして、合理化され分業化された產業部門を最高限度に利用するものである。

第六。消費の金融的統制。

アメリカにおいては、消費の金融的統制が非常に發達し、購買上の信用制度が普及してゐる。その結果販路が非常に擴張され發達してゐる。この信用制度が米國の消費品產業を著しく發達させたのである。

斯うして見ると、生產の浪費退治といふことは、畢竟生產の積極的增加運動とも見られるのである。心の持ちやう一つ、組織の立てやう一つ、組織の運用法一つで、消極的なことが、積極的なことに變ることも出來るのである。ドイツは、このアメリカのやり方に注目したのである。

七　產業合理化運動の促進

三十有餘年前から、アメリカでは、トラスト征伐なるものが始まつた。しかも、それがなか〳〵うまく成功はしなかつた。元來が經濟自由のための戰でありながら、トラストの牙城の堅牢さは手を

變へ品を變へての攻撃にあつても、ビクともしなかつた。ところが、こゝに、怪傑ハーバート・フーヴァが現はれた。彼は、經濟の自由によつて、最高の勞働成果を擧ぐべく、

『產業上の浪費に對する戰鬪』

を開始したのである。彼は經濟國民として、最高能率を發揮する義務があるとして、產業上の浪費を防止することが、その先決要件でなければならぬとした。これが、前節の六項目の實行となつたのである。一方においては、フォードが實際に、この浪費節約の模範作業を行つた。かくして、さしも、堅牢なりし、トラストの牙城は搖ぎはじめ、資本主義組織の改造が行はれるやうになつた。これが、アメリカにおける產業の合理化運動展開の序幕である。フーヴァが、『合理化運動』なぞといふ四角張つた語を使はずに、產業上の浪費に對する戰鬪を挑んだところに、彼の大衆政治家としての面目が躍如たるものがある。

ドイツが、アメリカの、このトラスト組織の動搖に、非常な注意を拂つたことはいふまでもない。而して、スチンネスの大トラストが、土崩瓦解するに及んで、いよ〳〵これはた〳〵事でないことを痛感したのである。こゝに於てか、豫てから、ラーテナウなどが唱導し來つた、社會的自由を目標とする生產の集中統制を反省し、これにアメリカの實例を比較研究して、所謂生產の合理化（ラチオナリ

ジールング）を企圖するやうになつた。

一九二五年になつて、よう〳〵本氣にこの合理化運動に精進することになつた。けれども、既に幾多の試練を經て來てゐたドイツ及びドイツ人である。合理化運動は、着手と共に驚ろくべき勢で進展した。その運動行程は、可成り多くアメリカに倣つてゐるところがあるが、流石に、例のドイツ人の研究癖が、どこまでも、ドイツ式合理化運動を體系作ることに成功しつゝある。而して、合理化運動の進展の結果、眼に立つて見ゆることは、

一、機械利用の增加
二、動力使用の增加
三、諸種の勞力節約設備の發明
四、標準化された製品生產の增加傾向
五、無駄排除の促進
六、生產方法の改善による經費節約
七、經營方法の改善による經費の節約

などであつて、この結果として次のやうな事實が現はれて來てゐる。

一、産業の合理化が行はれ、企業の合同集中が實行されるために、工場數が漸減しつゝある（但し一方に産業發達を企圖しつゝあるために。工場數の實數は將來において增加するであらう）

二、機械力の利用が盛んになつたため、職工數が減少しつゝある。ドイツにおける失業者增加は現下の社會上の大問題である。

三、使用動力の增加

四、職工の賃銀增加、生産能率が高まり、職工數が減じたゝめ賃銀增加が當然可能になつた

五、生産總額の激增

かくの如く合理化運動は、着手以來非常な好成績を示してゐるので、將來いよ〳〵これが全産業的完成が期待せられることであらう。合理化運動の最も遲れてゐるのは、農業方面であるが、これも着々實行に向つて步が進められつゝある。

八　合理化を行つた工業の例

ドイツにおける合理化運動は、實際驚ろくべき勢で進展した。重要工業、及、化學工業の方面は

今日までに殆んど全部實行されたといつてもよい。今その産業組織の變化、卽ち合同化の狀態が、いかに盛んなものであるかを見るために、左にその二三の例を列擧して見る。

一、鑛山製鐵業。スチンネスの經營してをつた企業の中、シーメンス・ライン・エルベ・シユツケルト・ユニオンは、スチンネスから分離して、それと他の大製鐵會社數社と合同して、合同鋼鐵會社が、一九二六年一月成立した。

二、石油工業。一九二五年十月、ドイツの二大會社なりし、ドイツ石油會社と、ドイツ地油會社と、合同し、それに他の小石油會社數社が參加した。

三、加里工業。すべて七十餘の工場あるが、これらはすべて、合同加里工業會社及ウインタースハル企業團體の二大組織の下に集中した。

四、機械工業。一九二四年以來、ライン及ルール地方の多數の機械會社は、ドイツ機械製造會社に併合した。

五、製粉機製造業。一九二五年末五大會社が一社に合同。

六、車輪製造業。二大企業が合同し、これに自動車會社が合併した。

七、電氣工業。AEG電氣會社と、シーメンス・ハルスケとの二大會社が對立してゐる。

八、化學工業。染料工業トラストは、一九二五年七月バーデン・アニリン及ヘクスター染料工場其他多數工場を合同したものである。

九、肥料工業。一九二六年七月までに合同成立。

一〇、燐寸工業。一九二五年末ベルリンに北ドイツ燐寸會社、又、ミユンヘンに南ドイツ燐寸會社の二大會社成立し、多數の小獨立會社を併合した。

一一、人絹工業。EG染料會社と合同グランツストフ會社の二大社會が、他の小會社を合併した

一二、紡績工業。一九二七年以來合同增資してゐる。

一三、船舶業。ハムブルグ・アメリカ會社と、北ドイツ・ロイド會社と對立。

一四、造船業。一九二六年三造船所が合同して、ドイツ船艦及機械建造會社を組織した。一方にはドイツ造船所がある。

一五、製紙工業。

一六、毛織工業。

一七、製糖業。

一八、煙草工業。

一九、航空工業。

二〇、保險業。

右の如く殆んどすべての工業方面に於て、合理化運動が促進されてゐるのである。

これを要するに、產業上の無駄排除の運動が、產業の合理化といふことにまで進んで來たものである。而して、その合理化運動が、かくも著しく促進されたといふことは、ドイツ人の愛國的奉仕の念が、一切の私情を捨てゝ、大道に卽くといふ大きな度量となつて現はれたからのことである。ドイツ人が、何事をなすにも、國家、國富、ドイツ民族、ドイツ魂、ドイツ文化、といふ風に、大きな立場から共同一致の行動をとり、その行動が、組織的で、整然たるものである點は確かに尋常なる國民でないといふことを物語つてゐる。

產業合理化運動そのものについては、別に他の機會に詳述することがあると思ふが、ドイツ人が產業合理化を促進するまでに、無駄の何ものであるかといふことに、明瞭なる自覺と理解を持つことが出來たといふことが、最もこの合理化運動を促進發達せしむる原動力となつたものであると思ふ。

ドイツの產業統帥者たちが、戰後のドイツ及びドイツ民族の運命を、自らの双肩に荷つて、復興戰

場の第一線に活動し、勤儉自らその模範となり、産業上、經濟上、一切の無駄を排除し、あらゆる方面に於て最高能率を發揮せしめんとした眞劍さと、意氣込とを想はねばならぬ。

第五章　獨逸人の祖國觀念

一　共和國といふ文字を使はぬ獨逸人

革命によつてドイツ帝國は亡び去つて、ドイツ共和國が生れ出た。新政府は新興共和國の平和と秩序とを保持せんがために、全國にわたつて義勇兵の募集をやつた。その募集宣傳には、ポスターや、散しや、新聞廣告や、あらゆる方法をとつた。

その宣傳文や、ポスターや、廣告や、ビラなどの種類は無數にあつたが、その中に使用された文句を見ると、何れも『祖國のため』『ドイツのため』『鄉土のため』といつたやうな文字が使用せられて一として、『ドイツ共和國のため』といふ文字を使用したものがなかつた。

『ドイツ共和國といふ文字は、憲法の中にあるだけだ』

といつた人があるが、その位に、ドイツ人は、『祖國』（ファーターランド）といふ文字に愛着し、『鄉土』（ハイマート）といふ語に隨喜してゐる。そこに、ドイツ人の復興への眞劍さが芽ぐまれてゐる。

二　祖國は何處にありや

百十餘年の昔、プロシヤの名相スタインは、

『予はたゞ一つの祖國を持つてゐる。それは、ドイツと呼ばれるところのものである』

と云つて、全ドイツ民族の血を湧かした。彼の眼は、一プロシヤをのみ眺めてゐたのではなかつた。實に、全ドイツ民族を包括する、大ドイツ國を念じてゐたのであつた。『祖國』――（ファーターランド）

この言葉こそ、ドイツ民族をして、たゞ一つの希望と、たゞ一つの理想と、たゞ一つの光明とに活かしむる生命の籠つた言葉である。シルレルは、既に早く、全ドイツ民族に呼びかけて、祖國觀念を高調した。彼は

親しき祖國に愛着せよ
心を擧げて身を擧げて

それぞ汝の氣力生む
強き幹なれ基なれ

と歌つた。然らば、祖國とは何を意味するか。ドイツ人の所謂ファーターランド（祖國）の意味はアルンドによつて、はつきりとドイツ人の腹のどん底に刻み込まれた。曰く、

われらの祖國はいづく？
ドイツの言葉の通ずるところ
天にまします神にまで
ドイツの歌をば奏するところ
これぞわれらの呼びなせる
ファーターランドのあるところ

と。一つの言葉、一つの民族、ドイツ人の存するところ、そこに、彼等の祖國觀念は勇躍する。

『ドイツ人の血の一滴の存するところ、そこに祖國が榮えねばならぬ』

これドイツ人の世界的生存への大信念であり、大抱負である。同じ血汐、同じ思想、同じ言葉、同じ文章の存するところ、祖國が存するのである。

三　祖國觀念と鄕土觀念

ドイツ人は祖國（ファーターランド）を重んず。それと、同時に鄕土（ハイマート）を愛する。鄕土とは、生れ故鄕といふ意味よりも、生れた國土といふ意味の方が力強い。祖國に對して母國があり、母國に對して鄕土があるといふ風に考へるのが普通であるが、ドイツ人にとりては鄕土といふ意味は、寧ろ母國といふ感じの方が強く響くのである。こゝに於てか、ドイツ人の、祖國觀念なるものは、いよ〳〵顯明なるべきを思ふものである。

ドイツ人の愛國心は、どこまでも、ドイツ民族國家を、第一前提としての愛國心である。世界の何處にあつても、ドイツ人はドイツ人であり、ドイツ國はドイツ國である。世界の到る處にドイツの祖國が儼存する。而して、その祖國愛が、鄕土（ハイマート）愛の琴線に和して、眞乎のドイツの愛國心が完成する。

フイヒテは云つた。『人は自己を生み、自己を敎育し、而して、自己を生み、自己を敎育する、同種同文同語の因緣について、フイヒテは最も力強く、同胞觀念を高調するのである。さればこそ、こゝに、ドイツの國是としての、敎育の大方針が、

『國家の教育、國家のための教育、國家による教育』といふ三拍子に定められたのである。これこそ、正にドイツの民族主義の表現である。祖國觀念の解說である。

ドイツ人の考ふる世界は、ドイツの外には出ない。何事もドイツのためである。何事もドイツ本位である。何事もドイツ萬能である。『ドイツ、ドイツ、ドイツ』これがドイツ人の夢寐にも忘れ得ぬ科白である。呪文である。然り而して、彼等ドイツ人の胸懷には、根強き祖國（ファーターランド）觀念と、情熱的な鄉土（ハイマート）觀念とが潛んでゐる。祖國觀念は、ドイツをして世界的ならしむる所以であり、鄉土觀念は、ドイツをして堅牢着實ならしむる以所である。

四　ドイツ至上主義

ドイツ人の祖國觀念と鄉土觀念とは、ドイツ人に燃ゆるが如き、愛國心を養成した。それがドイツ至上主義にまで徹底した。フイヒテは、そのドイツ至上主義の權化であつて、彼は、

『ドイツの精髓は、最もよく、ドイツ語に現はれてゐる。ドイツ語は、啻にドイツ精神の表現としてのみでなく、ヨーロッパに於ける、唯一の純粹なる本源的な言葉である。かくの如き言語を重んじないといふ法はない。ドイツ語以外の國語に到つては、すべてラテン、及び、グリークによつて汚されてゐる。ドイツ語のみが、獨り純粹無垢であつて、少しも汚されてゐない。かゝる本源的な言葉を持つてゐる民族は、その起源を人類の起源にまで溯らなければならぬ。かゝる民族こそ、本源的な民族でなければならぬ』

といつてゐる。かくの如き自負心を以て、世界のあらゆる民族の上に優越せんとする意氣込みは正に大したものである。ドイツの國家が歌ふところを聽けば、正に彼等ドイツ國民は、世界のあらゆる民族の上に優越せんとの、大望が燃え立つてゐるのである。熱烈なる愛國運動が起つて來るのも故あるかなといはねばならぬ。

ドイツ至上主義は、フイヒテの一手販賣ではない。その後に現はれた、ドイツ民族の指導家たちはみなこのドイツ至上主義を鼓吹して、祖國觀念を叩きに叩いて、以てドイツ魂を激勵昂奮せしめたのである。近代におけるトライチユケの呼號と、カイゼル、ウイルヘルム二世の活動とは如何に壯觀を呈したことであつたか。それが、一朝にして敗戰の悲運に遭遇して、ドイツ至上主義も一頓挫を來したかの觀があつた。しかも、ドイツは屈せぬ。ドイツの祖國觀念は、反つて力強く彈ね返つたのである。

五　民族永遠の生存即祖國發展

ドイツ人は祖國を重んずる。祖國を重んずるが故に、祖國を護り、祖國を繁榮に導くことに對しては、あらゆる努力を惜しまない。彼等は、この努力を稱して、祖國愛が國家を支配するものであるといつてゐる。然らば、彼等の祖國愛の具體的表現は何であるか。それは、

一、國内の平和と秩序の維持に向つて努力すること。

二、國民の所有、個人の自由、個人の生命、及び、個人の安寧とを維持することに努力すること

三、ドイツの文化を進め、富を增加し、同胞の生活を幸福ならしむること。

の三つを數へることが出來る。しかし、彼等ドイツ人は、更に、この上に、今一つを要求するのである。それは、一層高尚なる祖國愛の焰、すべての觸るゝものを燒き盡さずんば止まざる焰である。

ドイツ人は、祖國なるものを、彼等の全生命に代へても、これを擁護せざるべからざるものなることを信じてゐる。卽ち、彼等はドイツ民族の永遠の生存を思ふからである。彼等の生存は、子孫萬代にわたるものなることを知つてゐるからである。彼等が永遠に生きるといふことは、祖國そのものが盤石不動なることを意味するのである。

祖國とは永遠の生存そのものである。祖國とは、ドイツ民族の生命の體現である。ドイツ人が全生命を賭して、祖國の發展と向上と興隆とに努力する所以のものは、實にドイツ民族、永遠の發展と、興隆と、幸福とを念ずるが故である。彼等の思惟する祖國なるものは、決して槪念的國家觀念ではない。彼等は眞劍に、子孫と同胞の永遠の誇りと、生存とを考へてゐるのである。

第六章　獨逸人の義務觀念

一　各人がこつ〳〵やつてゐる

ドイツ人は鈍重である。そして、忍耐力が强い。鈍重なドイツ人は、事に當つてなか〳〵あせらない。あせらずにこつ〳〵やつて、何時の間にか萬事を切りぬける。苦しくても思ひ立つたことは、どうしても之を成し遂げる。そのやり方が、甚だ地味であり、のろ〳〵してをり、氣の短かい人には歯痒くもあるが、その努力が着々として事實となつて實現して來るのは輕んずるわけには行かぬ。苦しい苦しい、困つた困つたといつて、泣き言を世界に宣傳してゐる間にも、彼等は着々として、復興作業の歩を進めつゝある。そして、それが實際に花々しき復興の姿となつて吾人の眼前に展開してゐる

泥棒がふえ、殺人强盜がふえ、詐欺がふえ、遊蕩怠惰の風が盛んになり、戰爭直後のドイツはまことに慘憺たるもので、救ふべからざるもの〻如く見えたが、その反面には、敎育の改革、宗敎の刷新新ドイツ魂の興隆といつたやうな運動が、目に見えない間に起つて、何時の間にか矯風の成績を擧げてゐる。現在をどうしようかといふ、切貼り式、急製改革法には餘り眼に立つものがないが、この先きをどうしよう、將來をどうしようといふ風に、將來に對する永い眼で見た改革の組織を、着々として網の眼を細かくして行きつ〻ある。

斯うしたことを見てゐると、ドイツ人の鈍重性は、常に氣の永いことばかりを計畫してゐるやうに見える位である。意識的にやつてゐるのか、無意識的に、本能的にやつてゐるのか、ハツキリと解らないことが多いけれど、總體を一括して之を檢して見ると、全ドイツにわたつて、一齊に行はれつ〻ある諸種の努力が、ドイツ人一流の組織となつて建設せられつ〻あるを認めるのである。こゝが一つの注目すべき點である。

二　身についたものを敎育する

生活と職業とが相一致してゐる點においてドイツ人は全く一の驚異である。彼等は、その職業をたのしむことゝ、生活を樂しむことゝを全く一致せしめてゐる。彼等は、その職として奉ずる知識才能經驗は、彼等の生活の全體である。彼等のその職に忠なるは、その生活の忠なる所以である。

そこで、ドイツ人は、職業に高下の差別を認めぬ。敢者は敢者、門番は門番、下足人は下足人で、自分の經驗と技術とに滿腔の信念を持つてゐる。彼等は、職業を聖化して生存しつ〻ある。

斯くドイツ人は、一般に、生活と職業とが一致してゐる。從つて、彼等はどうしても專門的になるドイツ人は人を使用するに方つて、

『お前は何が出來るか』

と尋ねた場合、

『何でもやりますから、使つて下さい』

といふやうな返事でもするものがあつたら、決して斯樣な人を使はない。學校を出たばかりのほやほやでも、斯かる漠然たる返事をすることを許さない。

『私は××は出來ます。これだけの勉强はしました』

とはつきり自分の出來ることを述べ、今までなし來つた仕事を打ち明けるやうでなければならぬ。さういふ場合に、使ふ方で

『しかし、今、君の出來る仕事はないが、一時これをやつてゐてくれるならば使つてもよい』

とか、

『それは當方には向かないから、どこそこへ紹介してやらう』

とかいふ風に、最初から各人の才能實力を基として、人を用ひる風があり、また用ひられるといふ風がある。

ドイツ人は、必らず、その身に付いたものを習得するやうに教育されて來てゐる。その身に付いてゐる一藝一能は、彼等の全生活をひつくるめてゐるのであるから、勢として、だん〳〵それが深くなつて行く。そして、專門的になる。ドイツ人に、よい技師の多いのはこれがためである。

三　義務心に訓練された國民

ドイツ人は、その職務に對して、極めて忠實である。これは、彼等の義務心が強いからである。ドイツ人は、子供の時から、力強く義務の觀念を注入される。ドイツ人は、元來が、頑固な、强慾な性格の持主であるが、自己の職業と生活とを活かすがために、社會といふ大きな生活網の中に、コツコツと自分の能力をはたらかして、生活分子の一員として、自己の本務を果すのは、この義務の訓練に

徹底してゐるからである。

義務を重んずるといふことは、確かに、ドイツ人の尊敬すべき一特性である。彼等は現在與へられたる、職務、及、地位を極めて忠實に保持し且つ本務を果すといふことは、彼等の美點である。

時計の針、齒車、鋲などが、それ〴〵の義務を果すところに、時計の機能がうまく發揮される、それを、鋲や、齒車などが、橡の下の力持ちで、人の目に立たないから、つまらぬといつて怠けたら、時計全體が駄目になつてしもうといふことは、小學校の教科書で、教へてゐるところである。それと同じやうに、ドイツ人は、人の目に立たうが立つまいが、現在與へられた職務に對して、極めて忠實であり、必らずその本務を果すのである。

嘗てドイツに優秀なる陸軍が發達したといふのは、全くこの義務に忠實なることの實證である。一兵卒は一兵卒として、士官は士官として、將校は將校として、その現在の地位、職務に徹底的に忠實であり、その義務を遂行するといふことが、立派なる大陸軍を作り上げ得た所以である。これは陸軍ばかりではない。ドイツの復興作業に方つても、同一である。全ドイツ人が、各自に各々その職務を重んじて、各人のなすべき義務を、忠實に果した總和が、復興作業進展の大現實となつたのである。

四　義務思想を說いたカント

ドイツ人は、權利を主張することに於て人後に落るものでない。彼等は猛烈に、頑固に權利の立場に立たうとする傾きがある。けれども、一面において、義務を果すといふことも、他國民には見られない位忠實な點がある。

近世ドイツの目ざめは、何といつても、フランス流の自由思想、卽ち、權利思想によつて刺戟されたものにある。而して、此の權利思想が、進取的であり、打破的であり、積極的であるところから、何人もこれに共鳴するものであることは、ドイツ人とても變りがない。ところが、フランスや、イギリスよりも、遙かにおくれて擡頭したドイツは、フランスや、イギリスの過去の經驗について、大いに反省するところがあつた。

ロックや、ホツブスや、モンテスキユーや、ヴオルテールなどの自由思想、權利思想は、イギリスにおいては『內亂』となり、フランスにおいては大革命となつて爆發したことは、何人もよく知るところである。ところが、ドイツにおいては、カントが現はれて、これら、先進國が經驗した、自由思想、權利思想とは反對に、義務思想を強調した、哲學が生れて來た。カント以後における、カントの

祖述者は、すべて、この義務思想を強調したのである。

ドイツをして、ドイツたらしめんがためには、全ドイツ國民が、各自その本務を果し、國民としての義務を全うせねばならぬとした。フイヒテも、シヤルンホルストも、スタインも、ハーデンベルグも、みな一身同體となつて、全ドイツ國民に向つて、各人の義務を果せと要求し、義務の觀念なきものは、權利を主張するの資格なしとした。

人皆の知るが如く、ドイツは、その擡頭のはじめに方つて、フランス、オースタリーなどの先進國から、いぢめにいぢめ抜かれたものである。しかも、國內は小邦分立で統一されず、まことに慘憺たるものがあつた。これを統一し、これを興隆に導くの道は、一にドイツ人としての義務を果すことに忠實なることゝによつて、一致團結の素地を作らねばならなかつた。

カントは人間に幸福をもたらすべく、義務の思想を說いたが、フイヒテ、スタインなどは、これをドイツ民族興隆のための刺戟訓練をして、義務思想の徹底に努めたのである。その訓練が百年傳統の試練によつて、ドイツの國民性化してしまつたのである。

五　權利と義務とは同一分量也

ドイツの復興作業をして、最も着實に發達せしめた、第一の要因は、何といつても、この、ドイツ人の義務觀念である。彼等は、あの窮亡危難の際においても、決して、祖國を忘れず、國民としての義務を果すことを怠らなかつた。國民のすべてが、自分の職務を勵んで、本務を果すことを努めたといふことは、これを見逃してはならぬ。

青年運動も、婦人の活動も、合理化運動も、要するに、この義務觀念が、よく發揮せられたからこそ、著しい效果を擧げ得たのである。『フライス、ウント、アルバイト』といふことは、ドイツ人の昔ながらの生活スローガンである。これを譯して、『いそしみはげむ』とでもいふべきであらう。この『いそしみはげむ』といふこと、そのことが、實にドイツ人の義務履行の實證なのである。

ドイツ人が、一事實行主義の立場にをり、專門的になり勝ちだといふのも、彼等のこの義務の觀念が、多く他を顧みるの遑を許さないのである。義務に徹底するものは、放心を許さない筈である。ドイツ人があらゆる仕事に、運動に、計畫に、一路邁進するといふのも、この忠實なる義務觀念が、然らしめつゝあるものである。この義務觀念こそは全ドイツ人を共通するものであつて、復興促進上の高熱な燃料である。

徒らに、自由とか、權利とかのみを主張せず、

「權利と義務とは同一分量なり」

といふ標語を振りかざして、國民としての義務を遂行するところ、將來ある國民の面目を物語つてゐる。

第七章　獨逸人の自治訓練

一　スタイン

プロシヤの大宰相男爵スタインは、ナポレオンに、踏み躙られるプロシヤの悲運を歎じて、どうにかして、全ドイツ民族永遠の生存のために、活路を打開せんと日夜腐心した。しかし、何しろ、ナポレオンの勢力が强大であつて、齒も立たない。

プロシヤは貧しい。全ドイツ民族は、困苦の中にあへいでゐる。重なる戰亂は安き心もない。スタインは、こゝに、自ら起つて全國に遊說し、町から村、村から里へと旅して說き廻つた。

『全ドイツのことは私に委してくれ。しかし、不幸にして、政府は今貧乏で、地方のことにまで手が延ばせぬ。それでお願がある。私が全ドイツの運命に全責任を負うやうに、諸君は諸君の村に責任を

持つて頂きたい。村は村、國は國、諸君は國のことなど考へて下さるな。國のことは不肖スタインが全責任を負ふ。今のドイツは、各人が、持場々々を完全に護らねばならぬ。私は村のことにかれこれ口を入れぬ。その代り諸君も國のことにかれこれ頭を惱ましてくれるな。今日の問題は、全ドイツの國民が、側目もふらずに、自分のやることばかりをやることである』

と、彼は到るところに、自活獨立の必要を說いた。そして、又付け加へて言つた。

『人間にとりて、自分の生れ故郷ほど尊いところはない。全世界の中で、一番の尊いところは鄕土である。その鄕土は鄕土人自ら護らねばならぬ。諸君は、その鄕土の護りであつてほしい。私は、その鄕土の集團であるドイツの護りとなるであらう』

彼のこの自信と抱負、彼の一言一句、悉く、熱誠と愛國の叫びであつた。全ドイツの國民が、彼に滿腔の信賴をかけたのも無理もない。

ナポレオンは、スタインの、この自治政策を睨んだ。そして言つた。

『今までのプロシヤ人は、政府ばかりを強くした。スタインはドイツ全體を強くする。これはフランスにとりて危險である』

と。かくしてナポレオンは、プロシヤの內政に干涉して、スタインの職を奪つた。

二　兵は劍に！　農は鋤に！

スタインの後を繼いだものはハーデンベルグであつた。彼もまた、スタインの心を享けて、自治農村の發達に努力した。それ以來、ドイツには、著しく、自治思想が發達した。自治思想の發達は、同時に、非常なる愛鄕心を高調せしめた。彼等農民は、この自治の訓練を經る間に、自治獨立の、彼等の生活にとりて、極めて便利にして、安全であることを自覺した。

それは、當時のドイツは、混沌たるもので、封建の弊風農民を苦しめること甚だしかつたから一村一鄕が團體的に結束し、團體的に行動し、團體的に利害を護ることが、極めて有利であることを知つたからである。それに、スタイン以來、農村自治體が、その生產增加のために、種々なる工夫施設を行ふべきことを敎へ込まれたので、自治體の經濟力が擴張しはじめたのである。殊に、ハーデンベルグの農村振興策は、農村發達に向つて著しい效果を擧げたのであつた。

フイヒテ、シャルンホルストなどの愛國運動が起るに及んでは、この自治市民に對して、更に、『祖國』觀念を注入し、健全なる自治體の存在が、『祖國』をして最も健全なる發達を遂げしむるものであることを知らしめた。

『兵は鋤に、農は鋤に』

といふ有名なるフリードリッヒ大王の言葉が、いかに、根強く、自治市民に對して、なすべき本務を自覺せしめたかは想像するに餘りがある。

三　人物分布の公平な獨逸

日本には、『上京熱』といふものがあるが、ドイツには、それがない。これには、種々なる原因がある。その一つは、ドイツは元來が小邦の集まりであるので、小邦それ〴〵に首都を持つてゐたから今日になつて、特に首都ベルリンにあこがれるといふことをしないのも一因である。

しかし、ドイツに、この上京熱の少ないのは、地方に大人物があり、大都市があることゝ、今一つはドイツ特有の愛鄉心が強いからであるといへる。

日本の中央集權主義は、一切を東京に集中する。政治、經濟みな然りである。東京は地方から人材までもすべて吸收してしまふ。そこで、地方は經濟難である。人材難である。人間が活動しようとするには、どうしても、東京に出なければならぬといふ風である。人材が中央に吸收されるために、地方文化の指導者が少なくなる。地方が振はないといふ原因の一つは、確かにこゝにある。

ところが、ドイツ人は、大抵その鄉里に本城を構へて、そこで活動する。ドイツには地方到るところに、大人物があり、大會社があり、大銀行があり、大學があり、研究所があり、文化の分布まことに普遍的である。人物の分布が普遍的であるといふことは、文化の發達を普編的ならしめてゐることの要因をなしてゐることはいふまでもない。

ドイツで自治體が發達してゐるといふのも、長い內の自治的訓練が徹してゐることの外に、人材が地方から中央に吸收されず、地方で活動してゐるといふことも重大な原因となつてゐる。

地方における青年が、自分の鄉土の生んだ人物を讃美し、崇拜し、誇りとして、ます〳〵地方のため、鄉土のために奮勵努力するといふ風で、地方自治體は、非常に有意義に、有利に發達してゐる。これが、國家全體の文化を高め、經濟力を增進する上において、如何に影響するところ大なるべきかは想像するに餘りがある。

四　徹底した自治訓練

自治訓練の徹底は、ドイツ國民をして、政治上に、政黨の弊害を、地方の上に及ぼさしめないことに成功せしめてゐる。政治は自治體の上を走つてゐる。政黨の勢力を、自治體の中に割り込ましめる

ことは禁物であるとしてゐる。

それで、戰後の經濟界の混亂時代に方つても、自治體は自らの生活母體の幸福を期せんがためには自らの工夫と努力とによつて、種々なる對策を講じ、中央政府に賴りて、はじめて事をなすといふやうなことをしなかつたのである。ドイツの自治體の强味はそこにある。スタインが、『村の生活は村の人が一番よく知つてゐる。村の生活を一番幸福にすることの出來るものは村の人達でなければならぬ私は一國の政治をあづかるものであるが、私とても神ではない。村の事情は想像することは出來るが精通することは出來ぬ。私のこの力の及ばぬところを助けて下さるのが、諸君の好意でなければならぬ』

といつて、村のことは村の人達でやつてくれ、と歎願する一面に、責任觀念を誘發したところは注目に値する。この心は、今日でも、少しも變つてゐないのもこれがためである。彼等は村のこと、町のこと、市のことになると、まるで別人のやうな政治的態度を示すのは自治訓練の如何によく徹底してゐるかを物語るものである。

ドイツの復興作業が、全ドイツを通じて、全一的に發展したといふのは、この自治訓練なるものがよく總體的に全作業の向上進歩をなさしめたからのことである。ドイツの復興作業を見る時、その大

きな現はれは、青年運動と、婦人の運動と、合理化運動との三つにあつて、それが、三つの大きな原動力となつてゐるやうに見えるが、この三大原動力をして、活動を充分ならしめるために、油となり燃料となり、調帶となつてゐるものは、實に、その祖國觀念と、義務觀念と、自治訓練との三である。これを或意味からいへば、この祖國觀念と、義務觀念と、自治訓練こそ眞の意味における復興の原動力であつて、青年運動、婦人運動、合理化運動は、齒車であるといへる。

第八章　最近に見た獨逸の印象

一　外國を見ることは六ケ敷い

外國人が外國そのものを見ることは、洵に六ケ敷いことである。外國に行つたばかりでその當座の日常の經驗とか、眼の觀察などでその國の事情を判斷することは、やつて出來ないことではないが、極めて危なかしいことである。萬象は存外長い歷史と、厚い層皮と、深い眞實と、そして推し測ることの出來ない面積とを持つて居るものである。眼に見えるものと、眼に見えないものとの間には、想像も及ばない隔たりのある場合が多い。物を深く觀ることは、己れを深くすることに外ならない。物

を仔細に極めることは、己れをます〳〵緻密にすることである。栗のイガは荒し。併し、中味を味はふた栗鼠の喩へ話は、我等にとりて常に良い戒めである。外國の事情を觀察することは、貨幣や、芝居や、下宿や、新聞や、女中や、汽車や、百貨店や、唯さうした淺はかな體驗、眼驗、經驗だけでは十分ではない。栗の味を味はふにも、イガをむき、皮をとり、澁を去り、尙その奥にまで行かねばほんたうの味は分らない。外國の眞相を知らうとするには、その國の歷史を知り、生活を味はひ、社會の經濟的、歷史的、哲學的、道德的、基礎の樞軸に喰ひ込んでゆかねばならぬ。だから、短時日の外國旅行でその印象を物語るといふが如きは、余程心してせねばならぬことである。また、その物語りを聞くものも、余程心して之を味はひ反省せねばならない。

二　外國を見ることは日本を見ることである

外國を觀ることは、日本を觀ることであらねばならぬ。外國を觀るのは、日本を正しく視つめんがためである。私は、この心をもつて、外國を視つめてゐる。短い時日ではあつたが、ちよつとドイツに旅をして來た。そしてドイツの復興ぶりに驚かされた。復興ドイツの盛んな姿を、今こゝに物語るにしても、それはドイツを讃美せんがためではない。ドイツを觀て驚き、悲しみ、また悦んだりすることは、私にとりては日本を視て驚き、悲しみ、悦ぶことにほかならなかつた。ドイツの長所を見て感心させられたのは、よくそれを味はつて見ると、日本そのものの短所であつた。ドイツの短所を見て呆れたのは、それは實に日本の長所であつた。人は、己が短所を他の長所として見、己が長所を他の短所として認める場合が少くない。私のドイツ觀察の中には、この事實を多く物語つて居るであらう。私は何時如何なる場合にも、日本人として、日本そのものの國民として、日本そのもののことばかりを案じてゐる。ドイツを見て胸に抱く印象は、一として日本の爲を思うてせざることはない。ドイツの長所を擧げるのは、日本の短所を嘲る心ではなく、却つて我等の反省を鞭つ愛國の叫びである。ドイツの短所を指摘してドイツを誡めるのは、日本を高きに置かんが爲ではなく、反つて日本の長所を自ら確り認識せんがためである。

これが私のドイツを視る態度である。この態度を誤解して賞ひたくない。外國を見るのは、日本の姿を鏡に映して判然と自らの姿を視詰めんがためであることを常に念頭に置いて頂きたい。

三　戰爭直後のドイツの窮狀

今から十年前、初めてドイツへ行つた時のことを想ひ反して見ると、まことに今昔に堪へないもの

がある。戰爭の疲れと、革命の爭亂の氣分とが、すべてを荒廢せしめてゐるかに見えた。往來を行けば、飢ゑに惱める子供を救へといふ宣傳ビラが到るところに眼についた。そのための示威行列や、そのための錢貰ひに五月蠅いほど出遇はねばならなかつた。乞食もまた驚くべきほど多かつた。學校に行く子供たちは、ブリキやアルミニュームのコップを提げて行つた。それはいろ〳〵な慈善會から寄附されるスープを每朝一杯づゝ學校で吸はんがためであつた。當時ドイツの子供たちは、溫い一杯のスープにすら困つてゐたのである。その頃のドイツ人の身裝は、如何にも見すぼらしいもので、男も女も皆古い汚れたものを纏ふてゐた。家庭の食物は多くジャガ芋に限られて、肉などは殆ど食へなかつた。戰爭當時からの强制經濟制度は尙も存續して、肉、砂糖、牛乳、バン、バタ、麥粉、ジャガ芋、石炭など、すべての日需品は政府からの切符がなければ買へなかつた。それすら品物が無い場合が多かつた。ドイツ人の健康は一般に害はれ、所謂榮養不良に惱まされてゐた。かゝる姿を眼の當りに視、斯くの如く窮迫した社會の中に生活したものが、今日ドイツに行つて見ると、まづ驚かさるるものはその驚くべき盛んな復興の姿である。特に私もベルリンに着いた瞬間、ドイツは復興したといふ感に打たれた。目に見えるものすべてが旺んな復興の姿そのものでないものはなかつた。往來を歩いて見て、往き來の人の服裝の立派になつた事一つだけでも、非常な驚異であつた。世の中が變つたよ

うな氣がした。十年前は勿論、私が、ドイツを引あけつた美しい都會の姿が、今日のベルリンであつた。

四　生活に對する訓練と打算

カフエー、料理店、ホテル、商店、劇場、寄席、銀行、工場、鐵道、汽船、さうしたものを唯目で見て通つただけでも、ドイツの復興ぶりが實際驚異的のものであることが感ぜられる。ドイツに行くほどの人が、ドイツの復興を讃へるのは無理もない。これまで書かれた外國の新聞雜誌の記事を見ても、著書を見ても、またドイツを旅した人の話を聞いても、一としてドイツの盛んな復興の姿を稱へてゐないものはない。また、ドーズ案の第一期の約束が果されたといふ一事をもつてしても、ドイツの復興力の盛んなことを證明し得られるといふ人すらもある。

いづれにしてもドイツ人の驚くべき忍耐と勤勉と組織的活動とに敬意を表せざる人はあるまい。ヴエルサイユ條約の壓迫を忍び、重稅を背負ひ、極度の生產力を發揮することは强要されつゝ、しかもすべてを忍んで、復興を急ぎつゝあるドイツ人の國民的奉仕は、國家生活をなすものの一つの驚異であらねばならぬ。

ドイツ人は、總べて自己の生活に對して堅實なる打算を持つてゐる。それは自己の生活と生存とに對する義務の念である。故に空想を廢して實質に就かうとする。だからドイツ人は何でも自らやつて見なければ滿足しない。頭や胸の中で考へたり思つたりして、それで滿足したり悦んだりすることは出來ない。この實質主義は、小學校や中學校や大學校に於ける試驗のやり方でよくわかる。試驗のその日だけを旨く通り抜ければよいといふことは絶對にない。ドイツに於ける試驗は、過去に於ける勉強の蓄積の整理である。故に或る事を知つてゐるといふことだけではいけない。これまで學んだところのものを、整然と整理して、これを組織的に簡潔に取纏めることである。この整理の方法を呑み込ましむるのがドイツの教育の根本方法であつて、斯樣な教育を受けて居るドイツ人が、生活に對して整然たる打算を持つのも無理はない。

ドイツ人は、自己の生活を安定して、自分のなすところを完全になし遂げ、余りある時間は慰安と享樂とに使用しようとする。彼等は自己の職務に於て、專門家であり一流であらんことを欲し、徒に名を追うて實力なきものを實力あるが如くに振舞ふことを惡む。彼等はよく自己の力を知り、又他人の力を知り、その地位と實力との差別を認識する。彼等の理想は、生活の安定と人生の享樂であつて名目そのものではない。そこが多年實生活に於て傳統的に育てあげられた義務觀念への執着である。

この義務觀念の執着は、國家生活をなす彼等に組織的訓練の發達を促した。此の組織的訓練が戰後に於ける復興作業の上に、非常なる便益を與へたことは否むことが出來ぬ。

五　ウイルトの長所とラーテナウの長所

ドイツ人はなかくよく遊ぶ。カフエーや料理店の締切時間は午前の三時である。それまで飲んだり踊つたりしてゐる。前駐獨英國大使のドイツ印象記の中には次のやうなことが述べられてゐる。「ドイツ人は驚くべき國民である。夜の十時と言へばまだ宵の口である。十二時になるとそろくく夜になつたやうな氣がしてゐる。二時ごろになると少し遲くなつた位に思つてゐる三時までは平氣で遊んで居る。それなのに、翌朝の正規の時間までにはちやんと會社、銀行、役所、その他勤め先へ出勤して事務を見てゐる。二日醉といふやうな樣子もなく、立派に仕事をする。驚くべき體力であり、又驚くべき訓練である」と。これは、如何にもよくドイツ人の面目を穿つてゐる。人生を享樂することと、義務と職務を重んずることとの訓練に於いて、よく徹底して居ることを如實に物語つてゐる。なすべき事はなす。樂しむべきことは樂しむ。そこがドイツ人の日常の生活信念である。

信念が強いだけに自己を押し通すにもなか〳〵頑強である。理窟に合はないことは何でもきらひで、理窟の前には存外從順である。政治や外交の上にもなか〳〵理窟が多く、日常の生活にも理窟が作用し、工業、商業、農業、其他各種の事業の上にも、なか〳〵能く理窟が見える。この理窟の多いところにドイツ人の特徴もあれば、缺點もある。ゲノアの會議の時であつたと思ふ。その會議には時の宰相ウヰルトと外相ラーテナウとが列席した。その時ウヰルトのなした演說は能くドイツ人の此の理窟の多い面目を發揮して、理路整然、條理明白、その筆記を讀むと實に驚くべき內容が盛られてある。けれども、その名論卓說を會議の席上では何人も傾聽してくれなかつた。一人去り二人去りだん〳〵に聽衆が少くなつた。これに反して、ラーテナウの演說は、僅十數分間の短いものではあつたが、その爽へたところの感銘は偉大なるものであつた。ラーテナウの演說には理窟がなかつた。彼は端的に人間の情操をもつて列國の代表者に直面したのであつた。こゝにウヰルトとラーテナウとの對照の面白味もあるが、同時に此の一つの例は能くドイツ人の長所短所を物語つて居るやうに思はれる。ドイツ人には、ウヰルトの長所はあるが、ラーテナウの長所が缺けてゐる。

六　産業合理化運動の根本精神

ドイツ人は理窟が多いと言つた。そこに短所はあるが、同時にまたそこに長所もある。産業の合理化運動は、ドイツに於いて著しい效果を發揮したのは、ドイツ人のこの理窟を尊重する性質が所謂科學的組織力となつてその偉大なる長所を發揮したものであると見ることが出來やう。産業合理化運動の成績に付いては、いろ〳〵と批評を下す人もあるが、これを全體的に見ればドイツ復興の上に大なる原動力となつたといふことは、否む事は出來ない。

産業の合理化運動は、もとより產業能率の增進にあることは言ふまでもないが、これは決して國家復興の上に於ける產業發達の爲の局部的運動ではなく、合理化運動の根本精神は人類文化の到達する生活組織が理智的に、合理的生產組織の中に體現せらるべきものであるといふ大きな生活樣式の創造に向つての理想を物語つて居るものである。少くともドイツに於ける產業合理化運動の指導者たちは人間生活は決して自然生活そのものの人類社會化を採用すべきものでなく、人間の知識道德が最も完全なる生活組織を創造して、その組織の中に各個人の生活地位及職業を配置すべきものであるといふ念慮のもとにこの運動に精進しつゝあるのである。此の產業合理化の根本精神を理解する時に、初めてドイツ國民の復興運動に對する理想が那邊にあるかといふことも想察することが出來るのである。ドイツ國民は、今日決して唯單に復興を急ぎ、生活の安定をのみ遂ふてゐるのではない。ドイツ民族

の生存を永遠ならしめ、生活を安樂ならしめ、人生を愉快ならしめんとする爲に、世界の總ゆる民族の前に優越的地位を得んとし、その地位を得るためには、民族生活の組織形態を文化的に發展せしめんとしつゝあるのである。

七　力一杯精一杯の生活をしてゐる獨逸人

ドイツ復興の姿は、眼で視たところ、既に述べたやうに實際驚異すべきものがある。また、その復興の理想も極めて遠大にして敬嘆に値す。だがドイツ現在の經濟的事情は、眼で見たやうに決して、豐なものではない。ドイツの社會上に現はれてゐる種々相は、如何にも華やかであり、活氣を帶びた燃んなる復興の行進曲ではあるが、それは五十の力を六十にも八十にも發揮して見せてゐるのである。ドイツの國民生活の上にも、國家生活の上にも、緊張といふことは十分に認められるが、餘裕といふものを認めることは出來ない。張りつめて行く弓の力は果してどれほど長く保ち得るか。ドイツは今太い、長い平衡棒を持つて綱を渡つて居るやうなものである。國民として國家奉仕の爲に重稅を忍び、僅に餘る收入の餘力をもつて生活を享樂する。國家生活においても、家庭生活においても、力一杯精一杯の生活をなして居るのが今日のドイツ人である。

それはそれとして、兎に角ドイツ國家の指導者たちが、遠大なる理想をもつて產業の合理化から出發し、合理的社會組織の完成に精進しつゝあるのを見る時、我等生活の合理化から出發する優生運動に志すものが、我等の努力をドイツ人が如實に實現を急ぎつゝあるやうに見える。我等が僅に優生運動の叫びを社會の一角から洩らしてゐる間に、彼等は早くも實行の第一步を踏み出して着々として生活の合理化、國民の優化に精進しつゝあるのを見て、我等の努力の甚だ微なるを恥ぢずには居られない。

第九章　航空事業の驚異的發展

一　久し振りの伯林の印象

女は保守的であつて、男は進步的であるといふことは、よく人の言ふところである。だが、自分は先き頃、ドイツを一巡してゐる間に、この言葉は、どうもあべこべではなからうかといふ感を深くした。

試みにベルリンの市街を步いて見ると、美くしく着飾つた婦人が、往來を濶步してゐる樣が、いか

にも晴れがましく見える。昔ならば、寢巻であつたらうと思はれるやうな薄い簡單な衣服、洒落た言葉でいへば、蕭洒たる身なりをした婦人、化粧もなか〳〵すつきりとして美くしい。髪は斷髪が多く總じて簡易化された身なり化粧が、いかにも近代生活の氣分を横溢さしてゐる。一口に言つて、現在のドイツ婦人は、極めてあつさりした、外の言葉でいへば、至つてさつぱりした身なりである。

自分はこのドイツ婦人の身なりを振返つてみた。そして、外のドイツの男たちの服裝を見護つた。婦人の服裝は、すばらしい速度で、また花々しい勢でモダン化されてゐるのに、男の方は、多少モダーン化されてゐるとは言へ、何等の著しい變りやうがない。男は依然として昔ながらの筒袖服、身のまはりに外套をくるめて二十に餘るポケットを備へて、その一つ〳〵に何かを入れて得々としてゐる。

女の方はだん〳〵簡單化されるのに、男の方は五十歩百歩の動きに過ぎぬ。昔は女の化粧が長いので、外出などにとかく享主から催促されたが、今日では、それが反對になつて、女の身仕度の方が簡單になつて、外出の際、亭主の方がせき立てられさうである。新らしくなることについて、女は男以上に勇敢である。果敢である。保守的だ、頑固だなぞとばかり言つてはをれぬ。自ら進歩的だと任じてゐる男子たるもの、大いに反省しなければならぬ。

ベルリンの町を歩いてゐて、こんな感じがしたといふことは、私にとつては非常な驚ろきであつた。モダーン化されたベルリンの姿そのものに驚ろいたのではない。戰敗ドイツの復興振りの花々しさに驚ろいたのである。この前に見たドイツは、戰後の慘めなドイツであつた。その當時の私の手記の中に、『負けたドイツにとつて、一番氣の毒なことは、女が衣服を失つたことである。ベルリンの市街を歩いてゐる女は、みな田舍出の女中のやうに見える。大都會の女が衣服を持たぬことは、暴風の後の海邊のやうに荒寥たるものだ』と書いてある。實際戰爭直後のドイツは、亡國を痛感せしめるほどに慘澹たるものであつた。

それが今久し振りで見るドイツは、まるで面目を一新してゐる。町の姿ばかりではない。工業も、農業も、その他一般に經濟的に驚ろくべき復興振りを示してゐる。今のドイツには、少くとも戰敗ドイツの姿を認めることが出來ぬ。ドイツを訪ふほどの世界の旅人が、ドイツの復興振りに驚異して、ドイツの復興作業を口を極めて歎美するも無理はない。それほどに、今のドイツの姿は花々しくあり、活氣横溢である。

二　オイケンの警句

ドイツ帝國なるものが、ヒヨツクラ近代世界に首を突き出した時、他のヨーロツパの大小の國々は何れも、國際舞臺に於ける先進國であつた。スペイン、ポルトガル、オランダは、既に先進の域を脫して、過去の立役者となつてしまひ、イギリスや、フランスが、金銀爭奪戰——卽植民地爭奪戰の花形であつた。

世界の新天地と見なさるゝ土地は、沃土といはず、荒地を問はず、見當り次第に、ともかくも之をわが領土として奪取確保せねば止まなかつた。それがために、地球面上寸尺の土地も餘すところなく、これら先進國の手に握られてしまつた。

遲れ走せに、むく〳〵と頭を擡げたドイツが、イギリスの向ふを張つて、海上政策を立て、堅艦大船主義を取り始めた時、フランスのある學者は、

『ドイツが、今になつて、いくら藻掻いたつて、あがいたつて、この娑婆には、一寸の土地も殘つてはゐない。そんなに領土が欲しけりや、空でも占領するがいゝ。空は無限の面積を以て、爾の頭上に擴がつてゐる』と揶揄した。

それから後二十年、一九〇〇年七月二日ツエツペリン伯が、第一號飛行船を完成しその處女飛行を行つて、全ドイツ國民の歡呼を浴びた時、イエナの哲學者、ルードルフ・オイケン博士は

『フランスよ、われらは御身に感謝しなければならぬ。ツエツペリン伯は、御身の勸告に從がつて、今や正に大空を征服した』とやり返した。

三　人間の頭の偉大さ加減

ツエツペリン伯號が飛んで來た。そして飛び去つた。世界一週飛行に成功した。偉い。偉い。偉い。たしかに劃時代的記錄だ。それで、ドイツ擧國の連中は、ドイツ人は偉いと褒める。ドイツ人は得意になつてドイツ文化の誇りを宣傳し、科學の勝利を高調する。

あの鈍重な、神經の鈍い、融通の利かない、世間知らずの、力自慢の、類人猿みたいなドイツ人がこんな超人間的な放れ業をやるのは、一寸腑に落ちない。實際ドイツ人は、決して賢明な國民ではない。頭の加減だつて、二流三流の文明人である。そのくせ今までやつて來た、學術上技術上の仕事はと見ると、なか〳〵やつてゐる。ノーベル賞金をせしめてゐるのも、大抵はドイツ人である。一寸癪に障る。

癪に障るが、本當にやつて見せてゐるんだから仕樣がない。そこで、胸に手をおいて考へて見る。あの鈍重な薄馬鹿の類人猿が、どうしてツエツペリン伯號式の放れ業を重ね〳〵やつて除けるのだら

うか？

頭が悪くても、ツエッペリン伯號が出來上る。その位なら、頭のよい日本人なら、超ツエッペリン伯號が出來上らなければならぬ筈である。それが出來ない。なぜか？

一體、人の頭腦の偉さなるものは、昔と今と餘り變るところがないのではあるまいか。どうもさうらしい。紀元前二百年の昔エフトスセネスが、早くも地球の周圍を測定して、三萬九千三百七十五メートルだと斷じてゐる。その數字は、地球の周圍約四千キロメートルと大差はない。周圍の長さまで測られた位だから、地球圓體說は勿論信じられてゐたものとせねばならぬ。大西洋の彼方に陸地があることは、コロンブス以前に於て、僧侶や商人の間に知られてゐた。人間が空中を飛べるといふことも古代から自信は十分にあつた。ダ・ヴインチが、會堂の屋根から、自製の飛行機に乘つて、墜落して見たことを嚙つてはならぬ。此頃、產兒制限とかいふものが流行る文明人のやることだといふ。だが、これもギリシヤ時代から盛んに行はれたものである。ソクラテスなどは、手淫を以て最良の產兒制限法だといつて感心した。

『日の下に新らしきものなし』といふ語があるが、今時の文化人が、新らしいものは一つもない。みな大昔の人間がやつてゐる。少くとも試みてゐる。失敗したものが多いが

とにかくやつてゐる。頭の加減は確かに昔と今と變りがない。

四 頭の勝利か人間の勝利か

ツエッペリン伯號が、大空を征服した。科學の勝利だといふ。文明の勝利だといふ。ドイツ人の誇りだといふ。違ひない。

だが、文明は、頭の進歩の表現ではない。科學の進歩といふが、それは、必ずしも、頭のよさ加減の證左ではない。頭が鈍くてもドイツ人は文明人である。頭が惡くてもドイツ人は科學の勝利を鼻にかけてゐる。頭の進歩と文明の進歩とは別ものである。頭がよくても、文明は進歩しない。頭が銳くても、科學が發達する、といふことは、頭の利鈍賢愚の問題ではなくて、修練努力するか否かの問題である。

文明の進歩、化學の發達といふことは、畢竟人間技能の修練の結晶である。一つの『基』が出來上ると、その『基』の上に一つ〳〵積み重ね、作り代へ、色々と工夫發明して、改良に改良を加へて行つて、だん〳〵いゝものが出來上る。要するに努力である。工夫である。不屈不撓である。技能の修練が、積み重ねられて行くところに、文明といふ寶塔が築かれる。

根のいゝものが勝つ、努力するものが勝つ。兎の速さよりも、龜の鈍重が勝利を得る。ツエツペリン伯號の勝利がそれである。あの鈍重牛の如きドイツが、近代文明史上に動かすべからざる一等國の重任を贏ち得た所以は、その不屈の精神と不斷の努力によるものである。

頭が惡ければ偉くなれないといふのは大間違ひである。頭のいゝものに碌な人間はないと思へば間違ひはない。頭が惡くても偉くなれる。頭がよくても偉くなれない。神は人間を公平に生み付けた。どこかで、プラスし、どこかでマイナスしてある。神は愚か者ではない。神は賢なるが故に、一錢二錢の賽錢で家内安全商賣繁昌のために買收される。人間は愚なるが故に、三萬圓の勳章を買ふ。

五　頭に賴らぬ人間の勝利

科學者と實行家との根本的相違は、前者が理論によつて結果のしかあるべきを知るのと、後者が事實丈けを捉へて、その結果乃至歸結なるものは、既に成した事實の跡を踏んで行くのとの相違である。地球圓形の學說はエラトスセネス以後、コペルニカスに至つて完成されたが、事實としては、一般社會に世界一周航海の出來ることを示したのはマゼランであつた。ヨーロッパを船出して、新大陸に達し得ることは、コロンブスの獨創でもなければ、ヨーロッパから北極通過飛行すれば、アラスカ

に達することは、アムンゼンの創見でもない。しかし、事實これを敢行して新記元を開いたものはコロンブスであり、アムンゼンである。

科學者と實行家との間には、これだけの相違はあるが、その軌を一にするところは何れも、先人の經驗が後人の足場となることである。その足場が百年千年と積み重ねられ、その度毎に塗り變へられ組み直されるところに進歩があり發達がある。アムンゼンは、『私の仕事は、古來からの北極探檢家のなしつゞけて來た仕事の繼續に過ぎない。功を私一人に歸するのは當らぬ』と言つたのはこの意味である。

ツエツペリン伯號の成功は固より花々しい。けれども、ツエツペリン伯號が、この成功を贏ち得るまでに積み重ねられた、苦心の礎石の數々を思はねばならぬ。『氣狂ひ伯爵』といふ綽名が、ツエツペリン伯の通り名であつた時代何人が果して今日の成功を夢想し得たか。

伯一人の苦業もさることながら、伯の打ち据ゑた基礎の上に、三十年不斷の建設をやり遂げて來たその後繼者の努力、それを助けて來たドイツ國民の熱心、これもまた思ひやらねばならぬ。

アメリカはリンドバークを生んだ。ドイツはエッケナーを送り出した。未來の世界の支配者は空の覇者であらねばならぬ。世界の眼は、アメリカと、ドイツの上に輝やく。この二者は、次に來るべき

時代の怪物である。赤が恐ろしい。黒が煙たいなどと、地上に下らぬいざこざをやつてゐる間に、彼等は大空から世界を號令せんとしてゐる。金の力、努力の力、不斷の修練、空恐ろしくもある。

頭のよさは當にならぬ。頭の鋭さも當てにならぬ。皮肉まじりの口調で、時代を嘲り、自らしてやつたりと、モダーン文化人振つてゐる人間の肩が、肩で風切る大都會の眞中で、幅がきくのは頭の問題ばかりである。その頭を偏重してはならぬ。頭の時代は去つた。頭で踊る人間ばかりが多くなつた文明は、沒落への前兆である。頭はずるい了簡の持主である。頭は横着で、卑屈で、卑怯で、臆病で圖々しくて、人の褌で角力ばかり取る工面をしてゐる。それが、頭で踊る文明人の通弊である。

ツエツペリン伯號が飛んで來た時、頭のいゝ人間たちが、いろ〳〵な批評をしたり、氣焰を吐いたアメリカの世界征服の大野心が、ハースト系の通信獨占となつたのだとか、今度の世界一周飛行は、將來に對する大なる貴重なる、恐るべき經驗だとか、何とかかんとか話題となり問題となりさうなことばかりを述べたてた。

他人の臺所を想像するのもいゝ、他人の思はくを考へるのもいゝ。それよりも、自分の頭の賢明さが、自分の技能の巧拙と、どんな關係にあるかについて反省して見る必要があるのではないか。頭の時代から遠ざかりつゝある世界は、生あるもの、協同の作業を要求しつゝある。みんなが働らく時代

みんなが實行する時代、みんなが歴史を重んずべき時代、みんなが手に手を取つてやるべき時代になつて來た。頭のよさは問題とならぬ。頭のよい人間に碌な人間はない。腹のしつかりした人間、腕のしつかりした人間、それがほしい時代となつた。

ツエツペリン伯號は、頭のいゝ人間の成功ではない。鈍重牛のやうな人間のやつた成功である。頭に賴らない人間の勝利である。

六　優秀なる飛行士の養成

とにもかくにも、ドイツは一生懸命である。死にもの狂ひである。戰後十年間における經濟的復興振りを數字的に見ても、その驚歎すべき努力の跡が歴然として認められる。而して、その復興に對する努力が、如何にも計畫的であり、研究的であり、組織的であり、徹底的である。

今日のドイツにおける航空業の發達は、まことに著しいものであるが、その航空に從事する飛行士の多くは、世界大戰に活躍した人々である。ドイツは軍備大制限の結果、軍用飛行を禁ぜられてゐるので、これら大戰の勇士であり、卓越せる經驗家である軍人飛行家は、轉じて民間飛行界に活動することになつた。それがどれほど民間飛行の發達に貢獻したかは今更いふまでもない。

しかしながら、かゝる優秀なる飛行家は、何時までも生き伸びるものではない。次から次へと新らしい優秀なる飛行士を養成して行かねばならぬ。ドイツの飛行業の指導家たちは、この新進の飛行士の養成について、最も眞面目にして徹底的なる方法を講ずることを忘れなかつた。彼等は『航空業の發達は優秀なる飛行士の輩出に俟たねばならぬ』として莫大なる養成資金をこれに投ずることを惜しまなかつた。

飛行士志願の青年は、先づ簡易飛行學校の豫備試驗を通過して、次に國立飛行學校に入る。國立飛行學校では、飛行術、機關、航空、無線電信、國際法等について、學問上、實際上の修業をなし、二ケ國以上の外國語を語り得なければならぬ。飛行機械學もこの學校にて教へ、木製飛行機と鋼製飛行機と二つの專門に分れて居る。試驗はなか〳〵六ケしく、學費は日本貨で約一萬五千圓を要する。けれどもこゝに一つの注意すべきことは、學生自身の負擔は僅かに三千五百圓であつて、殘りはハンザ飛行會社と政府において負擔することである。この學校を卒業したものはハンザ飛行會社の二等飛行士となり、最少限四萬キロメーターを飛行しなければならぬ。そして、空員があり次第、この中から優秀者を拔擢して愈々本式の飛行士として採用するのである。その給料は一ケ年日本貨にして初給約一千二百圓であるが、その外に飛行一キロメーターにつき一ペンニヒ半を給與する。

この飛行士養成の方法を見ても、いかにそれが本質的であり徹底的であるかゞ一見して解る。この眞面目さが、復興作業の基調をなしてゐるところに、ドイツ復興の精華が、推知も得られると思ふ。

七　擧國一致の飛行會社

ドイツの飛行業者は、ヴエルサイユ條約の結果、飛行機製造の制限を受けてゐたので、自由なる活動は出來なかつた。それがため、外國に支工場などを設けて、國内の飛行機製造工場などゝ連絡を取つてゐたのである。それが飛行機製造の制限が緩められたので、急激に大なる活動をはじめることが出來るやうになつた。

ドイツには、元來ロイド飛行會社とユンカー飛行會社と二大會社が對立してをつたのであるが戰後に於ける企業合同の機運は、飛行會社ばかりこの風潮に乘らないといふわけにはゆかず、殊に産業合理化運動が高調せらるゝに及んで、この二大會社の合同を促進せしめるに到つた。合同成立は大正十五年の春で、これをハンザ飛行會社と稱することになつた。當時資本金は二千五百萬マルク、社長はドイツ銀行の重役フオン・スタウス氏。その他の重役としてはドイツの大銀行の頭取、工業界の重鎭大都市の市長などを網羅し、『擧國一致の飛行會社』と通稱せられ、『ドイツは征空において復興の大成

を期せざるべからず』と任じてゐる。大した意氣込である。

八　文明の利器の利用に勇敢

ドイツの飛行業の發達は、まことに注意すべきものであつて、イギリスも、フランスも、非常に細心な注意を以てこれを看視しつゝある。殊に商用航路の中心地として、最も有利なる地位を占めてゐるフランスにおいては、ハンザ飛行會社の成立以來、その中心勢力を奪はれんことを恐れて非常な競爭を起し、現在の航空路を總べて合同して、國庫補助の下に、ハンザ飛行會社に讓らざる大會社の設立を企圖するに到つた。

それほどに、ドイツの飛行業は驚ろくべき速度を以て發達しつゝある。一切金屬製の飛行機で、寢臺、食堂、喫煙室のついたものが、最も早く出來たものはドイツであり、イギリス、フランスはドイツよりもずつと遲れて出來た。それが、ヴエルサイユ條約中に、飛行機に關し九ケ條の制限を受けてゐた時代においてのことである。その制限が除けられてからの發達ぶりは、一層著しいものがある。

ドイツの飛行業の發達は、一面は國民を擧けて、その發達のために熱心し、政府當局民間有志の指導宜しきを得て居るためであると同時に、一面には、ドイツ人そのものが文明の利器の應用利用に勇

敢であつて、空中旅行をなすことを少しも躊躇せず、恐怖もせず、平氣でやつてゐる氣分が、飛行機の發達を促進したといふことが出來る。そこになると、イギリス人もフランス人も、未だ未だ空中旅行においては、ドイツ人に比して尻込み勝ちである。

ドイツ人は科學の力を信ずること強く、科學的の發明に對して非常に敬意を表する。それがために飛行機に對しても、科學の發明として、滿腔の信賴を以てこれを利用するのである。こゝにドイツ人の近代文化人としての、優越性があるやうに思はれる。

以上ドイツ飛行業について、少し長たらしく述べ立てゝしまつたが、この飛行業の發達ぶりを通觀して見ても、如何にドイツ人が、國を擧けてドイツ及ドイツ人のために、熱心なる努力を傾倒しつゝあるかゞ知られると思ふ。この心持ちとこの熱心さが、復興作業の各方面に現はれてゐるのである。

九　ドイツの復興は工場から

ドイツの復興は工場から始まりつゝあるといはれてゐるが、實際その通りである。ドイツは、『戰場にて失へるものを、工場にて回復せざるべからず』とし、産業立國の大本の確立に努力したことは今さら多言を要せぬ。その如何に産業戰に主力を傾注しつゝあるかといふことは、大學生が少くなり、

法律、醫學、神學、哲學等の學生が少くなつて高等工業學校の學生が急激に增加したといふ一事でも一般が想像されるのである。また、ドイツ人が如何に上下を擧つて、經濟的復興に專念しつゝあるかといふことは、ストライキが著しく減じたことでも分る。また、ストライキがあつても、それが極めて易々と解決されつゝあることでも、その國家本位に立つ心もちが解る。

産業の發達振興のためには、國民は勿論、政府も、州政府も、市町村役所も、產業統帥者も、何れも指導的地位に立つものは、極めて眞面目に熱心に、それが指導奬勵を怠らない。また、學者技師等の改良發明の苦心も熱心も驚ろくべきもので、例へば、染料工業において、技師等が努力研究の結果製出したところの新染料は、八萬種に上つてゐる。しかもその中で商品として製造價値のあるものは八十種に足らないといふのである。これだけを見ても、專門家は專門家として如何に己が職務に忠實であり、以て國家のために奉仕しつゝあるかといふことを知ることが出來ると思ふ。

ドイツ人は、自己の職業を重んじ、自分の本務を果すといふことに、極めて忠實である。染料工場の技師等は、その商品として引き合ふか引き合はないかといふやうなことを考慮せず、忠實に技師として自分たちの研究をどし〳〵押し進めて行つて、八萬種も新種を生み出すといふところに最もよくドイツ人としての面目を發揮してゐるのである。これを商品とするか否かは自ら他にその專門家に委

してゐる。『兵は劍に、農は鋤に』といふフリードリッヒ大王の言葉は、かくして如實にドイツ國民の上に體現してゐる。

一〇 婦人と奢侈防止の運動

ドイツの復興作業がうまく行つてゐるのは、何といつてもドイツ人が、國民生活の何であるかを知り、自分等の生活文化の向上の道の如何なるものであるかを知つてゐる點に存する。そしてまた、彼等は復興と建設とに向つて、國民としてドイツ人として、なさねばならぬこと、行はねばならぬことの何であるかを知つてゐることに存する。

彼等は先づ第一に、國富の何であるかを知つてゐる。富を浪費してはならぬ。時を浪費してはならぬ、力を浪費してはならぬ、といふことを痛感してゐる。ドイツの勞働者は、同盟罷業を行つてゐる間に失ふ『時』の損失と、その間に失ふ『能率』の損失とをちやんと打算の中に入れてゐる。彼等はこれがために、進んで、彼の『應急勞働』の存在を容認した。

物は使用されるだけ使用すべしとして、一片の布、一塊のパン、一本のマッチにいたるまで、これを粗末にしないといふことは、戰後ばかりでなく、戰前からのドイツ人の美風である。奢侈は國を亡

ほすものであるとし、しかも、奢侈の弊害は、多く分を解せざる婦人の放慢なる心掛けから生ずる場合が多いとして、婦人が眞先きに立つて奢侈を戒める運動に熱心してゐるのもたのもしい。彼女等は國を擧けて奢侈の國たらしむるも、婦人の心掛け一つにありとして、非常な責任觀を以て奢侈防止にあたつてゐるのである。

とにかく、復興作業に從事しつゝあるドイツ國民は、何といつても眞劍である。中には勿論例外はあるが、一般にドイツ國民は心血を注いでこの作業の完成を期してゐる。彼等ドイツは、『至誠より强き力なし』とし『考へて及ばざるは猶未だ足らざるなり』とし、『常に備へよ機會は不用意の人を訪はず』とし、『頭と足とは共に動かせ』とし、而して『尊き花は尊き實を結ぶ』とし、かゝる强きスローガンの下に、復興ドイツの最後の榮冠に向つて精進しつゝある。彼等の努力を見る時、その間に學ぶべきところ少くないのを痛感するのである。

第十章　復興獨逸と新興獨逸

一　獨逸語を話すのは兵卒と馬

ドイツは若い國である。ヨーロッパ中で、最も遲れて、文明國の仲間入りをした國である。ヴォルテールが、フリードリッヒ大王に招聘されて、ポツダムの宮殿に、師として、はたまた友人として大王と起臥を共にしてゐた頃故國フランスの友人に送つた手紙の中には、次のやうな文句がある。

『自分は丁度フランスにゐるやうな氣がする。當地（ドイツ）の人々は、みなフランス語を話してゐる。ドイツ語を話すものは、兵卒と馬ばかりである』

と。以つていかに、當時のドイツといふものは、外國崇拜の風が盛んで、外國の文化を取り入れ外國の文明に心醉してゐたかを察することが出來やう。敎育あり知識あるものといへば、フランス語を話すか、英語を話してゐたのである。當時の學者文學者の著述は、すべてフランス語か、ラテン語で書かれた。大哲學者ライプニッツの著述の如きも、すべてフランス語とラテン語で書かれてゐる。要するに、當時のドイツの文明なるものは、イギリスとフランスの文明の模倣に過ぎなかつたのである。

二　獨逸語文明の擡頭は十八世紀

かくの如く、十七世紀から十八世紀にかけてのドイツは外國崇拜で、ドイツ語文明を持たなかつたといつてもよい。ドイツ語が、文明的に活動するやうになるについては、ルーテルの出現が非常な功

績をもたらしたことは言ふまでもない。ルーテルのことは、暫らく預かりとして、ドイツ語で書かれた著述が、ドイツ文明史上に現はれて來たのは、ライプニツツの門下のウオルフがその哲學書を、ドイツ語で書いたことに始まるといつて宜しい。それは、十八世紀の初めのことである。これと前後して、クロップストックや、ウイランドなどが、その詩作にドイツ文を用ひた。ウイランドのドイツ文學は、その典麗優雅なるを以つて知られてゐる。けれども、之等の人々は、未だ以つて、ドイツ文學の獨立をなさしめた功勞者となすことは出來ない。クロップストックはミルトンの崇拜者であり、ウイランドはシエクスピアの崇拜者であり紹介者であつて、共にイギリス文學の範圍から脫することが出來なかつた。

ドイツ文學の獨立と興隆の偉績は、何といつてもレツシングの業である。彼はフリードリツヒ大王や、カントと同時代に生存した人であつて、知識學問に富み、創作の才に長じ、一方には事務的才能も有してゐた得難き才幹であつた。彼は如何なる場合にでも、創作の手を休めず、常にドイツ人が、外國文學に心醉して、これに阿附するものを罵り、ギリシヤ古典を、直接にドイツ語により、ドイツ思想により、これを理解しなければならぬと主張した。

レツシングの、この國民的目ざめと號令とは、ドイツ人の心の琴線を震はしめた。これまで、外國

崇拜といふことによつて、醉ひ且つ眠つてゐた國民觀念がムク〳〵と頭を持ち上げて來た。それが、十八世紀末における文學史上有名なる『風雲時代』を招來したのである。そして、その風雲時代の終末を飾る明星として、ゲーテとシルレルの出現を見たのである。

三　復興作業は修繕作業でなく新築作業

ドイツ文化は、かくして、漸く固有の光澤を發揮し、カント、フイヒテなどによつて、國民的目醒めが高調され、それが、大ビスマルクを生み出して、ブロシヤを中心とする、大ドイツ帝國の建設となつて出現した。しかも、ドイツは、依然としてヨーロッパにおける後進國であり、その文化には圓熟性が缺け、その國民には文明人としての敎養訓練が圓滿さを缺いてゐる。

しかし、何といつても若い國民であるだけに、その生存力は旺盛であり、その活動は青年の強さを示してゐる。その若さの誇りと力強さとを、世界大戰後におけるドイツの復興運動に最もよくこれを見るのである。戰後十餘年、ドイツのその間に成し遂げた復興の跡を見ると、まことに驚異的である生存力の盛んな、動物性の勝つた、若い國民でなくては、到底出來得まいと思はれるやうな點を多く發見する。

それにしても、ドイツの復興作業の經過を靜視する時、ドイツ國民及びその指導者達の、用意の周到にして、計畫の遠大なるに驚ろかざるを得ない。ドイツの復興作業は、決して、障子の切貼り式の修繕作業ではない。ドイツの復興作業は、戰後ドイツ國の復興作業ではなくて、その實新ドイツ國の建設事業である。根こそぎ作りかへようとするのである。修築でなくて新築である。復興でなくて改造である。

ビスマルクが、嘗つて、企圖した大ドイツ帝國の建設をば、今や新時代の組織的國家の建設に向つて、新計畫を樹てゝゐるのが、戰後のドイツの國家經營と見るのが至當であらう。その國家經營の計畫は、產業の合理化運動となつて、組織的に現はれてゐるが、その合理化運動の哲理が近來いよ〳〵深く究められつゝあるところに、合理化運動の永遠性を認められるやうになつて來た。

四　ヴエルサイユ條約と復興作業

戰後のドイツは確かに多事であつた。外的にはヴエルサイユ條約の束縛に屈せねばならず、內的には新共和國の組織に狂奔せねばならなかつた。賠償問題といふ大きな問題が、差當りドイツ及ドイツ人そのものを苦しめた。けれども、今日となつてこれを見る時、ヴエルサイユ條約といふ頑固な束縛

は幾多の小邦から成立つドイツ共和國の瓦解を防止する強力な鐵の箍であつたことを思はねばならぬ。ビスマルクは、全ドイツ民族の統一を企圖したが、その理想は決して思ふ通りに實現しなかつたドイツ聯邦なるものは、決して渾然一體たる統一的國家ではなかつたのである。

然るに、世界大戰の敗北は、この幾多の邦國を解體してドイツ民族を根幹とするドイツ共和國を生み出した。けれども、多年の小邦根性はなか〳〵拔け切らず、バイエルンや、ザクセンや、ラインランドや、さうした地方の人士の間には、共和國から分離して、或は獨立せんとし、或は多邦に聯合せんとする氣風が拔けなかつた。それが新共和國建設者にとつて、大なる憂慮の一つであつたことは否むことが出來ぬ。ところが、幸にして、ヴエルサイユ條約といふものが、その內輪の氣風の如何にかかはらず、全ドイツ民族を壓迫したために、ドイツ國民なるものは、この協同の敵に對して、一致團結しなければならなかつた。この意味から見れば、ドイツ國民なるものは、この協同の敵に對して、一致團結しなければならなかつた。この意味から見れば、ドイツの統一を促進せしめたものは、ヴエルサイユ條約であるといふことが出來る。

ドイツ共和國の指導家たちは、戰後の經營の第一としてこの擧國一致を企圖して、統一國家の基礎を固めようとした。それがためには、從來の小邦間における小邦根性を取除いて一つのドイツ人意識の下に結合することが最も必要であつた。そこで、聯合國といふ、協同の敵に對して全ドイツ國民の

結束を要求した。一面には、ドツイの傳說の復興、民謠の新興、舊慣儀禮祭事の復活運動などを試みていはゆるドイツ魂をふるひ起たしめようと努力した。

五　復興獨逸でなく新興獨逸

ドイツ共和國の成立後、一方には赤化運動が盛んに起つて、新共和國の基礎定まらないのに乘じようとした。これに對抗して國粹運動が起つて、暗殺暴行の不安時代を現出した。けれども見識ある爲政家達は、巧みにこの國粹氣運を利用して、復古運動、國粹運動を、ドイツ民族の精神的統一に向つて鉾先を轉ぜしめた。それがためには、高壓政策を以つて、共產運動を壓迫し、嚴罰政策によつて、無謀なる國粹暴力團體を壓迫した。かくして、思想的精神的統一の第一段の努力は、見事に效果を擧げることが出來た。

次に注目すべきものは、財界の大破綻である。インフラチオンは、全ドイツを暗黑の世界に陷れ、恐るべき恐慌時代を現出した。ドイツは正に全く破產してしまつたといつて宜しかつた。それが、レンテンマルクの發行によつて、わづかに安定を見、つゞいてライヒスマルクの出現となつて、正常なる經濟的狀態が復活した。この恐慌時代は、ドイツ國民をして、人生の不安と不幸と窮苦との極端を經驗せしめた。それは確かに恐るべき破綻ではあつたが、ドイツ國民はよくこの試練に打ち克つことが出來た。

かくして、ドイツ國民は、舊ドイツ帝國の解體、舊ドイツ諸邦の解體、舊ドイツ經濟の解體、等々一切の舊きドイツを解體してしまつて、新ドイツに向つて進出した。傳說の復活、ドイツ魂の振興といつてもそれは、決して復古的結果を生み出さずして、反つて、新ドイツの精神を釀成した。今日のドイツは、復興ドイツといふには、餘りにも新らしい生氣に充ち滿ちてゐる。復興ドイツにあらずして、新興ドイツである。老いたるドイツにあらずして、若きドイツである。而して、その若きドイツが、若き民族の生氣を遺憾なく發揮しつゝありといつて宜しからう。

六　合理化運動の別箇の意義

新興ドイツの組織的建設への努力は、いはゆる合理化運動に現はれてゐる。產業の合理化運動は、從來產業能率の增進を期し、品物を安く賣るための努力として見られて來たが、ドイツにおける合理化運動は、左樣に單純なものではない。勿論、最初この運動の起つた當時においては、單なる產業の復興運動であり、ドイツの經濟復興運動であつた。それがためには、組織の完成、運用の順調を期し

たのであるが、新興ドイツの爲政家や、指導家たちは、それを以つて他の大きな理想への建設運動として善用しようと試みるに至つた。

それは、産業の合理化運動なるものは、一部産業の合理化だけによつて、その效果を擧げることが出來ないといふことを知つてから考へついたことであつた。産業の合理化運動は最初工業方面に廣く行はれたが、その成績の擧るにつれて、工業合理化は、著しく農業を壓迫した。殊に農業金融を壓迫した。こゝに、はじめて、産業合理化運動は、全國家的に行はれなければならぬといふことに氣附いた。かくして、合理化運動は、實際と理想とにおいて、深い研究考策が進められ、産業合理化運動なるものは、畢竟文明人類の生活を組織的にし、人間の生活する位置場所職分を定める全一的機能を生み出すものであるといふことに着目するに至つた。

ドイツの産業合理化の指導家たちの努力しつゝあるところは、全ドイツの統一的國家組織の完成をして、全ドイツ國民の生活地位を如何に定めんとするかにある。卽ち、すべての國民をして勞働奉仕の地位を得べき、有機的國家組織、取りも直さず全國家的産業組織を生み出さんとするにある。故に今日ドイツに行はれつゝある産業の合理化運動なるものは、人類の生活哲學を含み持つ遠大なる理想の下に行はれつゝあるのである。

結論　復興批判

一　窮達の痛ましき記念像

窮すれば通ず、といふことがある。ドイツの復興振りは、眞に世界の驚異の一つであるが、その復興の跡を仔細に辿つて見ると、すべてが、この『窮すれば通ず』といふ語を、如實に裏書してゐる。

復興ドイツを觀察せんとするものは、少くとも、この窮すれば通ずの一語を忘れてはならぬと思ふ。

從來のドイツの觀察者は、動もすれば、餘りにドイツ及びドイツ人を高く且つ偉く見積り過ぎる傾きがあつた。少し惡い言葉でいふならば、買被り過ぎることが多かつた。そして、ドイツの驚くべき復興振りを觀て直ちにドイツの偉さを歎美し、ドイツ人でなくては出來ぬ藝當であるとなす考へが多かつたのである。

自分と雖も、ドイツの優秀な民族であることを認めることに於て人後に落ちるものではない。これ迄とても、ドイツ及びドイツ人の偉さを世に紹介するに、可成りおまけの附いた言語文字を用ひたことを忘れはせぬ。ドイツ及びドイツ人の缺點についても知らぬではない。けれども自分は、その缺點

短所については、餘りこれを言ふことをしなかつた。缺點短所を指摘したところで、我等日本國民にとつて反省參考の資料となること少いからである。そして又、他國民の缺點短所なるものは、多くの場合、自分の國民の長所だからである。

今度久し振りでドイツに行つて見て、今更の如くにその著しい復興振りに驚かされた。眼で見て直ちにそれを看取し、日常の經驗においてそれを感觸し、數字を見ず、內容を深く檢せずして尙且つその復興振りの尋常のものでないことを知ることが出來るほど、それほど跳躍的な復興振りを示してゐた。尤も、自分が此前に見たドイツは、丁度戰爭直後で、疲弊困憊のどん底にあつたドイツであり前途の混沌暗澹たるドイツであつたから、當時のドイツと思ひ比べて特にその甚だしい變化に驚かされたのかも知れぬ。然し乍ら、靜かにその復興の內容を檢し、現在のドイツの政狀、經濟狀態などを見る時、確かにその復興振りの上調子なものでないといふことを認め得られるのである。ドイツは正に復興しつゝある。これは爭はれぬ事實である。

けれども、その復興が、如何にして成し遂げられつゝあるかといふことを考ふる時、必らずしも、之を以て、直ちにドイツ國民の偉さにばかりその原因を理由づけることは出來まいと思ふ。吾人は、かく復興を急がねばならぬやう、奮闘努力を餘儀なくされたドイツ及びドイツ人の窮狀について、深く考へて見る必要があらうと思ふのである。さうすると、心ある人は、ドイツ今日の華やかな復興の姿は、奮闘努力の晴々しき誇の姿といふよりも、寧ろ窮達の痛ましい記念像であるといふことに、氣が附くに相違ない。

二　復興作業の基礎を固めた通貨膨脹

ヴエルサイユ條約は、ドイツにとりて苛酷なる制裁であつた。けれども、その苛酷なる制裁が一面から見れば、ドイツの土崩瓦壞を防止する鐵の箍であつたといふことが出來る。幾多の小邦から成立ち、その心的統一の困難なりしドイツが、ヴエルサイユ條約によつて、聯合國の壓迫といふ名の下に國民的統一と團結とを堅固ならしめたことは否むことが出來ぬ。ヴエルサイユ條約に對する敵愾心が擧國一致を實現し、全ドイツ國民をして復興の努力に向つて奮起せしめたことは確かである。この意味から言へば、ヴエルサイユ條約はドイツの復興を促進せしめた、一つの大なる原動力であつたといふことが出來ると思ふ。殊に、窮迫時代における、聯合軍の彼のルール地域の占領は、ドイツ國民をして完全に、ドイツ共和國といふ、一つの坩堝の中に鎔け込ましめたものであつたと見ることが出來るのである。

ドイツの復興を促進せしめた、今一つの大きな原因は、彼のインフラチオン（通貨膨脹）である。これかために、ドイツの經濟狀態は、根本から立直さねばならなくなつた。ドイツ及びドイツ人は、名實共に全くの無一文から出發して、新ドイツの經濟的基礎を築き上げなければならなかつた。裸一貫で世に乘出すことは、固より苦しいことであり、至難なことである。けれども、戰敗ドイツとして、新ドイツ共和國として、インフラチオンによつて、過去の經濟的財政的基礎を、根こそぎ打ち潰してしまつたといふことは、大局から見て、確かに非常な幸福であつた。

レンテンマルクの發行は、苦しまぎれに、窮餘の一策として案出されたものであつたが、それが經濟界を安定せしむることに成功した。レンテンマルクを發行するまでの、ドイツ當局の苦心は實際見る眼も氣の毒な位るであつた。あゝしたら、かうしたら、と色々な安定策を講じたが、何れも失敗に歸して、最後に考へられたのが、ロツゲンマルクといふものであつた。それはヘルフエリツシユなどの考案によるものであつたが、更に研究の結果、ロツゲンマルクにも缺點があるといふので、ボーデンマルクなるものを考へ出し、それも缺點があるといふので、ルーテルやシヤハトなどの改正意見が加へられて、こゝに發行されたのがレンテン銀行であつた。

午前の十圓が午後には五圓となり、明朝になると無價値になるといふやうな、不安この上ない經濟界の恐慌狀態が、どれほどドイツ國民を苦しめたか。それを安定せしめて、經濟界の平靜な發達を遂げしめるために、當局者はどれほど苦心したか。而して、窮すれば通ずの言葉通り、萬策をつくして最後に安定政策に成功したのが、レンテンマルクであつたのである。

それは固より苦しい痛ましい經驗であつた。けれども、そこまで落ちぶれて、彈ね返つたドイツは反つて豫期しなかつた大なる幸福を招來したのであつた。インフラチオンは、ドイツの最大の不幸の一つであつたが、それが復興促進の大なる原因の一つとなつたといふことは、今から見てこれを明らかに斷ずることが出來るのである。

三　生産力を增した農業

ヴエルサイユ條約は、如何なる事をドイツに强要したか。――(一)領土と住民の一部を奪つた(二)植民地を奪ひ、その他海外にある利益を剝ぎ取つた。(三)ドイツ本國の重要なる地域を占領した(四)莫大なる賠償を要求した(五)力を以つて壓迫する以外に、精神的壓迫を加へた。斯くして、ドイツはその存立の基礎に向つて大なる痛手を加へられた。首を斬り、脚を斬り、斯くして取殘された胴體が

今日のドイツの姿である。その首、その腕、その脚の數量をザット見わたして見ると、

	舊獨逸(單位百萬)	條約による喪失(單位百萬)
面積	五四・〇九平方米	七・〇五平方米
人口	六四・九三人	六・四七人
石炭	一九〇・一一噸	四九・一八噸
鐵	二八・六一同	二一・三〇同
亞鉛	〇・六五同	〇・四四同
麥	一六・八八同	二・六五同
馬鈴薯	五四・一二同	七・七五同
商船	五・七一同	五・一一同

これは戰敗ドイツの損失の一端を見るための數字であるが、ドイツはこの損失があつたに拘らずまた戰爭直後、前にも述べた通り、政治、財政、産業上幾多の不安混亂を經驗したかに拘らず、通貨安定後におけるドイツの復興振りは、驚ろくべき速度を示してゐるのである。ドイツ現在の生産力はその多くが、戰前のドイツの生産力よりも增大してゐる。それは統計が如實に物語つてゐる。今これを農業について見るならば、

（單位千噸）

	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
小麥	四、〇三六	二、四二八	二、二一七	二、五九八	三、二八〇	三、八五四
裸麥	一〇、一三〇	五、七三〇	八、〇六五	六、四〇六	六、八三四	八、五二二
大麥	三、〇三五	二、四〇〇	二、五九九	二、四六三	二、七三七	三、三四七
燕麥	八、六一五	五、六五四	五、五八五	六、〇二五	六、三四七	六、九九六
馬鈴薯	三七、九六二	三六、四〇二	四一、七一八	三〇、〇三一	三八、五五〇	四一、二六九
燕糖	一三、九八六	一〇、二六七	一〇、三二六	一〇、四九五	一〇、八五四	一一、〇一一

ドイツの農業は、工業に比してその復興遙かに鈍く、工業界の生氣旺盛なるに反して、農業は今日非常な苦境に立つてゐると言はれてゐる。戰後の農業界は、家畜が減じたために、動物肥料の供給が減じ、それに科學肥料にも制限された、元來ドイツの農業は、農民の勤勉努力と科學應用の賜物であると言はれてゐる。ドイツはその地味において勝れず、氣候においては決して惠まれてゐない。しかも玉蜀黍、野菜、馬鈴薯、及び家畜の一反當り產額は、英國の三倍である。かゝる成績を擧げてゐるのは、全く科學應用の賜物である。そして、それは戰前二三十年間の努力によつたものである。戰後一時その生產額は激減したが、今日は大體戰前の狀態に復歸してゐるのである。

戰時から戰後にかけて、ドイツは肉食の缺乏を忍ばねばならなかつた。それがため、一時、國民の

健康をさへ損じたほどであつた。それが今日では、何等缺乏を告げるところがなくなつてゐる。農業生産の增加と共に、食料狀態も著しく改善されたのである。それは屠殺統計を見ても明かなことであるが、一九二〇年から今日迄の間において、牡牛、牝牛、小牛の屠殺數は約五割、豚は四倍の增加を見てゐる。かく家畜數の增加は、一面において、牛乳、バタ、乳酪の增加を物語るもので、それが國民の保健上に及ぼす效果は推して知るべしである。かく農業生産物の增加を見るにつけ、戰爭直後における、彼の窮乏の狀態を思ひ比べて、その復興振りの著しいのに全く今昔の感を深うするのである。

四　工業方面鑛業方面の復興

ドイツにおける經濟的進步の事實は、どの方面を見ても認め得らるゝことで、工業方面、鑛業方面においても著しい數字の增加を示してゐる。ドイツは石炭の産出地として知られてゐるが、各種の黑炭は勿論褐炭が多量に産出される。ヴエルサイユ條約の結果石炭の重要産地が割取されたので、その代用産物たらしむるべく、戰後特に褐炭の掘出しに努め、その利用法を研究してゐる。褐炭は熱量において石炭に及ぶところでないが、之を壓搾して高級燃料を作り出し、工業用家庭用とし、また發

電用にも使用してゐる。また、褐炭はベルギン式液化に適するので重用せられてゐる。

石炭及褐炭の産出高（單位千噸）

	石炭	褐炭	コークス
一九一三年	一一、七二九	七、二六九	二、六三九（現在の領域にて）
一九二四年	九、八九七	一〇、三八六	一、九七七
一九二五年	一一、〇五二	一一、六四四	二、三六六
一九二六年	一二、一〇八	一二、五九六	二、二七五
一九二七年	一二、八〇〇	一二、五四二	二、六八九
一九二八年	一二、六〇〇	一三、七〇〇	二、八〇〇

更にこれを鐵産額について見ると、ドイツはアルサス・ローレン及びシレジア地方を奪はれてゐるから鐵工業の受けた打擊は極めて大なるものである。しかし、鐵工業は何といつてもドイツの最も重要なる工業であつて、英國の棉工業に比すべきものである。故にドイツが戰爭後鐵工業の恢復に向つて非常な努力を傾倒したことは云ふまでもなく、今日の狀態においては、その生産高は遙かに戰前よりも多くなつてゐる。しかも、その品質も優良になつて來た。かく生産能率が上り、品質が優良になつたのは、工場設備が改善され、新式經營法が行はれたことによることは言ふまでもない。ドイツ

の鐵工業は、依然としてドイツの重要工業としての面目を維持し、米國に次ぐ生産國であり、世界の市場の中堅をなしてゐる。

鐵及び鋼の産額（單位千噸）

	鐵	鋼
一九一三年	一、三九七	一、四六七
一九二五年	八四八	一、〇一六
一九二六年	八〇四	一、〇二八
一九二七年	一、〇九二	一、三五七
一九二九年	一、〇七〇	一、三〇五

（これは一箇月平均生産額である）

この外、鐵道、電力、造船その他各方面の數字を檢し、一方に貿易の數字を見、生活上における奢侈品の消費量や、貯蓄銀行の現勢などを見る時は、その復興成績の顯著なることを直ちに認めることが出來る。しかし、今こゝには、我等の叙述せんとする目的が他に存するを以て、數字を列擧することは、この位で止めておきたいと思ふ。

五　レンテン銀行と産業統帥者の結合

ドイツの復興を助長したものに、三つの看過すべからざる運動がある。その一は青年運動であり、その二は通貨安定策であり、その三は産業合理化運動である。而して、此の三つの運動は、何れも必要に迫られて、苦心に苦心を重ねた結果として、成功の端緒にまで進んで來たものである。通貨安定のためにレンテンマルクを出すまでの苦心については、先きに一寸言及しておいた。あれでもいかぬこれでもいかぬで、失敗に失敗を重ねた結果の成功である。レンテンマルクを出すまで、色々應急通貨が工夫されて發行され、或は値段不變と銘打つた應急通貨が考へられたり、或は金値段と銘打つたものが出たり、實際窮餘の一策が、次から次へと講ぜられたのである。

レンテンマルクだけを見ると、いかにもドイツ人の頭のよいところ、組織力の尋常でないことに驚異するが、レンテンマルクが案出されるまでの歴史を見る時に、窮すれば通ずといふ感を深くせざるを得ないのである。ありつたけの苦勞を重ね、ありつたけの智慧を絞つて、而して後に成功したものであることを忘れてはならぬ。その苦勞の間に發明工夫の努力をつみ重ねたところにドイツ人の偉さを認むべきであつて、ドイツ人の頭のよさは第二義的のものである。苦心研究の努

力さへすれば何人でも何國民でもそれが出來ると思ふのである。

然らば、このレンテンマルクの發行が、復興助長の上にどんな作用をなしたか。それは今更事新らしく言ふ必要はない。通貨安定の結果が、經濟界の安定そのものとなり、經濟界發展の基調となつたことは、之を言ふだけが野暮である。けれども、レンテンマルクの考案と實施とについては、一つ見逃すべからざる重大問題がある。卽ち、レンテン銀行を設立するがためにはドイツの農業工業商業銀行の代表者が一致團結しなければならなかつた。この一致團結が精神的團結ばかりでなく、經濟利害を直接各自の上に背負つての團結であつた。これが、經濟的復興の上に非常な力となつた。彼等は精神的にドイツ復興に對する理想と抱負と計畫の理解を得ることが出來たばかりでなく、これによりてドイツ全體の經濟的內情と實力とをはつきりと知ることを得たからである。彼等はドイツの興亡生死の危機に直面して、無私の心情を以て相提携したのである。窮すれば通ず、この斷末魔に至つては、彼等は身を捨てゝ國を救ふことが眞に自ら生くるの道であることを知つたのである。

六　叩き拔かれて發達した青年運動

青年運動については、別項に述べてある通り、これも、窮すれば通ずといふことを文字通りに證明してゐるものである。ドイツの青年運動には、ドイツの統一問題と、國防問題と、この二つの重要な內容が包含されてゐる。これがために、青年運動は、嚴しく聯合國殊にフランスから監視され、叩かれて叩かれて叩かれ拔いた結果、今日の如き特殊の發達を見るに至つたものである。それが、ドイツの統一運動を促進せしめ、ドイツ傳說の復活によるドイツ魂の全國的發揚といふことに向つて來たのである。ドイツ國民の間から、邦國觀念を除却せんとの指導家たちの理想が、この青年運動によつて、一步でも二步でも進められてゐるといふことは、正に注目しなければならぬ。

以上レンテン銀行と、青年運動とが、ドイツの復興を助長する上に、重大なる作用をなしたものであることは、說明簡略のため、はつきりこれを諒解されないまでも、その輪廓は推察されることであらうと思ふ。

さて然らば、第三の產業合理化運動とは如何なるものであらうか。先きに述べた通り、ドイツの經濟的復興は實際著しいものであり、その產業界における能率增進の程度は想像以上である。それについては從來、ドイツの產業界における冗員陶汰、能率增進といふこと、及び米國式の大量生產と、密度生產とが輸入されつゝあることなどが世の注目を集めてゐる。一方には獨米の資本提携がどしどし進みつゝあるとも着目されてゐる。かくして、產業の發展は日一日と盛んなるものがあるのである

が、この好成績が、産業合理化によるものであるといふことは、世界の最も注意して研究し、産業合理化運動そのものについての、著述記錄も少なくない。而して、産業合理化は、ドイツ人なればこそなしつゝあるのである。けれども、この産業の合理化なるものも、畢竟は窮餘の一策であつて、窮すれば通ずといふことが實現されたものである。されば、産業の合理化に對する理論と哲學とは、やう此の頃になつて發見唱道され、今日となつて、産業合理化の本質と理想とを見出すに至つた。

七　合理化運動を促進した企業合同

ドイツにおける産業の合理化運動は、一九二五年以來のことで、極めて最近のことである。しかも今日までの數年の間に擧げられた成績は、まことに驚くべきもので、工業生産の能率は實際著しいものがある。その概念を得るために、極めて大まかながら、二三の例を擧げて見るならば、鐵鋼業においては、鎔鑛爐一箇當り生産高は二割六分增加、ドイツ全體の銑鐵産額は二割八分增加、綱鐵の生産高は四割五分增加。これと同時に鐵鋼業の從業人員數は三割弱減少した。この數字は多少研究の餘地はあるが、産業の合理化による、能率の增進は確かに著しいものがあるといふことは否むことが出來ぬ。

今日までの合理化運動による、産業組織の變化を見た工業を一瞥して見ると、鑛山、製鐵業、石油工業、加里工業、機械工業、製粉機製造業、車輛製造業、電氣工業、化學工業、肥料工業、燐寸工業、人絹工業、紡績工業、船舶業、造船業、製紙工業、毛織工業、製糖業、煙草工業、航空工業、保險業等であつて、殆んどすべての工業にわたつて、合理化運動が促進されてゐると言つて宜しい。

かく短時日の間に、合理化運動が促進されたといふことは、いかにも奇蹟的であり、組織的なドイツ人でなくては、出來ぬことだと思はれるのであるが、事こゝに至るまでの經過を見ると、合理化運動は、決して、はじめから、大なる理想の下に、大きな計畫を立てゝ行はれて來たものでなく、今日となつてやう〳〵合理化運動の理論的研究が進められ、一つの理想の下に計畫を進めつゝあるものであることを知らねばならぬ。

世界大戰後、ドイツの産業界は衰微し、小企業家はばた〳〵と倒れた。この時に方つて、大資本家の小企業小工場の併合運動が盛んに行はれ、また、資本家同士の間における資本合同がはじまつた。それがために、ドイツの工業界は、大資本家によりて縱斷され、それが鐵工業を中心として非常な廣範圍にわたつた。インフラチオン（通貨膨脹）時代において、この合同政策は極點に達し、一九二三年現在で、當時の主要なる企業系統を見ると、十二ある。

一、ジーメンス＝ラインエルベ＝シュツケルト＝ウニオン
二、クルツプコンツエルン
三、フユーニツクスコンツエルン
四、ハニエルコンツエルン
五、チツセンコンツエルン
六、スツムコンツエルン
七、ヘンシエル・ロートリンゲン・エツセナーコンツエルン
八、クリユツクナーコンツエルン
九、ラインスタールグルツペ
一〇、ヒユシユ・ケルン・ノイエツセンコンツエルン
一一、AEG・リンケ・ホフマンコンツエルン
一二、ボルジヒコンツエルン

ドイツの産業界は、この十二種の企業トラストによつて被はれてしまつた。ところが、この資本合同は、極めて漫然たる合同であつて、その間に組織的系統なく、資本は勿論、事業の運用の上に足並が揃はず、不便が多かつた。不便だけではすまず、終には、その破綻を見たのである。その破綻の最大なるものはスチンネスの沒落であつた。スチンネスの沒落と共に、ドイツの産業界は一大轉機に直面

したのである。

八　彪大なるスチンネス系統

スチンネスは一代の怪物であつたが、彼は戰後の經濟界の難局に處し、資本力の最高能率を示すべくドイツ産業界の併合統一に專心し、彪大なるスチンネスコンツエルンを築き上げた。彼は鑛山、製鐵、船舶、電氣、製紙、製糖、ほとんどありとあらゆる事業をその手に收め、新聞、ホテル、料理屋釀造業まで併合した。それが國內に止まらず、オーストリー、ルーマニア、メキシコ、ブラジル、イタリー、アメリカ等海外にまで併合の手を伸ばした。かくして、彼の手の下に統一された會社及び工場總數四千五百五十四、而してその資本總額は、一九二三年十二月三十一日現在で、二千四百四十一億二千八百二十七萬三千百六十一マルクであると言はれた。

この彪大なる企業トラストが、一九二五年に破綻を生じ、スチンネス系は全く分散してしまつた。それといふのも、組織なく、統制なく、漫然たる資本合同であり、企業合同であつたからである。ここに獨逸の資本家たちは、深く考へさせられた。而してこゝに生れ出たのが、合理化運動である。彼等は過去の經驗において、資本合同の有利であること、企業統一の有利であること、產業は全國的

組織と統制の下に行はざるべからざることを痛感し、こゝにこれを實現すべく、堅實なる方策を思ひ立つた。それが、産業合理化（ラチオナリジールング）であつて、この産業の合理化といふことも、米國式企業から思ひついて、最初は全く資本の運用、最高能率の實現、貿易の振興といふ、利益的打算の下に生れ出たものである。

しかし、抑々の原因を求めるならば、資本の行詰り、貿易の行詰りを打算すべく講じた窮策として の資本合同、工場合併にはじまるものである。それが色々に工面され、改良されて、縱斷的大トラストの出現にまで進んだ。それもスチンネスコンツエルンの慘めな破綻に遭つて、こゝに合理化運動が生れた。そして、それも、さうしなければならなくて、止むを得ずしてなすことを餘儀なくされたのである。合理化運動はかくして、窮餘の一策として現はれたものであることを認められるのである。

九　國家經營の基本政策としての合理化運動

産業合理化運動は、かくして、ドイツに燃ゆるやうな勢で進展した。その成績も極めて良好である。ところが、この産業の合理化運動なるものが、工業を中心にして、極端にまで發達した結果は資本力を工業方面に集中し、金融組織の運用が、農業方面に圓滑を缺くやうになつた。こゝに産業合理

化運動の上に、一つの惱みが生じたのである。農業方面においても、同じく合理化運動なるものが考案され、試みられたのであるが、工業方面におけるが如く、著しき進展を見ることが出來なかつた。然し、この經驗は、ドイツの國家的指導家たちに、非常によい教訓と暗示とを與へた。而してこゝに未だ嘗て想像もしなかつた、産業合理化運動に對する哲學を發見するやうになつた。すべての運動は、その理論的基礎をなす哲學を持たねば、永生の力がない。從來世に唱導された産業の合理化運動なるものは、まだ〳〵形式的のものであり、機械的のものに過ぎなかつたのであるが、ドイツにおいては、今やこの形式的、機械的から脫出して、哲學を生みつゝあるのである。

即ち、産業の合理化なるものは、一部産業の能率增進といふやうなことを目標として行はるべきものでない。極めて小範圍においては、それだけの目的を達すること必らずしも困難でないが、これが規模が大きくなつて、國家的になる場合には、一部の企業のみの合理化は、反つて他の方面を壓迫する。故に合理化運動は、國家全體として、すべての産業、すべての生活組織の上に行はねばならぬ。之を要するに、産業の合理化運動の組織の完成なるものは、畢竟するに、文明社會の組織の合理化であつて、産業合理化運動即有機的組織的社會の完成である。産業の合理化運動は、斯くして社會全體の産業組織化を暗示するものとなり、將來の國家經營の基本政策たるべきものとして認められて來た

のである。而して、今日ドイツにおける、これらの産業合理化運動の哲學的思想的方面の指導家としては、キヨウツトゲン、ルーテル、シーレなどいふ人々が活躍してゐる。

第二　慘ましき戰敗の姿

一　世界の輕侮と惡罵と嘲笑

大戰の末期に方つて、ドイツ及ドイツ人はへと〳〵に疲れてゐた。戰線の掛引を見れば、戰敗の數のほどは別として、ドイツは一歩もその領土を犯されず、軍隊も無理おしに押せば、なほ最後の一戰をなすだけの餘力もあつた。しかし、名相名將が戰線に名をなしてゐる間に、內數千萬の子女は飢ゑつゝあつた。

國民として、ドイツ人は忠良なる國民である。大戰のはじめ、カイゼルが『朕は最早や政黨政派なるものを知らない。たゞそれ一のドイツ人を知るのみである。』と擧國一致を宣した時、元來が民族的自負心の強い祖國觀念の旺盛なドイツ人は、熱血のたぎるばかりに興奮したのであつた。多年黨爭に苦しめられたドイツ國民は、戰爭といふ大きな事件の前に立つて一致協力した。その主義から云つて當然反對を聲明せざるべからざる社會黨が世界の同主義者の惡罵非難を受けながらも、巨額の軍事費に協賛を與へた。純ドイツ人が、腹の底から嫌ひ抜いてゐるユダヤ人に對してカイゼルは特に『わが

新愛なるユダヤ人諸君――』と握手した。仲直りといふことは、一種妙なる快感を覺えるものである が、斯うした大事の前に血と熱とを以て仲直りをしたドイツ國民の擧國一致なるものは、對外的にも對内的にも餘程うれしい事であつたに相違ない。

模範的に忠良なるドイツ人は、すべてを擧げて、祖國の爲めに奉公した。血も命も財産も勞力も、一切を國家のために捧げた。彼等が貯へ持つてゐた金銀貨の悉くを以て戰時公債に應じた。それで滿足せずして、その公債を更に貸付銀行などに質入して金を借り出しては公債の募集に應じた。その結果彼等ドイツ人の掌中には、一箇の金貨も銀貨もなくなつて、たゞ紙の公債證券と、不換の紙幣のみが殘つた。若き子弟は一人のこらず戰場に向つた。勞働者はその全力を擧げて内地勤務に身を委した。女子は出征した男子に代つて、その位置を補ひ驚くべき能力を發揮した。斯くして、戰線にある者も内地にあるものも、同じ熱心と、同じ努力とを以て、國家總動員の實を完全に擧げ、その驚くべき、能率と實力とを發揮した。凡そ國家が一の組織機關として、その整備せる作用を、極度にまで發揮し得る力の程を示すことに於て、ドイツは確かに一の驚異の念を世界人類の上に與へたのであつた。

その苦心努力も、ドイツは世界を敵として戰ふ事に依つて、全く水泡に歸すべき運命に逢着した。經濟的封鎖、外交軍事上の包圍、斯うしたことが、ドイツの頑固な戰鬪力のその根をじり〳〵と締め

つけて行つた。その反應が第一に胃袋にあらはれはじめた。ドイツ七千萬の國民の健康はじやがいもだけでは保つて行けなかつた。戰爭終末期に於けるドイツ人の體格の衰へやうは、著しく目に立つて見えた。その自慢のビール腹は凹んで洋服はだぶ〳〵になつた。首はやせ衰へて、カラの寸法が急にのびた。牛乳の不足は赤兒の健康を害して社會上の大問題として、論議せられるやうになつた。我慢強かつたドイツ婦人は、生活の苦しみに堪へかねてその夫や悴を戰線から返してくれとせがむやうになつた。一面には享樂的氣分が起つて來て、甘い酒、強い酒、煙草などが急に廣く社會全般に行はれるやうになつた。その間にあつて、戰爭成金が贅澤な生活をやつて、一般人民の怨嗟の中心となつた。物資の缺乏は物價の騰貴を誘致したが、一般人民の收入はそれに伴はなくなつて來た。ゆるみ出した人間の體は、なか〳〵恢復が困難であるやうにドイツといふ國家にも、ゆるみが見え初めてからは、收拾すべからざる頽勢が現じて來たのであつた。

一體大正六年（一九一七年）の頃の交戰國は敵味方共に疲れてゐた。そこでドイツも第二回の休戰提議をするやうになり、ローマ法王も休戰のなか立ちをしようとし、イギリスあたりからも休戰のさぐりが起つて居た。しかしやせ我慢に御互の體面とかけ引きをやつてゐる間にロシヤ革命が起つた。それに依つてドイツは東部の敵を失つた。生活當面の問題に苦しんで、平和氣分が盛んになり、休戰

慾が起り、それが輿論となつて事實上休戰提議までしなければならぬ狀態にあつたドイツもロシヤの崩壞と共に急に氣分が變つた。一の大敵をかいたドイツは、此の際に當つて一氣にバリをやつつけろと云ふ氣になつて、忽ちにして衰へかけてゐた軍閥の勢力を盛り返した。そして、もう一戰やれといふことで、奮氣したのがそもそもの誤算であつた。から元氣にまかせて、無制限潛航艇戰などを宣してアメリカを憤慨せしめ、これをも戰渦の中に捲き込んでしまつた。それより未だ惡るい運命がドイツを襲ふた。大正六年(一九一七年)の冬は未だ曾て例のない寒さであつた。それにドイツ人の命の糧であるじやがいもが不作であつた。物資缺乏の上に嚴寒にせめられ、食ふに物なく、焚くに石炭なく老幼は飢ゑ婦女は忍耐心を失ひ、勞働者の氣は日々にさびれて行つた。ドイツ全般にわたる飢の叫びは、實際現實の恐ろしい聲であつた。こゝに一度盛り返した軍閥の勢力も、再び非戰熱の中に溶け込んで行くやうになつた。斯くして何日の間にか革命の流れが全ドイツを洗ひ去るやうになつた。

大戰のはじめ、世界の社會主義者の先覺は、此の戰爭はドイツの社會革命をもつて終結するに相違ないと豫言した。ドイツ革命は、社會革命であるか否かは別として、兎にも角にも世人の所謂ドイツ革命によつて終つたといふ事だけは的中したわけである。ドイツは負けた。戰線の跡をさぐつてみれば、その領土はすん分も侵されず、その開戰當初の軍略に依る戰線も亂れず、豫期された最後の一戰もろくも一敗地にまみれてしまつた。休戰と共にドイツ人の氣はゆるんだ。天下を取つた勞働者は有頂天になつたが、胃袋の問題はなか〳〵單純に彼等を幸福にしてはくれなかつた。肉なく、乳なく、野菜なく、穀類なく、脂のないドイツ人は、先づこの問題で苦しまねばならなかつた。金があつても買へないといふことは、實際つらい事である。敵國に對する心の緊張を失つたドイツ人は、生活と言ふ當面の大敵に對して恐怖を感せずにはゐられなかつた。彼等は賃銀の問題を考へるよりも、食糧そのものゝ存在をもとめるやうになつた。その當時にあつては、事實彼等にとりては、金といふものゝ價値を感じなかつた。金があつても用をなさなかつたからである。

休戰と同時に媾話會議がヴエルサイユに開かれることになつた。世界第一流と稱せらるる政界の巨頭連が集つて膨大なるヴエルサイユ條約なるものを作り上げた。ドイツはその條約に一言半句もさし口をする事を許されずに、これに調印しなければならなかつた。此の條約がドイツに課したところのものは、何人が見ても甚だ重いものであつた。ある經濟學者は、これを以つてヨーロッパの破産と宣した。けれども、大局から見る時、此の過重過大なる負擔は、ドイツにとりては、幸福なる結果をもたらした。捨鉢になり氣のゆるんでゐたドイツ人は、グワンと打たれた此の最後の五寸釘で氣がたつ

た。ドイツの四方は監視牽制役の國々を以て解體せぬやうにとばかり籠をかけられ、聯合國側の所謂一にもドイツ、二にもドイツ、三にもドイツと云ふ標語がドイツ人の民族心をいよ〳〵たかぶらせ、經濟的の大きな負擔は一般民人の次の時代に對する敵愾心をそゝつた。

さはれ、負けたドイツは慘めなものであつた。世界の輕侮と惡罵と嘲笑と卑下とを一身にあつめ、身は貧と飢と疲れと絶望の苦しみに臨まねばならなかつた。一切を擧けて最後の一錢までも祖國のために投じたドイツ人は、戰了つて餘し持つところ一物もなかつた。國としては殆んど亡國の姿であつた。金もなければ力もない。それは國と名が附いても何のほこりにもならないものであつた。世界の多くの人々は實際ドイツを亡國とみなした。その亡國をさゝへて、復興の實を擧ぐべく、ドイツ人は運命づけられた。ドイツの問題は要するに、復興し得るか否かの二者の一にかゝつてゐた。復興の可能性があるものなら當座の不面目などさして氣にすべきことではない。一切の解決者である『時』は果してドイツを如何にさばきするであらうか。戰後こゝに早くも十數年の歲月は經つてしまつた。その十數年の歲月は、ドイツを如何にさばいて來たか、人類興亡の史蹟は、後人に學ばしめるところ甚だ多い。眼前に見るドイツの復興運動の經過に、注目すべき幾多の事象があらう。

二　革命氣分漂ふ伯林に入る

ドイツに初めて行つたのは、大正九年（一九二〇年）の冬のはじめであつた。腐つたミルクのやうな陰慘な雲が低く垂れて、頭をおさへつけるやうな日ばかりつゞいた。骨にまでしみ込んでくる寒さが、北國生れで、寒氣になれきつてゐると內心ほこつてゐた自分のうぬぼれの鼻柱をくぢいた。木は枯れ、川は凍り、見わたすかぎり萬物に生氣なく、野も原も、町も、すべてが骸骨の住家のやうに冷たくさびしかつた。實際冬のドイツは荒寥たるものである。

根城をベルリンに定めた。往來をゆけば飢になやめる子供を救へといふ宣傳ビラが到るところに目についた。そのための示威行列やそのための錢乞ひにうるさいほど出逢はねばならなかつた。乞食も亦多かつた。學校に行く子供はブリキや、アルミニュームのコップをさげて行つた。それはいろ〳〵な慈善會から寄附されてゐるスープを每朝學校で一杯づゝ吸ふためであつた。その頃のドイツ人の身なりはみすぼらしいもので、男も女もみな古い汚れたものをまとふてゐた。家庭の食物は多くじやがいもに限られて肉などは殆んど食へなかつた。しかし、自分の行つた頃にはどうやら肉も買へたが自分より七八ケ月前にドイツに入つた人の話をきくと、第一流の料理店やホテルなどに行つても、いゝ

料理は金を出しても得られなかつたと言つてゐた。またその頃には、何處そこに腸詰があるとか、砂糖があるとかいふ話をきくと、仕事を拋り出して、われ先きに之を求めに馳けつけたものだと語つた。その頃は、未だ食糧品に對する强制經濟政策が、全部解放せられず、肉、砂糖、牛乳、バン、バタ、麥粉、じやがいも、それから石炭などは、政府からの切符がなければ買へなかつた。買へても高い値段を支拂はねばならなかつた。織物とか、衣服とか、靴とか云ふものに對する强制經濟政策は、もう解けてゐた。それは殆ど自然的に解けたものであつた。なぜなればその頃のドイツ人の大多數は、その日〳〵の食にさへ追はれて、衣服身のまはりなどに手をつける餘裕がなかつたからである。

ドイツ人の健康は非常に害されてゐた。子供ばかりでなく一般に榮養不良になつてゐたことは、疑はれぬことであつた。永い間の聯合國の包圍と封塞とに對抗するために、自給自足を實施しなければならなかつた。彼等は、强制經濟政策を確立して極端にまで節制した生活をやつた。肉などは一週一回それもほんの肉と名のつくだけの分量一人分一週二百五十グラム——を交付せられたのであつた。それに媾和條約に依つて殘存したる牛豚の大部分を奪取されたのであるから、戰後日の淺いドイツに於て、肉類の缺乏が甚だしかつたのは故のないことではなかつた。それで彼等はわづかにじやがいもを油にいつて命をつなげなければならなかつた。健

康の衰へたのは無理もない。

斯うした苦しい生活の間にも、カフエーや、バーは、かなり繁昌してゐた。音樂會などは常に滿員であつた。女が男なみに、プー〳〵煙草をふかしたり甘い酒、强い酒などに醉つぱらつたりしてゐる樣は、女はつゝましやかなものと思ひ切つてゐた自分などには、意外な感じをあたへた。聽いてみるとその意外な感じは、自分ばかりでなく、ドイツ人自身もさうであつた。女の煙草と酒は戰前にも行はれたが、斯う大ビラにやる樣になつたのは、戰爭中の出來事だと說明してくれた人もあつた。それかあらぬか、戰後のドイツには、小酒屋が非常に殖えてゐない。統計の示すところによれば戰後ドイツのビールの使用量は、戰前に比して少くも殖えてゐない。コニヤクとかキユラソーとかさうした强い酒甘い酒、リキユールの使用量は、戰前の二割八分の增加を示し、小酒屋の數は四倍にもなつてゐる。つまり、醉と肉の興奮とを求める傾向が著しくなつて來たことを示してゐる。

革命の氣分はその頃にもまだ顯著に殘つてゐた。皇城のあたりや、警視廳の邊りや、リヒンテンベルグや、さうした市街戰のあつた場所に行つてみると、慘しい彈痕が當時の光景を物語つてゐた。往來の壁や、橋や、その他いろ〳〵な場所に貼り出された革命當時の宣傳ビラなどが、その名殘りのかけを、ところどころにとゞめてゐるのも目についた。中には眞赤なペンキで、おそろしげな文句を家

屋の横腹に大袈裟に書きたてゝあるところもあつた。あゝしてはならぬ、かうしてはならぬなぞと云ふ新政府の、告示、訓示なども、うるさいほど目立つた。新旗章の原色刷も到るところに貼り出された。その色刷の中にある、大統領旗は申しあはせたやうにひきむしられるか、鉛筆や、萬年筆で、汚されてゐた。芝居や活動寫眞をみても、革命氣分の横溢したものが多かつた。中でも評判になつたのはダントンの死や、ハウプトマンのウエーバーなどであつた。シルレルのロイバーも仰山な舞臺裝置で演ぜられた。ハウプトマンものは、一の流行でさかんに行はれた。ここに面白い對象は、一面に斯樣な革命氣分が漂ふてゐるのに一面に享樂的氣分が流れた。ライゲンのやうな卑猥な芝居が行はれたり、カタリナ女王や、アナボレンや、ハミルトン夫人とか、云ふやうなフイルムが流行してゐることであつた。フランス革命史を探つてみても、ロシア革命の跡をたづねてみても、殺伐と淫樂とが常に伴つて一世の氣分をつくつてゐる。性慾問題がやかましく考慮せられる時代と、革命思想が横流する時代とは、影と形の如く、相つきまとふてゐることは、世界史實のよくものがたつてゐるところである。革命が遂行された後まで、此の隋性のつゞくのはその然るべきところであらう。

言葉の通じない、事情にうとい、歷史に暗い、而してヨーロッパ生活に不慣れなものが、斯うした初めての土地にやつて來て、たゞ、目にふれ、自ら經驗することに依つてのみ、戰後のドイツなるも

のを判斷しなければならぬといふ事は、實際つらい事の第一であつた。カフエーに行くとか、活動寫眞をみるとか、博物館をたづねるとか、繪葉書を買ひあさるとかたゞかうしたことのみに傾いて行き勝ちなのは、止むを得ないことゝは云へ、はがゆい、かつ殘念なことであつた。自分より先にドイツに入つて、相當生活に慣れてゐる人との話を聽いても、まるで、小學生が鵜呑み敎育を受けるやうな形であつた。しかし物心ついてゐる人々にとつては、それは純心な子供のやうに、聖なる傾聽ではないのであつた。

本を讀んでも、はつきりと胸に落ちるまでには、自分達のやうに中年で語學を初めたものは、殆んど不可能な努力であらねばならぬ。人に對しても肝心の對話が何の用をもなさぬ。一切萬事が厚いつや消しの硝子を透して物をみるやうな感じである。日本に育つて日本の事情に通ずることすら困難であるのに突然飛び込んできたドイツの事情を洞察するなぞといふ事は、考へてみると厚顏無恥と云はうか、無暴と云はうか、鐵面皮と云はうか、顧みて冷たい汗の流れ出るのを禁じ得ないのであつた。國を出る時の特意の夢想が、汗グッショリで目ざめた時に、不可解なドイツといふものが、魔の如く自分の前に立つてゐた。

日常の經驗とか、目の觀察などで、一國の事態を判斷することは、やつて出來ないことではない。

しかし、萬象は、存外永い歴史と、厚い層皮と深い眞實と、おしはかることの出來ない面積とを持つてゐるものである。目に見えるものと、目に見えないものとの間には想像も及ばない隔りのある場合が多い。物を深くみることは、それを深くすることに外ならない。物を仔細に究めることは、それをますます緻密にすることである。栗のいがはあらい。しかし中味を味ふた栗鼠のたとへ話は、われ等にとりて常によいいましめである。ドイツのことはカフエーや、芝居や、下宿や、新聞や、女中やたゞさうした體驗、眼驗、經驗だけでは未だすべてをつくしてゐないやうである。いがをむき、皮を取りしぶを去り、なほその奥にまで行かねばならぬ。

ドイツ革命は一日にして起つたのではない。負けたドイツは、此のまゝに亡びさるわけのものでもない。民族移動の流れに、停滞の象を現じて、國家觀念の燃えさかつた時代から、國境を超越し、自由解放の精神に、天地を生民の住居となすの政論を喚起し、一轉して民族の自覺にその觀念が目ざめかける時代になりさうな頃に處したドイツは、此の兩極端の考へを一丸とした形で、國家として、はた又民族として、倦まざる生長をつゞけようとしてゐる。本態はこの生長の力如何に存してゐる。六千萬の生民に、宿かす、ドイツの山川草木は、此の地球の心核に、燃ゆる地熱の冷え果つるまで、その命を持ちつゞけようと、生長の努力を斷たぬに相違ない。問題はドイツ民族の生長が、地球の終りの

日までこれと伴なひ得るか否かにかゝつてゐる。生長發展の行程に、一盛一衰あるは免れがたいところであるが、衰へたものが、必ず再び盛んになるものとは限つてゐない。一たび衰へたものが、そのまゝ永遠の亡びに陷つて行く場合もある。されば、この間、事相の觀察に餘程の考慮が肝要である。人間は人間として生きてさへをればいゝといふ譯のものでもなく、民族は民族として存在を、地球の最後の日まで持ちつゞければいゝといふわけのものでもない。生存といふ大事實には更に何等かの大きなものが伴つてゐるに相違ないことが、お互に考察を必要とする點ではあるまいか。

三　泥棒と淫賣のふえる社會

寒い冬はなか〳〵去つてはくれなかつた。毎日のやうに、ストーブの前にうづくまつてABCをコツコツくりかへし〳〵學ぶつらさは、寒さと戰ふのと變りはなかつた。語學を學ぶことは味のないものである。つまらぬことに時と精力とを空費して、それで得るところは何ものもない。この年になつて語學をやつたところで、どうせ結局は、役に立たないのだといふ理性的判斷が強く決定をあたへてしまふ。馬鹿〳〵しいが、少し位はわからないと散歩も出來ない。それに口が役にたゝないが爲に、いたづらに神經を過敏にしたり、人を疑つてみたり、下らぬ誤解や、しくじりが引き續き起つて來る。

しやうことなしにＡＢＣをくりかへす。斯うしてゐる間に、冬もすぎて行くであらう、と云ふ考へになる。

シレジヤの人民投票のプロパカンダが盛んに目につく、何か知らぬがストライキが大小ひんぴんとして起る。名譽の負傷者であらう不具者の多いのも、當時の印象の一つである。中部ドイツを中心として起つたヒウルツの共產黨騷動は、一寸人目をそば立たせた。さうかうしてゐる間に春がめざめて來た。日が笑ふと人間の氣もちが明るくなる。その中に物資も目にたつて多くなつて來た、世間の景氣も感じからいつてもなか〳〵よささうになつて行つた。落ち着きと休息とを求めるやうな氣分が湧き一面には復古的な思想も起つて來た。古典的な祭事や舞踏や、舞踏會のやうなものが、盛んに行はれるのもきはだつてみえた。ロンドン會議の決裂もドイツ人には痛快な一幕であつたらしかつた。なぜといへば今にも復興しさうな氣分になつてゐる矢先きで、それに斯うした強がりぶりの好きな國民であつたからである。大會議なるものが次から次へと諸處に開かれ、列國の第一等政治家なるものが、これに列席するために、東奔西走した。まるで御神輿をかつぎ廻るか、顏みせに廻るとか云ふ形で、さうしたことに餘り興味を持たぬわれ〳〵にはをかしくもあつた。

大正九年（一九二〇年）一月十日からヴエルサイユ條約は效力を發生した。その頃一時マルクが急

に落ちたがその後だん〳〵に下落して行つたとはいへ大した急速度ではなかつた。一高一底はあつても、常に人々の心にはもうこれがどん底であらうと云ふ位の樂觀があつた。大正十一年（一九二二年）六月二十四日、ラーテナウが暗殺された。之を轉機として、俄然ドイツには大なる變調を生じた。マルクは釣瓶落しに落ちて行つた。それに更に、加速度を加へたものは、大正十二年（一九二三年）一月十一日のフランスのルール占領であつた。マルクは億兆といふ單位を凌駕して京をも突破しさうになつた。それは今日明日といふ日を以て算することの出來ない下落の速度であつた。一時間前十圓の値打のあつた紙マルクが、一時間後には五圓にも三圓にも減じてゐると云ふ姿であつた政府はこれを法定相場に依つて安定せしめようとしたが、一面に『闇の相場』なるものが起つて、政府のこの試は空に歸した。兩替屋で替へるのと闇の相場で替へるのと、その間に差額が十割以上もあつた。兩替屋で十圓替へるところを、闇の相場で五圓替へれば、兩ふ有樣であるから、闇の相場は非常の景氣を示した。

闇の相場師は往來をうろ〳〵してゐる。通りがゝりの外國人をつかまへては『兩替？』とか『ドラー』とか『フンド』とか云ふ風に小聲で聲をかける。まるで淫賣婦が客を引く形である。兩替しようと思ふ方の側でも、往來をぶら〳〵行つては、あやしげな男をみると、一寸色目をつかつてみる。何

のことはない、男色家が、往來でふざけてゐるやうなものである。それに場所がたいていフリードリッヒ街とか、タウエンチン街とか云ふ風に、公許の淫賣通りときてゐるから、なほその感を深くする。警視廳ではこの闇の相場師狩を大袈裟にやつたが、それは何の利目もなかつた。闇の相場師は、いよいよ繁昌するにつれて、ごま化し屋も多くなつた。他人の相場よりも三割も四割も、多くくれるといふやうな奴にひかゝつて、贋札をつかませられた被害者も決して少いものではなかつた。中にはボンドをみせろとか、ドラを見せろとか、その眞否をためす風をして、其のまゝかつ拂つて逃げ去る代物もあつた。

その頃のドイツは實に暗澹たるものであつた。貧乏人は日に〳〵ふえ、餓死者を出すといふ始末。商賣はなりたゝず、中産階級者は、悉く危機にのぞんだ。此の機に際して、共産黨の大プロバカンダが起り、政治屋は時機來れりとばかり策を弄した。ザクセン問題、バイエルン問題が人心をおびやかし、內亂騷動の危險がせまつて來た。全國に向つて布かれた戒嚴令は、バイエルン問題ザクセン問題と交錯して、混沌たる狀態を現出した。大小の共産黨一揆は、神經をいやが上にもたかぶらした。此の時代のドイツを外からみてゐた人々が、その危險を思ふてドイツ旅行などを、差ひかへたといふは無理もないことであつた。此の危機をドイツは通り越した。ザクセン問題は、かの高壓政策に依つ

て、ツアイグナー政府を力を以てぶつつぶし、共産黨問題も同樣力を以て抑へ、バイエルン問題は、ヒットラー一揆の失敗のお陀佛になつた。而してマルクの問題は、レンテンマルクの發行に依つて、見ん事安定の體裁を作つた。

レンテンマルクが出來て以來、ドイツの樣子は頓服藥を飮んだやうに變つて來た、安かつた物價がめき〳〵と高くなつた。沈澱してゐた商賣が盛んに行はれるやうになつた。整理の名の下に解雇せられた勞働者や役人やその他の失業者が一時非常な數に上つたが、それも何日の間にか何處かに再び收容されて矢釜しかつた失業問題の影もうすくなつた。「値打のない紙に値をつけてレンテンマルクと稱し、これを値打のある外國貨幣で買はして、無理矢理に生活させうとするのは不屆きだ」とあるオランダの新聞が憤慨したが、レンテンマルクの利目は外國人には痛々しい打擊となつた。マルクの安定に依つて、ドイツ人は神經過敏から免れ、生活にある基準の立つたことは非常な强味になつた。それに反して從來相場で生きて來た外國人が、十年の節儉を一時に切りくづされるやうな高價な生活に變つたことは、一つの革命を經驗したことになる。何れにしても、世界で一番安いと稱せられた國から、一躍して世界で一番高い國になつたのであるから、苦情の出るのは無理もない。しかし、ドイツ人そのものから見れば、

外國人が感ずる程に、物價は高くなつてゐないのである。彼等はやつぱり紙で生活してゐるのである

斯うしてちらりと一瞥して見ると、戰後四五年の日月の短いドイツ生活の間に、隨分といろいろな變化を重ねて來てゐる。悲觀的な戰敗國の冬の姿、淡いながらも落ち着をもとめ、復興ののぞみに生活のはけみをおぼえかけた頃の有樣、急轉直下形勢が一變して、混沌亂雜暗黑の時代を現した頃の狀態、それがまた盛りかへして、此の分ならばと思はしむるやうな景氣を示しかけて來た昨今の樣子、一盛、一衰、一憂、一喜、生民の生活の無常轉變を面のあたりにながめ且つ味うて、それに體得するところ果して何ものであらうか。ドイツ人にとつて、それは辛い苦しい試練であらう。第三者にとつては深酷ないましめであらねばならぬ。景氣を立てなほしたとはいへ、ドイツはまだ〳〵苦しまねばならぬ。彼等は苦しみのなかに戰ひつつある。

苦しい苦しいと云ふ叫びが、今もなほドイツ人の口をついて出る。ドイツの窮狀を世界に訴へるその努力は、此の十數年來少しも變らない。ヨーロッパを旅して、一たびドイツに入れば、今日もなほ戰敗國といふ感じがする。仔細に生活狀態をみても、その切りつめたやりくりは、これをみとめないわけには行かぬ。他の國々と比較してみると、ドイツは確かに衰へて居るからと云ふて、それが必ずしも死にかゝつてゐるものとはいへない。

貧を訴へ財政難をかこち、破產を叫んでゐるドイツ人に、目にみて不思議な現象がいろいろある。戰後新築された大工場の數は決して少いものではない。ドイツ內地を旅する人々は、到るところに此の所設工場や、別莊や、家屋などの多いのに目がとまるであらう。商船を考へてみる。ドイツはヴエルサイユ條約に依つて、その商船が全滅と云つてもいゝ位に奪取された。それが今十數年を經た今日に於て、既に戰前の噸數の三分の二を取り返して來てゐる。ベルリンの町を散步してみる。ハレシエストアから、ゼーストラーセに通ずる地下電車が完成して滿員の盛況、なほテムペルホーフ行の地下線は目下盛に工事を急いでゐる。フリードリッヒ驛は擴張されて、その宏莊な鐵骨は、早くも天を蓋うてゐる。ベルリン第一の大歌劇場と稱せられる『クロル』は大正十三年一月から開場された。學問の研究が出來ないといふ聲の大きい中から幾多の科學的發明が、續々公にされつゝある。發聲活動寫眞の如き、飛行撮影測地機の如き、貧乏ものの研究發明とは考へ得られぬ。

通りかゝつて目にうつる二三の事物をみても、右の樣なことが不思議な感を抱かせる。往來の人間のみなりをみても、十年前と今日とは大變な相違である。服もよくなつたが、型も新しくなつて來てゐる。客に招ばれて行つても、十年前と今日との御馳走がまるで變つて、飮物などなか〳〵贅澤になつて來た。宴會や舞踏會に行つてゐると、特にこのことが目に立つ。最初ドイツに行つた頃の宴會や

舞踏會で、スモーキングとか、燕尾服などを必要とする場合が全くなかつたのが、今日では殆んどすべてが之を必要とするやうになつた。斯うした諸現象からみて、ドイツが恢復しつゝありとみなすべきか、否かは別として、兎も角も一般に景氣がよくなつて來てゐるといふことは、爭はれぬことである。

ドイツ人は鈍重である。存外に忍耐力が強い。諸事を處理するに方つて、こつ〳〵と分解し、整理し、どうにかかうにか一事を完成する。工夫心に富んでゐることは、大小いろ〳〵な發明工作品にあらはれてゐる。その事物の善惡を問はず、考へたことはどこまでも、それを實現して見ようとする。外觀甚だ地味で、はでではない。しかも何日の間にか、彼等のなすこと考へることは、形の上にあらはれて來る。貧乏を取り除かうとする工夫と、努力とが、彼等一般の個人々々の間の努力となつてゐる。彼等は一途のものである。自分のなし得るところの技能知識を、金城鐵壁として固守して、ただそれのみを發展せしめようとする。故にドイツ人には專門家がふえて來る。專門以外のことは、全く我知らん顏である。

彼等は自分の職業を、此の上なき天の使命と信じてゐる。此の點にドイツ人の最大特徵が存してゐる。彼等は自分の職業を天賦の使命と信じ、これを固守し、それを樂しんでゐる。職業に高下の差別

を認めぬ。馬車の馭者が得々として「我輩は馭者」であると稱して、その經驗談に花を咲かす。カフエーの門番が門番なることを恥とせずに、反つてその門番なることを誇りがほに人に應接する。ドイツ人程自分の職業職務を尊敬するものは少いであらう。此の點は少くも、ドイツ人の生活に注意するものは、直ぐに氣がついて驚かされるであらう。馭者に對してなんだこの馬車追奴がと云ふ輕蔑の念を以て對してゐる時、先方がその職業を聖化して生存しつゝある事實に衝突して、自ら反つて、人間といふ者を卑下してゐることに恥る場合がある。

生活と職業とが相一致してゐる點に於てドイツ人は全く一の驚異である。彼等はその職を樂しむことゝ、生活を樂しむことゝを全く一致せしめてゐる。彼等は折があつたら商賣替へをしようと云ふやうな根性は殆んど持つてゐない。勿論絕對とは云はない。十一二歲になれば、早くも職業の事を考へ、自己の得意點に向つて進まうとする努力をはじめる。已むを得ずして、自ら得意とするところにあらざるものに、職を得る場合があつても、その本職を決して忘れるやうな事はしない。彼等にとりてその職として奉ずる知識技能は、彼等の生活の全體である。彼等のその職の忠なるはその生活に忠なる所以である。だからドイツ人の間には、つとめ人でも同じ職に三十年とか、四十年とか、ふみ止まつてゐるものが甚だ多い。日本の大使館とか、商館とかに使はれてゐるものでさう云ふ者が多く。而

して之等永年奉公してゐるもののなすところをみれば、決してたゞ俸給に戀々たるのではなく、彼等はその職を樂しみ、自ら色々と研究もし、工夫もし、最も大きな能率を上げようとしてゐる。故に彼等に信頼して、事務を取りあつかはしむるに充分である。ドイツ人がかう同じ職務に永くふみ止まり得ることの一面には、收入の保證があることも一因をなしてゐる。ドイツ人はその收入を定むるに、人間として生活し得る最小額を以て最底額とする。幾らやるからこれで我慢しろと云はれても、それではなかなか承知しない。やる方でも、貰ふ方でも、標準が生活費の、最小限度にあることは、注意しておく必要がある。

斯くドイツ人は一般に、生活と職業とが一致してゐる。從つて彼等はどうしても專門的になる。ドイツ人を使用するにあたつて、お前は何が出來ますか、とたづねた場合に『何でもやります』とか云ふやうな不得要領な返事をするものがあれば、それは大底ロクでなしのものである。彼等は必ず何かその身に、習得するやうに、教育されて來てゐるのであるから、大底何か一つの能を持つてゐる筈である。而してその身についてゐる一藝一能は彼等の全生活をひつくるめてゐるのであるから、勢としてだん〳〵それが深くなつて行く。彼等も又それをつとめる。そこに工夫と發明とが生じて來る。

日本ではよく常識といふことを云ふ。人と相會して、相語る場合に、お互に相當知つてゐることを

必要とする。そこで日本人には、科學も宗教も、政治も法律も、一樣に一通は心得ておく必要が生じて來る。小學校の教科目を、表の通りに實行する必要がある。ところがドイツ人の教育によると、他人の話を理解するだけの力を持つてさへ居ればいゝやうになつてゐる。何も自分で廣く何もかも知つておく必要はない。自分は自分の專門にこもつてをればそれでいゝ。そこで面白いのは、ドイツ人と會談してゐると、各自が自分の專門の經驗や何かを話したり、人から聽いた話をそのまゝ誰がかう話したといふ風に、極めてザックバランである。つまらないことが多いが、自分の專門的經驗談のやうなものは流行に面白い。人と撲を合せると云ふやうな會話は、殆んどない。日本の常識といふことも決して避くべき教育方針ではない。しかし常識のみを重んじて、その人の個性に潜む一つの專門的の力を封鎖するのは、悲しむべき弊害である。一と通りは心得ておく必要もあらうが、一藝一能に長じておく必要もあらう。

鈍重なドイツ人は、存外事物に處してあせらない。あせらずにこつ〳〵やつて、萬事を切り拔けようとする。苦しくても思ひ立つたことは、どうしても、之を成し遂けようとする。そのやり方が甚だ地味であり、のろ〳〵してをり、氣の短い人には齒がゆくもあるがその努力は着々として實現して來る。工業、商業、教育軍事、交通その他いろ〳〵の方面に於て、ドイツは之を復興せしめなくてはな

らぬ幾多の大問題がある。苦しい困つた〳〵と云つて泣き言を世界に向つてコボしてゐる間に、彼等が今日まで築きなした諸般の事業が、われ〳〵の眼前に事實として横つてゐる。紙屑になつたマルクが、幾多の工場となつたり機械となつたり、鐵道となつたり、色々な形に化けてゐる。

泥棒がふえ、殺人强盜がふえ、詐欺がふえ、人わる屋が多くなつて來たと稱せられる一方には、教育の改革、宗教の刷新、といふ問題が大きな運動となつて組織されて來てゐる。現在どうしようかと云ふ計畫は少く見えるが、此の先を如何にするかといふ將來に對する組織が着々として網の目となつて張られてゐる。彼等の鈍重性は常に氣の永いことばかりを計畫してゐる。意識的にやつてゐるのかその點にはつきりしないものが多いけれど、總體を一括して此を檢してみると、全ドイツにわたつて一齊に行はれつゝある諸種の努力が、ドイツ人一流の組織となつて、建設せられつゝあるやうに見える。個人々々が自らの職務を奉じて、生活そのものをたのしみ、かつ發展せしめようとする努力が、全體としてみれば心を合して一緒に物をやつてゐるやうに見える。個人主義的の思想に徹底して、存外頑固な、强慾な點を發揮するドイツ人が、自己の生活と職業を生かすがために社會といふ大きな生活難の中にコツ〳〵と自分の能力をはたらかして、一生活分子の事務をつくしつゝあるかに見える。落ぶれて、さげすまれて、それでやけくそにならぬところにドイツ人の强味がある。

四　戰敗が招いだ物質的打擊

こゝに一人の人があるとする。此の人が一年間に一萬圓の生活費を要するとする。而して、此の人が百萬圓の金を持つてゐると假定する。此の人からかりに、九十萬圓を奪取しても殘るところ未だ十萬圓はあるわけである。此の殘金で生活をつゞけて行くのに、少くともなほ十年ほど生きて行ける。もし此の人が健康體であつて、なほ一層働く餘力があれば、十萬圓の金は優に有效に生きて來る。病體であるとか、或は少し愚かであるとかすれば、そこに少しく不安が伴つてゐる。

戰爭に敗けたドイツは、ヴエルサイユ條約に依つて、大きな打擊を加へられた。その打擊を數字的に見ると實際大きなものである。ドイツではこの數字を差引かれて殘るところのドイツの本質については、少しも、數字を示してゐない。ところが、フランス側卽聯合國側では、ドイツの示してゐる數字はなる程大きいが、此の數字を差引いても未だ此の位は殘つてゐる。ドイツはまだ〳〵餘力があると、プロパカンダをしてゐる。此のプロパカンダは、ドイツ側にも、聯合國側にも缺點がある。最初に、擧げた百萬圓持つてゐる人の例によつて之を見ると、ドイツ人は九十萬圓をプロパカンダし聯合國は十萬圓をプロパカンダしてゐるのであるが、兩者共に生活費の額は之を知らんふりである。若

しこの百萬圓の所有者が、ドイツであるとして、これから九十萬圓奪取した殘りが十萬圓で、ドイツの存立に必要なる額が一萬圓であるとすれば、聯合國の云ひ方に無理はない。しかし、若し之に反して、ドイツの必要なる額が、十五萬圓であるとすれば、十萬圓の殘金に何の價値もない。これならドイツの苦情に理由がたつ。然り而して兩者ともその一萬圓であるか十五萬圓であるかの問題にはふれようともしない。健康問題賢愚の問題などにもふれてゐないのである。しかし、戰敗ドイツの國狀を見るに方つて、此の點に注目しないわけには行かないと思ふ。

大正三年（一九一四年）開戰當時のドイツと、今日のドイツとは、まるで比べものにならない。戰前のドイツは、強大なる軍國であり、偉大なる工業國であり、恐るべき商業國であり、驚嘆すべき學問國であり、正に世界の一等國であつた。然るに戰後のドイツは、四年にわたる戰爭に慘敗し、疲勞困憊の極に達し、產業は萎微し、國土は奪はれ、ヴエルサイユ條約と云ふ桎梏にやむの見るも無慘な亡國狀態である。過去に於ける軍國の誇りも、文化の名譽も、今は全く地に墮して了つた形であるヴエルサイユ條約は如何なることをドイツに强要したか、（一）領土と住民を奪つた。（二）殖民地を奪ひ、その他海外にある利權を剝ぎ取つた。（三）ドイツ本國の重要なる地域を占領した。（四）莫大なる償金を要求してゐる。（五）力を以てその經濟產業を脅威しつゝある。斯くしてドイツ存立の根源は、

殆んど、此の條約に依つて、その根を絶たれてゐる形である。首を斬り、腕を斬り、脚を斬り、斯くして取り殘された胴體が、今日のドイツの姿である。その首、その腕、その脚の容量如何をザット見わたしてみると左の通りである。

	面積	人口	石炭	鐵	亞鉛	麥	馬鈴薯	商船
奮ドイツ帝國（單位百萬）	五四、〇九 平方米	六四、九三人	一九〇、一一噸	二八、六一噸	〇、六五噸	一六、八八噸	五四、一二噸	五、七一噸
條約による喪失（單位百萬）	七、〇五 平方米	六、四七人	四九、一八噸	二一、三〇噸	〇、四四噸	二、六五噸	七、七五噸	五、一一噸
喪失百分率	一三、〇	一〇、〇	二五、九	七四、五	六八、三	一五、七	一八、〇	八九、四

右を今少しく、くわしく見ると、その割讓した土地、